

情況

ヒルドヤード第二旅團長ノ決心

情。況。

ダンドナルド大佐ハランワン山ニ向ヒ前進シタルモ同山ハ未タ敵ノ占領シアルヤ否ヤヲ確實ニセス然レトモ任務ノ命スル所ニ從ヒ之ヲ攻撃スルニ決ス

第二問題

第二問題(宿題)

軍攻撃命令ニ基キダンドナルド大佐ハ如何ニシテ任務ヲ達成セントスルヤ(要圖答解)

問題原案

問題原案
第一問題原案

學生案類別

「ヒルドヤード第二旅團長ノ決心」ニ關スル學生案

- 一、チュゲラ川右岸ノ線ヲ占領シ攻撃ノ目的ヲ以テ渡河ノ爲メ偵察
- 二、概シテ現在ノ線附近ヲ占領シ夜暗又ハ日没ヲ待チ渡河セントスルモノ
- 三、直ニ強行渡河ヲナサントスルモノ
- 四、攻撃ノ目的ヲ以テ渡河準備

原案 (附圖第五參照)

理由

先ツ理由ヨリ記セン

理由

一、チュゲラ河左岸ノ敵陣地ハ堅固ニシテ其砲兵ハ毫モ沈黙ノ色ナク盛ニ威力ヲ逞フシツツアリ英軍ノ攻撃ハ豫期ニ反シ眞面目ノ抵抗ニ遭遇シ又敵陣地左翼ノ據點タルランワン(Hill-Swane)山ハ依然之ヲ占領シ敵兵毫モ萎靡ノ色ナシ此ノ如キ敵ニ對シチュゲラ河ノ大障礙ヲ越ヘテ行フヘキ攻撃ハ宜シク軍ノ主力ヲ擧テ之ヲ攻撃スルト同時ニ先ツ充分ナル準備射撃ヲ以テ敵ヲ壓スルヲ必要トス又一方ニランワン山ヲ先ツ奪取スルコト緊要ナリ軍ノ攻撃ハ全クブルラー大將ノ豫期ニ反シ經過セリ

二、旅團ノ任務ハコレンソーノ鐵橋ヲ經テ其北方高地ヲ占領スルニアルモ此ノ如キ敵前近距離ニ於テ而モ其歩砲兵ノ集中火ヲ受ケツツ一條ノ橋梁ヲ越エテ攻撃スルハ最モ困難ニシテ目下ノ情況ヲ基礎トシ之ヲ實行センカ爲メニハ左ノ要領ノ何レカニ依ラサル可ラス

一、チュゲラ河右岸ニ於テ歩砲兵ノ充分ナル準備射撃ヲナシ強行通過前ニ於テ敵ヲ充分壓倒シタル後渡河ヲ決行スルコト

二、晝間充分敵ヲ擊壓シ夜暗ニ乘シ渡河スルコト

三、多數ノ渡河點アリテ準備射撃ノ下ニ渡河シ得ルコト又ハ、山口旅團ノ進出ニ依リ渡河

コレンソー附近ノ戰闘

ノ實施容易トナリタルトキ

然ルニ目下砲兵第一大隊ハ多大ノ損害ト彈藥補充ノ困難トニヨリ旅團渡河ノ爲メ直接援助射撃ヲナス能ハス又砲兵第二大隊及遠ク後方ニアル海軍砲ノ協力ハ全ク不確實ニシテ今ヤ直接有効ニ旅團ニ協力シ得ルハ單ニ附近ニアル海軍砲若干ニ過キス又此旅團ハ未ダ充分進出セス軍ノ主力ハ尙戰鬪ニ參加セス此時機ニ於テ此旅團カ單獨猛進シテ至難ノ渡河ヲ決行スルハ一見此旅團ノ前進ヲ容易シ各隊協力ノ本旨ニ適セル勇敢ナル行動ナルカ如キモ此ノ如キハ暴勇ニシテ何等成算ノ基礎ナク却テ敵ヨリ各個擊破ヲ受クル恐レ大ナルノミナラス牽テ軍全般ノ攻撃實施ニ一大困難ヲ來スノ患アリ今ヤ敵情明瞭トナリタル上ハ軍ハ其部署ヲ新ニシ主力ヲ傾注シテ敵ヲ攻撃セサルヘカラス故ニ旅團ハ此軍全般ノ情況ヲ達觀シ軍全般ノ爲メ成算ナキ過早ノ猛進的各個攻撃ヲ避ケ一時渡河ヲ見合セコレンソー附近ヲ占領シテ戰鬪ヲ繼續シ渡過ノ爲メ河川ヲ偵察シテ爾後ノ攻撃ヲ準備シ爾後軍ノ新部署ニ基クカ或ハ砲兵ノ援助及前面ノ敵ニ對スル制壓ニヨリ渡河ヲ決行シテ前面ノ敵ノ攻撃ヲ比較的有利ニ斷行シ得ル迄戰況ノ發展ヲ待ツヲ可トス

決心

旅團ハコレンソー附近ヲ占領シ爾後ノ攻撃ヲ準備セントス

第二問題原案

(附圖第五參照)

其一、Dundonald 大佐ハ如何ニシテ任務ヲ達セントスルヤ(要圖答解)

右原案

方針

成ルヘク速ニ成シ得レハ主攻撃ニ先ンテ Hlangwane 山ヲ占領シ同山方面ヨリ軍ノ主攻撃ヲ容易ナラシメントス

行動ノ要領

- 1. Hlangwane 山攻撃ニ關シ旅團カ主攻撃ニ先チ同山ヲ占領スルハ軍ノ主攻撃ヲ容易ナラシムル爲メ最モ必要ナリトシ同山ニ對シ拂曉攻撃ヲ實施スルノ可ナルヲ意見具申ス其許可ヲ得タル場合ニ在リテハ旅團ノ行動ハ次ノ要領ニヨル
 - (1) 準備出來次第輕騎兵第十三聯隊ノ一中隊ヲ派遣シ主トシテ Hlangwane 山ヲ搜索シ猶該山ノ北方及東方ヲ搜索シ其主力ハ Glomba Bach ノ合流點南方附近ニ在リテ旅團主力ノ到着ヲ待タシム
 - (2) 主力ハ午前一時出發旅團司令部輕騎兵第十三聯隊(一中隊ト二中隊缺)乘馬部隊、砲兵中隊、騎兵ノ一小隊ノ順序ヲ以テ一小隊ノ警戒隊ヲ前方近距離ニ出シ Gun Hill 東

コレンソー附近ノ戰鬪

方高地ノ東北方 Colenso-Weenan 街道上ニ向ヒ前進

(3) 次テ搜索ノ結果ヲ基礎トシ攻撃計畫ヲ定ムルモ其攻撃腹案概要ハ左ノ如シ

(イ) 主攻撃ハ Hlangwane 山東方ヨリ指導ス即チ乘馬旅團ヲ以テ敵ノ左翼ニ向ヒ又輕騎兵

第十三聯隊ヲ以テ敵ノ左側背殊ニ背後ニ向ヒ攻撃セシメ特ニ北方ニ對シ警戒セシム

(ロ) 砲兵ハ Glomba Bach ノ合流點西方約二千米即チ圖上ニ示ス敵陣地ヲ隔ツル二千米

附近ニ於テ旅團ノ攻撃ヲ援助シチユゲラ川左岸ノ敵ニ對シ成ルヘク遮蔽シテ陣地ヲ

占領

二、意見具申採用セラレサル時ノ旅團ノ行動ハ次ノ要領ニ依ル

(1) 輕騎兵第十三聯隊ノ一中隊ハ夜半出發(任務同前)

(2) 主力ノ前進目標前進ハ概ネ第一項ノ(2)ニ同シ但シ成ルヘク迅速ニ前進セシメ其行進路

ハ Gun Hill 東方高地ノ南側ヲ經テ前進シ出發時刻ハ命令ニ示サレタル通り

(3) 攻撃腹案ハ前述第三項ニ同シ

三、Hlangwane 山ヲ占領セハ成ルヘク砲兵ヲ同山上ニ搬致シ敵ヲ側背射シ其他ハ側背ヨリ敵ヲ

攻撃シ主力ノ攻撃ヲ援助スルコトヲ努ム

四、攻撃効ヲ奏セサレハ軍司令官ニ報告スルト同時ニ Paton 旅團ニ一部ノ増援ヲ請求シ已ムヲ

得サルモ軍ノ右側ヲ掩護ス

理由ノ概要

一、Hlangwane 山ヲ主攻撃ニ先チ略取スルノ必要ハ前述ノ如シ故ニ軍全般ノ爲メ意見具申ヲ爲

スハ必要アリ若シ其採用セラレサル場合ニ在リテモ同山ヲ迅速ニ占領スルノ必要アルカ故

ニ速ニ搜索機關ヲ前方ニ派遣シ同山方面ノ情況ヲ迅速ニ知得シ攻撃著手ヲ迅速ナラシムル

ヲ要ス

二、行進路ハ行進ノ混雜ト敵ニ暴露スルトヲ避ケ又動作ノ自由ヲ得ルト行進ノ便ナルコトノ爲

メニモ Gun Hill 東方高地ノ南側ヨリ前進スルヲ有利トス何トナレハ該高地北側ヲ前進セ

ハ水流ノ通過ヲ要シ天明ニ至ラハ敵火ヲ被ムルノミナラス敵陣地ニ對シ斜メニ前進シテ展

開スルノ不利アレハナリ

三、天明後敵陣地ニ近ク接近シテ其兵力ヲ集結スルハ適當ナラス其集結地ハ動作ノ自由ヲ得ル

爲メ敵砲兵ノ効力外ニ位置セサルヘカラス之レカ爲メ最初兵力ノ集結地ハ Glomba Bach 合

流點ヨリ一層南方ニ選フヲ適當トス

四、Hlangwane 山ノ攻撃ハ Colenso 北方高地ニアル敵ノ砲兵火ヲ避ケ且ツ自己ノ運動性ヲ利用

シ敵ノ弱點ニ乗スル爲メニハ輕騎兵第十三聯隊ヲシテ敵ノ背後ヲ、乘馬旅團ヲ以テ東方ヨ

西方ニ敵ハ左翼ニ向ヒ攻撃セシムルヲ可トス

情況

ダンドナルト大佐方面

奇襲的射撃

第六款 情況 (附圖第五參照)

ダンドナルト大佐ハ乘馬歩兵約八百ヲ以テランワン山 (Hilarywane) ニ向ヒ前進シ其砲兵ハ低地ニ放列ヲ布置シ攀登シツツ前進スル攻撃ヲ援助セリ、乘馬歩兵ハ初メグロムバツハ (Gromb a Bach) ノ谷地ニ下馬シ午前八時ヨリ攻撃ヲ開始セリ、輕騎兵第十三聯隊ハ其右翼ニ前進セリ
ボーア軍ハ初メ英軍ニ對シ何等ノ射撃スルコトナク陰蔽シアリシカ英軍ノ近距離ニ前進シ來ルヲ待チ奇襲的ニ射撃ヲ開始ス之カ爲メ同旅團ノ前進ハ大ニ躊躇シ旅團ハ急速ニ展開ス英軍ハ勇ヲ鼓シテ前進セルモ遂ニ前進スル能ハサルニ至レリ當時其砲兵中隊ハ其四門ヲ以テ Fort Wylie ノ高地ニ、殘餘二門ヲ以テ自己ノ攻撃ヲ援助射撃セルノミナリキ、前面ノ高地ニ據ルボーア軍ハ良好ナル掩護物ヲ利用セルモ其ノ兵力ハ略我ト同等ナルモノノ如シ

問題

問題 (即席)

ダンドナルト大佐ノ決心

原案

依然攻撃ヲ續行セントス

此場合ニ於テハ勿論自己ニ屬セル全火砲ヲ以テ前面ノ敵ヲ射撃シ輕騎兵聯隊ヲシテ敵ノ左側背ヲ脅威攻撃シ依然當面ノ敵ニ對シ攻撃ヲ續行スヘキナリ

情況並所見

第七款 情況並所見 (附圖第五)

然ルニダンドナルト大佐ハ敵ノ左翼ヲ包圍スル目的ヲ以テ現ニ展開セル第一線ノ一部ヲ右翼ニ移動シタルモボーア軍亦其後方部隊ヲ以テ之ニ對セシメタルヲ以テ包圍ノ目的ハ何等達スルヲ得ス而シテ大佐ハ其輕騎兵聯隊ニ對シテハ何等區處スルコトナク却テバルトン少將ニ増援ヲ請求セリ此ノ如キハ適當ナラス勿論増援ノ請求不可ナキモ自己ノ方寸ニヨリ斷乎トシテ前面ノ敵ヲ破摧スルノ部署ヲ講セサル可ラス

ハート旅團方面ノ情況

第八款 ハート旅團方面ノ情況

ハート少將ハ常ニ戰鬥ニ於テハ可成永ク軍隊ヲ集結掌握スルタメ散開ハ成ルヘク遅キヲ可トスルノ意見ヲ有セリ同旅團ハ豫定ノ如ク前進ヲ起シ Dornkop spruit ノ狹谷ヲ大隊縱隊ノ隊形ヲ以テ前進ス此前進ニ際シ嚮導タリシ土人ハ路ヲ誤リ Tugela 河ノ渡河點ニ達スル爲メ左折スヘキヲ右折セリ之レカ爲メニ目的地タルブリツドル、ドリフトニ到着スルコト能ハサリキ獨リ土人ヲ信賴シタルハ不可ナリ地形ト前進路ノ偵察ハ適當ニ準備シ置カサル可ラス

コロンソー附近ノ戰鬥

時ニ天漸ク明ケナントシ Royal Dragon 騎兵聯隊ヨリチユゲラ川左岸ニハ多數ノ敵兵アリトノ報告ヲ受ク當時其先頭大隊ハ展開間隔ヲ有スル中隊ノ側面向隊形ヲ併列シテ前進シ次ノ大隊ハ尙ホ狹谷内ヲ前進中ニシテ其先頭ヲ以テ將ニ此狹谷ヲ出テントスル時轟然タル響ト共ニ Hill 方向ヨリ一砲彈飛來セリ同時ニ前岸ノ歩兵モ射撃ヲ開始シ尙ホ Globes Kloof 方向ヨリモ敵ノ砲火ヲ受ク茲ニ於テ第一線ハ散開シ對岸ノ敵ト射撃ヲ交換セリ其距離ハ明瞭ナラサルモ後年ホーアノ Toubet 將軍ノ著書ニ依レハ八百米乃至千米ナリキト

第一線ノ部隊ノ中若干部隊ハ前進ヲ繼續シ河岸ニ達セリ當時旅團ニ屬セル砲兵ハ Dornkop Spr 西方高地ニ陣地ヲ占領シ射撃セル敵ノ砲兵及歩兵ニ對シ射撃ヲ開始セリ旅團ノ一部ハ渡河ヲ試ミタルモ水深キ爲メ悉ク失敗シ其若干名ハ溺死セリ此ノ如クニシテ渡河ハ斷念セラレ唯敵ト射撃戰闘ヲ繼續シ旅團ノ損害漸次増加ス又徒涉點附近ノ河水中ニハ敵ノ鐵條網設置セラレアリタリトイフ

問。題。(試問)

ハート旅團長ノ決心

原。案。

戰闘ヲ繼續シテ爾後ノ攻撃ヲ準備シ戰況ノ發展ヲ待ツノ外案ナシ

情況

第九款 情 況

(附圖第五參照)

Barton 少將ハダンドナルド大佐ノ増援請求ニ接シ且ツ同方面及此時以前迄ノ情況ノ概要ヲ知ル

問題

問。題。(即席)

バルトン少將ノ決心

右問題ニ對スル學生案

學生案類別

學生案ヲ類別スレバ概要左ノ如シ

- 一、一部ヲ以テダンドナルド大佐ヲ増援シ主力ハ現在地ニ位置シ又ハコレンソー附近ニ前進セントスルモノ
- 二、其兵力ノ半部ヲ以テ増援セントスルモノ
- 三、其主力ヲ以テ増援シ一部ヲ以テ現在地ニ停止セントスルモノ
- 四、全力ヲ以テ増援セントスルモノ
- 五、増援セス依然情況ノ發展ヲ待タントスルモノ

原案

原。案。決。心。

主力ヲ以テダントナルド旅團ヲ援助シ其一部ハ依然現在地ニ在ラシメントス

コレンソー附近ノ戰闘

理由

一、軍ノ攻撃ハ至ル所成功セス而シテ Hlangwane 山ノ略取カ軍全般攻撃ニ大ナル價值ヲ有ルコト益々明瞭トナレリ軍ノ攻撃ハ先ツ同山ヲ略取シ主力ヲ傾注シ攻撃ヲ敢行セサル可ラス然ルニ Dundonald 旅團ハ其攻撃毫モ發展セス若シ失敗ニ陥ラハ Hildyard 旅團ノ側背ヲ危険ナラシムルノミナラス延テ軍爾後ノ攻撃ニ大ナル支障ヲ來スカ故ニ同高地ハ成ヘク速ニ奪取ニ努メサル可ラス

二、旅團ノ任務ハ Dundonald 旅團及 Hildyard 旅團ノ援助ヲ主トス然ルニ Hildyard 旅團ハ猶ホ後方ニ二大隊ヲ有シ直チニ援助ノ必要ナク而モ Iytelton 旅團ハ任務上要スレハ之ヲ援助シ得ヘシ

故ニ Hlangwane 山ニ對スル乘馬旅團ノ攻撃ヲ援助スルハ今ヤ絶對ニ必要ナリ而シテ之ヲ有効ニ援助センカ爲メニハ此際一大隊ノ如キ僅少ノ兵力ニテハ不充分ナリ宜シク主力ヲ以テ之ヲ援助シ以テ速ニ先ツ同山ヲ略取シ爾後有効ニ Hildyard 旅團ヲ援助スルコト緊要ナリ然レトモ此動作ハ尙獨斷ニ屬シ兵力ノ全部ヲ擧ケテ援助スルハ少シク極端ナルト旅團本來ノ任務ヲ顧慮シ此際有効ニ乘馬旅團ヲ援助シ得ルカ爲メ旅團長自ラ其主力ヲ指揮シ Dundonald 旅團ヲ援助シ其一部(一大隊)ヲ現在地ニ殘置スルヲ可トセン

(直チニクレリー中將ニ報告スヘシ)

第十款 バルトン旅團方面ノ情況並所見

バルトン旅團ノ情況
バルトン少將ノ獨斷力
缺乏

バルトン少將ハ司令官ヨリノ命令ナシトシダンドナルド大佐ノ請求ヲ拒絕セリ爾後ランワン山方面ノ戰況發展セス何ソ獨斷ノ能力ニ缺如セルノ甚シキヤ

又ダンドナルド大佐部隊ノ攻撃精神及指揮ニモ不充分ノ點アリシカ如シ

第十一款 一般ノ情況

一般ノ情況
問題

コレンソー附近ニ於ケルハート旅團ノ攻撃ハ全ク進捗セス又同地附近ノ英軍砲兵ハ依然沈黙ノ状態ニアリ Hlangwane 山ハ依然敵兵之ヲ維持スブルラー大將ハ午前九時三十分各方面ノ狀況少シモ進捗セサルヲ知ル時正ニ炎熱熾烈ニ向ヒ南阿日中ノ苦熱至ラムトス

問題 (宿題)

學生案類別

午前九時三十分頃ニ於ケルブルラー大將ノ決心
右問題ニ對スル學生案

- 諸君ノ作案ハ概要左ノ九案ニ分タル
- 一、夜間渡河シ拂曉敵ヲ攻撃セントスルモノ
- 二、先ツ Hlangwane 山ヲ占領シテ情況ノ發展ヲ待タントスルモノ

コレンソー附近ノ戰團

- 三、夜襲ヲ行ハントスルモノ
- 四、拂曉渡河ヲ決行セントスルモノ
- 五、退却セントスルモノ
- 六、チュゲラ河下流ヨリ迂回シ敵ノ背後ヲ攻撃セントスルモノ
- 七、Springfield 方向ヨリ迂回セントスルモノ
- 八、日没ヲ待チテ決心セントスルモノ
- 九、依然晝間攻撃ヲ遂行セントスルモノ

原案

原案
決心

直チニ一部ヲ以テ Hangwane 山ヲ攻略シ其他ハ概シテ現状ヲ維持シテ爾後ノ攻撃ヲ準備シ本夜半渡河シ明拂曉ヨリ前面ノ敵ヲ攻撃セントス

理由

- 一、各方面ノ戰況今ヤ盡ク不利ナリト雖モ第一線旅團ハ未タ全兵力ヲ展開セス其後方ニハ尙殆ト全兵力ノ半数ニ等シキ二個旅團ノ戰闘ニ參與セスシテ健在スル在リ故ニ未タ決シテ攻撃

ヲ斷念スルノ理由ナシ宜シク今ヤ豫期ニ反セル敵情ノ漸ク明瞭トナレルニ鑑ミ後方部隊ヲ使用シテ戰闘ノ一轉機ヲ促シ敵ヲ擊攘スルニ努メサル可ラス

- 二、チュゲラ河ノ大障礙ヲ控ユル廣大ナル敵陣地ハ正面到ル所堅固ナリ而シテ敵ノ右翼ニ對スル攻撃ハ砲兵ノ援助射撃不十分ナルト敵ヲ包圍シ得サルト、レツド、ヒルニ衝突スル不利アリ、其中央方面ニ對スル攻撃ハ河川ノ景況最モ不利ナルト敵陣地ノ凹角ニ向ハサル可ラス之ニ反シコレンソ一附近ノ敵陣地ハ制高大ナル Hangwane 山ニシテ我有ニ歸センカ砲兵ヲ以テ敵陣地ヲ側背射シ且敵ヲ包圍シ得ルトコレンソ一鐵橋ノ外コレンソ一西南河川ノ突出部附近ニ於テハ架橋渡河比較的便ナリ故ニ軍ノ攻撃ハ一部ヲ以テ敵陣地ノ右翼方面ニ主力ヲ以テコレンソ一及敵ノ左側ニ向フヲ適當トス然レモ攻撃ノ部署ハ著シク河川ノ景況上ヨリ差異アルヲ以テ充分偵察ヲ行ヒ此結果ヲ顧慮シテ定ムルヲ必要トス

- 三、ランワン山ノ占領ハ既ニ述タルカ如ク攻撃進展ノ爲メノ立脚點ナリ宜シク速ニ之カ占領ニ努メ野砲殊ニ海軍砲ヲ同地ニ進メ敵ノ側背ヲ砲撃スルニヨリ軍ノ攻撃ハ大ニ容易トナルヘシ又敵ノ左翼ノ包圍ハ同方面ヨリセサル可ラス爲之速ニバルトン旅團ノ全部ヲ以テダンドナルド旅團ヲ援助シ速ニ同高地ヲ占領スルニ努メサル可ラス

- 四、戰線ヲ整理シ新計畫ニ應シ部署ヲ定メ砲兵ノ彈藥ヲ補充シ攻撃ヲ敢行スルハ縱合ランワン

コレンソ一附近ノ戰闘

山速ニ我有ニ歸スルト雖モ敵ニシテ頑強ニ抵抗スル以上日本攻ヲ晝間ニ實施スルコト困難ナリ

チユゲラ河ノ超越ハ多數ノ渡涉點ナキ限り之ヲ夜間ニ實施セサル可ラス又戰線ノ整理及コレンソー附近野砲兵彈藥ノ補充並架橋ハ之ヲ夜間ニ行フヲ必要トシ諸偵察及準備ニハ充分ナル時間ヲ要ス

五、夜間チユゲラ河ヲ渡河シ夜襲ヲ實行スルハ一策ナリト雖モ敵ノ妨害ヲ受ケツツ此ノ如キ大障礙ヲ超越シ更ニ隊伍ヲ整頓シテ有利ニ夜襲ヲ一夜中ニ實行シ得ヘキヤハ頗フル疑問ナルト又兵力ノ優勢ヲ利用シ得サルノ不利アリ寧ロ夜半渡河ヲ實行シ堅固ニ該河左岸ニ立脚地ヲ占メ拂曉ヨリ一舉攻撃ヲ實施スルヲ可トス

六、攻撃ノ爲メノ兵力使用ハ徒涉點ノ特ニ多數存在セサル限り一部(半旅團)ヲ以テ *Bridle Drift* 方面ヨリ、主力ヲ以テ敵ノ左翼及左側背ヲ攻撃スル爲メコレンソー鐵橋及コレンソー西南回鑿部(架橋)並ニ *Hangwane* 山西側及西北側地區(架橋)ヨリ攻撃セシムルヲ要ス

直接ナスヘキ處置ノ概要

一、*Bartın* 少將ヲシテ部下旅團 *DunDonald* 大佐ノ部隊ヲ併セ指揮シ *Hangwane* 山ヲ占領シ敵

陣地ノ左翼及河川ノ情況ヲ偵察セシム又コレンソー南方海軍砲及其他ノ海軍砲ヲシテ此攻撃ニ協力セシム

二、第一線旅團ハ現狀ヲ維持シ敵情及地形殊ニ河川ノ景況ヲ詳細ニ偵察セシム

三、決心及計畫ノ大要ヲ回光通信ヲ以テ *White* 將軍ニ通報シ適宜軍ノ攻撃ニ協力スヘキコトヲ命ス

四、爾今自ラ直接軍ヲ統帥ス

五、特ニ架橋ニ對スル準備ヲナシムルヲ必要トス

第三節 爾後戰況ノ概要並ニ英軍ノ退却 (附圖第五參照)

(以下戰況ニハ尙研究スヘキ問題尠カラサルモ研究時間ノ都合上之ヲ省略シ概要ヲ述フルニ止ム)

ブルラー大將ハ敵兵寡弱ニシテ大ナル抵抗ヲナサ、ルヘシト豫想シ戰闘ヲ開始セシカ其豫期ニ反シ眞面目ナル抵抗ニ遭遇シ今ヤ敵ノ兵力ヲ一萬五千ト計上シ又海軍砲兵ハ敵ノ砲數ヲ二十門ト計算セリ大將ハ敵ノ眞面目ノ抵抗ヲ豫期セサリシ原攻撃計畫ハ今ヤ實施到底不可能ト認メ且ツ砲兵ノ不成功ハ戰闘ヲ中止スルヲ至當ナリト判斷シ遂ニ午前九時三十分退却ニ決心ス、指揮

ブルラー大將ノ樂觀悲觀ニ變ス

コレンソー附近ノ戰闘

英軍ノ退却

英軍ノ損害

官ノ決心ハ須ク剛堅ナラサル可ラス戰況打開ノ途尙存セルニ今ヤ退却ニ決ス噫茲ニ於テ彼ハ更ニ Long 大佐ノ砲兵ヲ退却セシメントセシモ多大ノ損害ヲ蒙リテ失敗シ僅ニ右ノ内二門ヲ大尉 Schofield ノ幸運ナル努力ニヨリ後退セシメ得タルニ過キス午前十一時 Buller 將軍ハ砲兵ノ撤退ヲ斷念シ歩兵ノ退却ヲ開始セシメコレンソノ南方ニ在リシ海軍砲ハ野砲ノ鞍馬ニ依リ退却セシメタリ

英軍晝間ノ退却ハ頗フル困難ニシテ特ニ敵ニ近接セル Hildyard 旅團ハ多大ノ困難ニ遭遇シ漸ク午後三時三十分各部隊ハ其戰鬪地ヲ去リ Chieveley ノ舊野營地ニ集結スルヲ得タリ

ボーア軍ハ午後四時始メテ Tugela 河ヲ渡河シ追撃ヲ開始シ英軍 Bullock 大佐ノ指揮スル Hildyard 旅團ノ小部隊ハ Colenso 附近ニ於テ抵抗シタルモ忽チニシテボーア軍ヨリ包圍セラレ將校九、卒一五〇ハボーア軍ノ捕虜トナル

此日ノ戰鬪ニ於ケル英軍損害ハ次ノ如シ

將校	卒	計
六	一四六	一五二
傷	七二三	七六五
行術不明	四	三三七

而シテ此戰鬪ニ參與セシ第一線旅團ノ六大隊中兩旅團共概ネ兵員ノ一五%ノ損害ヲ受タリ其他火砲十門彈藥車(填實シタルモノ)九車輛ヲ敵手ニ委ス

第四節 ボーア軍方面ノ情況 (附圖第五參照)

一般ノ配置
陣地及部署

チユゲラ河方面ボーア軍總指揮官 Luis Botha ハ Tugela 河後方ノ陣地ニ約五六千ノ兵力ヲ集結シ此内約八百人ヨリ成ル各一隊ヲ其陣地ノ右前方 Springfield 附近及左前方 Wenen 附近ニ派遣セリ而シテ Ladysmith ニハボーア軍ノ攻城ニ任セル約一萬及砲二十八門ノ兵力アリ

ボーア軍ノ陣地ハ附圖第五ニ示セルカ如ク陣地ヲ築設セラレ Luis Botha ハ英軍ノ砲撃ニ對シテハ決シテ答射セサルコトヲ命セリ

戰鬪當日ボーア軍ハ天明ト共ニ天幕ヲ撤シ敵ニ目標ヲ暴露セシメサルニ努ム英軍砲撃間守兵ハ全然掩護物内ニ遮蔽シ其戰鬪陣地ハ唯若干ノ監視哨之ヲ占領シアルノミ又英軍ヲ欺騙スル爲骨テ英軍ノ築設セルチユゲラ河ニ近キ位置ニ在ル散兵壕及自己ノ戰鬪陣地ノ前方ニ散兵及砲車ノ標的ヲ配置セリ其砲兵ノ内火砲五門及機關銃一、Red Hill 及 Groblerskloof 附近ニ於テ特ニ Colenso 及同地ヨリ上流ノ徒涉場ヲ射撃シ得ル如ク配置セラレ

Luis Botha ハ又敵ヨリ Hlang wane 山ヲ占領セラレ又ハ Red Hill 方面ヨリ包圍セララルトキハ陣

地ヲ撤退セサル可ラサルニ至ルコトヲ憂慮シ且又英軍 Springfield 又ハ Vaalkrans ヲ經テ Ladysmith 方面ニ迂回セントスル英軍ノ作戰ヲ顧慮セリ之レカ爲メ Hlangwane 山及 Dornkop Spruit 附近 Alter Kraal ハ約八百人宛ノ一部隊ヲ以テ之ヲ占領セシメタリ

チユゲラ河ノ水深ヲ増加スヘキ堰堤ハ之ヲ設置セラレス又同河ノ徒涉場ヲ開塞スヘキ鐵條網ハ一般ニ設置セラレサリキ(英軍側ノ報ニヨレハ Bridge Drift ハ鐵條網ニテ閉塞セラレタリト)

Luis Botha ハボーア人ノ優秀ナル射撃能力ハ能ク英軍ノ正面攻撃ヲ擊退シ得ヘク又必要ニヨリ之ヲ要スヘキ方面ニハボーア軍ノ機動力ニ依リ容易ニ増援隊ヲ派遣シ得ヘシト確信セリ

十二月十五日早朝ボーア軍ノ兵力ハ次ノ如ク區分セラレタリ即チ最外翼ニシテ高キ「ゴム」樹ヲ繞ラセル Robinson Farm ノ西方迄ハ Andries Cronjies ノ指揮スルオレンヂ自由國ノ部隊、次テ同 Farm 並ニ Kraal 東方迄ニ Swaziland 及 Zoutspanberg, Ermelo, Standerton 及 Middelpberg 隊ニシテ其兵力千八百乃至二千ヲ算シ次テ Colenso 北方高地ノ防禦ニ Boelsberg, Heidelberg, Vrijheid 及 Krügersdolf 隊ニシテ銃數約千五百並ニ前日之ヲ撤去セシ Hlangwane 山ハ再々此日午前二時以來約八百人ヨリ成ル Wakerstrom 隊之ヲ守備ス

輕砲三門ハ Colenso 北方高地ニ又十二瓏榴彈砲一門ハ Red Hill ノ東方斜面ニテ Ladysmith ニ通スル街道上ノ兩側ニ各一門ヲ、又 Red Hill 東南方及鐵道橋ノ北方約二千米ノ高地ニ野砲各一

問題

門ヲ配置セリ、而シテ此各砲兵ノ位置ハ頗ル巧ニ撰定セラレ蔭蔽シテ運動シ得ル如ク配置セラレ十二月十四日以來英軍ノ攻撃ノ意志ハ明瞭ニボーア軍ニ看破セラレボーア軍ハ戰備ヲ嚴ニセリ、

又 Luis Botha ハ間諜ニヨリ此日早朝ヨリ英軍ハ純然タル正面攻撃ヲナスヘキコトヲ知リタルカ如シ此事實ハ同將軍カ全然豫備隊ヲ取ル所ヲ避ケタル所以ナランカ

Luis Botha ハ英軍カチユゲラ河ヲ渡河セントスル時其瞬間ヨリ射撃ヲ開始スヘキヲ命シ又此奇襲的射撃ヲ良好ニ實施シ得ンカ爲メ Hlangwane 山守備隊ノ外同河右岸ニ在リシ部隊ハ盡ク其左岸ニ後退セシメタリ又自由國ノ部隊ハ英軍ノ左翼ニ向ヒ前進スヘキ命ヲ受ク

Luis Botha 及 Colenso 北方高地ノ一砲車ノ近傍ニ在リ此高地ヨリスル砲火一發ハ射撃開始ノ記號トセラレ

爾後ノ戰況ハ英軍攻撃經過ニヨリ概要明瞭ナルヲ以テ省略ス

問題 (宿題) (原案ハ第六節最後ノ觀察ヲ參照スヘシ)

コレンソーノ戰鬪ニ關スル最も主要ナル所見及所感

第五節 コレンソー附近ノ戰鬪別記 (ホワイト將軍方面ノ情況)

第一款 情 況

ブツラー大將カ敵兵ヲ過大視シ戰況ヲ悲觀シ遂ニ退却ニ決セルコト前述ノ如シ之ヨリ先ホワイ
ト將軍ハウエーネン、レデイスミス間ノ回光通信ニヨリブツラー將軍ト連絡ヲ通シ英軍ノ決戰
攻撃ハ十七日ノ豫定タルヲ承知シアリシカ十二月十五日ブツラー大將ヨリ單ニチユゲラ河畔ノ
戰鬪ハ有利ニ進捗中ナリトノ通報ヲ受ク同將軍ハ昨日既ニコレンソー方向ニ砲聲ヲ耳ニシ
更ニ本十五日早朝ヨリ砲聲遙ニ漸次猛烈トナルヲ知ル

問 題 (試問)

ホワイト將軍ハ處置アリヤ

右問題所見

苟モコロレンソー附近ニ本戰開始セラレシヲ知ラハ縱令戰況有利ナリトスルモ斷然出擊セサルヘ
カラス前回通報ニハ「英軍ノ決戰攻撃ハ十七日ノ豫定ナル」ヲ以テセラレタリ然ルニ目下ノ
チユゲラ河畔ノ戰鬪カ既ニ英軍ノ攻撃ヲ意味ストセハ直ニ出擊ヲナシ英軍ノ攻撃ヲ容易ナラシ
ムルニ努メサル可ラス

第二款 情 況

ホワイト將軍ハブツラー將軍ヨリ此日更ニ次ノ要旨ノ通報ヲ受ク

問題

原案

情況

問 題 (試問)

ホワイト將軍ノ決心

原 案

依然レデイスミスヲ固守セントス

第三款 情 況

ホワイト將軍ハ右通信ハ多分ボーア人ノ故意ニ我ヲ誤ラシメンカ爲メ發シタルモノナリト信シ
依然レデイスミスヲ固守スルニ決ス之レ前通信ニ於テチユゲラ河畔ノ戰鬪ハ良好ニ經過シツツ
アリトノ通報ヲ受ケ取り又右通報ニ接シ矛盾ヲ感シタルト且ツ降伏ヲ至當トセサリシヲ以テナ
リ

第六節 コレンソー附近ノ戰鬪ニ關スル

最後ノ觀察及所見

コレンソー附近ノ戰鬪

一、英軍高等統帥ノ兵力使用ハ南阿ノ全作戦地ニ於テ既ニ分散使用セラレ其建制ハ初ヨリ分割セラレタリ此ノ如キ統帥ノ爲メナタル地方ニ於ケル英軍ノ兵力ハ既ニ斷然タル大優勢ノモノニアラス然ラハ即チコレンソノ附近ノ戦闘ニ於テ英軍ガ主義上既ニ敵ヲ侮ラズ必勝ヲ期シ周到適切ナル攻撃計畫ヲ策定シ要點ニ充分ナル兵力ヲ使用シテ必ラス敵ヲ擊破スルコトニ努メサル可ラス

然ルニブルラー大將ハ敵ノ退却ト英軍ノ戦闘前ニ於ケル一部砲撃ニ對スルボーア軍ノ沈黙ニヨリ直ニ敵ヲ輕侮シ既ニ述タルカ如ク敵情判斷ヲ誤リ又一方ニハ敵情及地形偵察ニ努ムルコトナク敵ハ兵力寡弱ナルヲ以テ英軍ノ集團攻撃ニ對シフル能ハストナシ輕卒且ツ不用意ナル正面攻撃ヲ開始セリ敵ヲ知り己ヲ知ルハ戰勝ノ要訣ナリ、而シテ危險ヲ冒シ困苦ニ堪ヘ百方手段ヲ盡シテ遺算ナキヲ期セサル可ラス勿論敵情ハ豫期ノ如ク明瞭ナラサルコト多シ然ラハ判斷ヲ以テ之ヲ補ハサル可ラス然ルニブルラー大將ハ人事ノ盡クスヘキヲ盡サス先入ノ見ヲ持シテ敵ノ退却及寡弱ヲ豫想シ又全局ニ對スル透徹ナル判斷ヲ行ハス加之、盡クスヘキ偵察ヲ怠リ漫然攻撃ニ決シ而カモ此主要ノ戰機ヲ覺ラスシテ其指揮ヲクレーリー中將ニ委シ傍觀ノ態度ニ出ツ之レ實ニ大局ノ判斷及攻撃奏功ノ基礎ヲ誤リタルモノニシテ戰敗ノ生スル豈偶然ナランヤ高等統帥ノ過失ハ軍隊ヲ死地ニ導キ部下最善ノ努力ヲ

Elan'slaa g.
戰闘ノ統帥系統參照

統帥ノ誤謬

モ水泡ニ歸セシメントス戒メサルヘケンヤ

二、大障礙ヲ利用シ堅固ナル陣地ヲ占領セル敵ニ對シ正面攻撃ヲ企圖シ迂回案ニ出ツルコトナク、包圍攻撃ヲ用フルコトナク或ハ充分ナル攻撃準備ヲ整ヘ整々タル展開ト歩砲兵ノ適切ナル協同動作ニヨリテ前進スルコトナク又何等渡河ノ準備ヲ講セス單ニ輕易ナル前進及分散ノ攻撃ヲ實行セシハ正ニ主トシテ前項攻撃ニ關スル基礎的着眼ノ誤謬ヨリ胚胎セシ自然ノ事實ナリトス其主攻撃點ノ不明ナル、何處レモ斷乎タル兵力ノ使用ナキコト、Hauptwarte山ノ價值着眼ノ不充分ナル其砲兵使用ノ不統一ニシテ分散的ナル、又諸隊攻撃着手ノ統一及協同ヲ缺ケル、情況ノ不明ナルニ方リ砲兵ヲ準備陣地ニ在ラシメスシテ步兵旅團ヲ單獨ニ前進セシメタル如キ、其他其攻撃命令ノ缺點多キ、豫備隊ノ控置及使用ニ關スル着眼ノ不合理ナル、其他特ニ戰況之ヲ要セサルニ退却ニ決シ白晝敵前退却ヲナセシカ如キ何レモ如上ノ誤謬ト共ニ英軍統帥ノ能力ノ充分ナラサルヲ證ス

三、攻撃ニ關スル誤謬ハ如上ノ如シト雖モ本戦闘ニ於ケル英軍失敗ノ直接ナル本因ハ之ヲ高級指揮官ノ心理的狀態ニ基クブルラー大將ノ敵情判斷ノ誤謬カ戰況ノ進展ト共ニ英軍ニ重大ナル戰況ヲ與フルニ至ルヤ彼レノ心理ハ既ニ平靜ト彈力ヲ失ヒ彼ハ最早其ノ指揮ヲクレーリー中將ニ委スル能ハス大綱ノ統帥ヲ捨テ、局部ノ戰況ニ没頭シ總指揮官ハ大局ノ位置ヲ

失敗ノ原因

コレンソノ附近ノ戦闘

戰敗ノ主因

下級指揮官ノ高等統帥ニ對スル義務

捨テ軍司令官ハ砲兵隊長ナル戰鬪者ト化シ極度ノ戰鬪的感ニ支配セラレ樂觀ハ悲觀ニ變シ遂ニ全ク全統帥ヲ誤リ戰況ハ尙爾後局面打開ノ餘地アリシニ拘ラス全軍退却ヲ命セリ英軍ノ退却カレデイスミス方面ノ戰況及其他作戰地ニ不利ナル影響ヲ及ホシ又作戰ノ初期ニ於ケル此重大戰ノ勝利ノ爲メボーア軍カ絶大ナル精神的勝利ヲ得ルヤ必セリ之レ決シテ英軍一局部ノ戰敗ニアラサルナリ然ルニ諸般ノ缺乏ニ拘ハラスレデイスミスノ陷落セサリシハ眞ニ英軍ノ爲メ幸運ナリキ

戰敗ノ主因ハ損傷ノ大ナルカ爲メニアラスシテ指揮官カ統帥ノ道ヲ誤リ勝利ノ可能ヲ疑ヒ戰鬪ヲ斷念シタルニ在リ英軍戰鬪加入部隊ノ損傷ハ退却前ニ在リテハ15%ニモ及ハス後方ニハ新銳ナル過半ノ兵力嚴存ス勇敢ナル軍隊ノ敗北セシニアラスシテ獨リ其最高指揮官ノ精神敗北ノ情ニ制セラレシノミ、然ルニ其結果ハ全軍ノ敗戦ニ歸ス、指揮官ノ意思ハ飽ク迄堅確ナラサル可ラス將帥ハ常ニ大綱ヲ握リ冷靜ナル統帥ヲ行フヲ要ス茲ニ於テ吾人ハ更ニ再ヒ高等統帥ノ誤謬ハ遂ニ三軍ヲ失フモ及ハサルノ大理ヲ叫ハサルヲ得ス、

吾人ハ戰敗ノ主因及責任ヲブラー大將ニ歸スルモ勿論單ニ唯獨リ同人ヲ咎ムルニアラス蓋シ英軍ノ搜索及偵察ノ不充分ニシテ成果ナカリシハ牽テ同大將ヲシテ敵ヲ輕侮シ先入ノ見ヲシテ依然誤謬ノ位置ニ固定セシメタルヲ以テナリ下級指揮官ハ又其任務ヲ完全ニ實施

英軍ノ下級指揮

四、

シ獨斷事ヲ處シ高等指揮官ヲシテ統帥ノ便ト基礎トヲ得セシメサル可ラス、吾人ハ如上英軍高等統帥ノ誤謬ト共ニ順序トシテ少シク其實行機關タル英軍下級指揮ニ關シ一言セントス

ロング大佐カ過去ノ一經驗ヲ戰場ト敵ノ異ナレル南阿ニ妄用シテ暴進シ過去經驗ハ慎重ナル秤量及利用ヲナササルヘカラサルコトヲ明示セシコト、此危機ニ際スル英軍下級將校ノ動作、Hart旅團ノ前進方向ノ錯誤、其狼狽的展開並ニ戰鬪法、歩兵ノ前進法概シテ密集的ニシテ奈翁時代ノ要領ニ依リ既ニ時代ノ要求ニ合セサリシコト Dunalonaki 大佐ノ Hilarigvane 山ノ攻撃計畫ノ不良並ニ攻撃實行ニ關スル熱烈ノ度ヲ缺キ却テ増援ヲ請求セルコト、並ニ Barton 少將カ既ニ其任務ノ明瞭ナリシニ拘ラス獨斷專行ノ能力ナクシテ徒ラニ現地ニ膠着セルコト其他騎兵ノ搜索、近距離搜索及偵察ノ全ク不充分ナリシコト、砲兵ノ行動及其使用ノ適切ヲ缺ケル、Tugela川渡河ニ關スル著意及準備等ハ共ニ下級指揮官ノ戰術能力ノ所望ノ程度ニ達シアラサリシコト並ニ軍教育ノ充分ナラサルコトヲ證シテ餘リアリト謂フヘシ

然レモ Hildyard 旅團ノ地形ヲ巧妙ニ利用シテ前進シ爲メニ損害少カリシコト、其他戰況全ク豫期ニ反シテ發展シ全般ノ情況ハ更ニ新攻撃方法ニ出ツルヲ必要トセルニ方リ同旅團カ

コレンソー附近ノ戰鬪

任務ニ拘泥セスシテコレンソー北端ニ停止シ其暴進的渡河ヲ避ケタル如キハ適當ナル決心ニシテ著目ニ値スヘシ。Hott旅團ノ火力ヲ無視セル前進法ハ同少將カ時代ニ後レタル密集戰法の戰術的意見ヲ有シタリシニ依ル

1100

五、軍ノ精神、軍隊ノ素質ニ關シテハ今茲ニ之ヲ正當ニ判斷スヘキ基礎的材料ニ乏シト雖モ戰鬪ノ經過ヨリ之ヲ見ルニ軍ノ精神並ニ内部の素質カ軍ノ指揮及戰鬪勝敗ノ數ニ累ヲ及ホシタルヲ見ス英軍ノ病點ハ特ニ指揮、統帥、教育ノ方面ニ存ス

六、諸君ハ從來ノ觀察並如上ノ一瞥的觀察ニ依リ高等統帥ノ手腕如何及將帥ノ人格、特ニ意志ノ堅確カ戰鬪勝敗ノ數ニ決定的關係ヲ有スルコト、高級指揮官ノ位置、統帥ノ要領並ニ心理及行動ハ如何ニスヘキヤ、河川ノ大障礙ヲ控ヘ堅固ナル陣地ヲ占領セル敵ニ對シテハ迂回又ハ特ニ夜間ノ利用ヲ必要トセルコト其他充分ナル偵察ノ後周到ナル攻撃計畫ヲ定メ然ル後諸兵種協同シテ攻撃ヲ實施スヘク、英軍ノ如キ無効ナル砲兵の準備ニヨリ毫モ振蕩セラレサル敵ニ對シテハ正面攻撃ノ奏功セサルコト、此ノ如キ敵ニ對シテハ正面攻撃ハ困難ニシテ正面側面ノ合撃タル包圍ヲ必要トスヘキコト、英軍ノ稠密ナル散兵線及後方集團部隊ハ優秀ナルボーア軍射手ノ標的トナリテ大犧牲ヲ生スヘク又英軍ノ一齊射撃ハボーア軍ノ如ク巧ミニ遮蔽セル敵ニ對シテハ効果ナク躍進ハ頓挫シ攻撃力ハ愈々減退スヘキコト特

ニ統一ヲ缺キ諸兵種協同セサル分散不用意ナル攻撃ハ決シテ成効ノ機運ヲ齎ラス能ハサルコト並ニ戰場ノ空虚ニ伴フ航空機及近距離偵察ノ必要、其他晝間退却ノ困難、獨斷專行能力ノ必要等ノ諸教訓歷々トシテ交々諸君ノ眼底心鏡ニ映シ來ルナラン

勝利ハ適切周密ナル計畫、斷乎タル決心、勇猛鐵石ノ如キ指揮官ノ意思、秋霜烈日ノ如キ實施及攻勢ニ依リテ達成セラルトハ戰術家ノ常ニ唱フル所ナリ諸君ハ本戰鬪ノ經過ニ鑑ミ此言ノ誤ラサルヲ見益々本原則ノ修養ニ努メサル可ラス

七、ボーア軍ハ敵ヲ輕視セス敵ノ行動ニ關シ慎重ナル注意ヲ拂ヒ時代ヲ超越セル如キ巧妙ヲ以テ陣地ニ據リ敵ヲ近距離ニ誘致シ一舉之ヲ破摧セントスルカ如キ奇襲的射撃ヲ以テ英軍ヲ迎ヘタリ其戰術的部署、攻勢的着眼等ニ關シテハ勿論諸種ノ誤謬缺點ナキ能ハサルモ彼等カ能ク其本能力ヲ發揮シ遂ニ敵ヲ擊退セルハ戰鬪勝利ノ因、固ヨリ英軍統帥ノ誤謬ニ在リト雖モ抑々又ボーア軍ノ巧妙ナル行動カ英軍ノ統帥ヲシテ此ノ如ク至ラシメタルノ一動因タルヲ看過スル能ハサルナリ

第五章 南山附近ノ戰鬪(上)

(公刊日露戰史第一卷附圖第二、第十一、第十二參照尙金州附近二十萬分ノ一及五萬分ノ一地圖ヲ參照シ得レハ一層可ナリ)

(堅固ナル築城陣地ニ對スル攻撃及其ノ防禦)

(注意) 日露戰役當時日露兩軍ノ編制、兵器、裝備、戰地ノ概要ハ豫メ公刊戰史第一卷ヲ參照セラルヘシ

第一節 金州地峽ノ作戰的價值

第一問題

日露戰役初期作戰ノ情況ヲ願慮シ金州地峽ノ作戰的價值

金州地峽ノ
作戰的價值
問題

第一問題ノ作業ニ對スル注意

諸君ノ觀察ハ多クハ狹義ニシテ概シテ著眼狹小ナリ戰略及戰術的情況ニ充分ナル願慮ヲ拂ヒタルモノ尠シ宜シク日露兩軍ノ作戰計畫ノミナラス凡ソ作戰ノ遂行ニ際シ發生スヘキ可能的作戰情況ヲ願慮シ判斷セサルヘカラス故ニ之カ觀察ニ方テハ日露兩軍ノ見地ヨリ其主作戰並副作戰及特ニ關東州方面ニ於ケル作戰ノ形勢並海軍ノ情況ヲモ願慮セサルヘカラス又此ノ觀察ハ同時

ニ同地峽附近ノ戰術的價值ニ就テモ考究スル所ナカルヘカラス

第一問題原案

原案
戰略的價值
日本軍

一、戰○略○的○價○值
甲、日○本○軍

1. 該地峽ノ攻略ハ大連灣占領ノ第一歩ニシテ大連灣ハ日本軍ノ主力作戰ノ根據地ヲ形成ス

大連灣附近ハ旅順要塞ニ近キヲ以テ初ヨリ軍ヲ上陸セシムル能ハス

2. 南山附近ハ旅順要塞ノ前進陣地ニシテ其ノ攻略ハ旅順攻圍ノ前提タルノミナラス爾後大連灣ノ占領ハ攻城材料唯一ノ揚陸點ナリ

全般ノ情況ハ旅順ノ攻略ヲ必要トセル爲該地峽ノ占有ハ益々迅速ナルヲ要セシメタリ大連灣ハ旅順ニ對スル海軍作戰ノ爲ニモ亦一ノ根據トシテ價值アル場合ヲ生スルコトアルヘシ

3. 該地峽ノ占領ハ露軍主力ト其ノ關東守備軍トヲ中斷シ其ノ協同作戰ヲ困難ニス

4. 僅小ナル一部ヲ於テ關東守備軍ニ對シ守勢的態度ニ出テ主力ヲ以テ北方ニ動作スル場合ニ於テハ必ス同地附近ノ占領ヲ要ス

南山附近ノ戰鬪(上)

乙、露軍

1. 金州地峽ハ關東半島進出ノ門戸ニシテ關東守備軍攻勢ノ樞軸ナリ又其ノ主力ト連絡シ協同作戰スル爲ニハ成ルヘク永ク同地ヲ保有シアラサルヘカラス
2. 日本軍ヲシテ同軍主力ノ作戰根據地及旅順攻圍軍ノ攻城材料揚陸地及海軍ノ一根據地タルヘキ大連灣ノ占領ヲ妨害シ又其ノ上陸點ヲ遠ク東方ニ選定セシメ且旅順要塞ノ前進陣地タル南山附近ヲ成ルヘク長ク保有シテ海軍根據地タル旅順ノ運命ヲ永カラシムルコト甚タ必要ナリ
3. 日本軍主力ノ側面ヲ脅威シ成ルヘク多クノ兵力ヲ關東守備軍方面ニ牽制シ又ハ同軍カ一部ヲ以テ之ニ對セシメ主力ヲ以テ自由ニ露軍主力ニ對シ作戰セシメサル爲ニハ同地峽附近ヲ最堅固ニ占領シアルヲ要ス

戰術的價值

二、戰術的價值

該地峽ハ關東半島ト遼東半島トヲ連絡スル咽喉部ニシテ幅一里ニ足ラス其ノ最狹部ハ南山西方鞍部トス、南山ハ堅固ナル城郭ヲ有スル金州ヲ前ニシ老虎山、肖金山及金州北方高地附近ニ對シ少クモ三吉米ノ區域ヲ火制シ又南方ニ對シテハ北面ノ一陣地タル土城子、台子山小房身ノ高地帯ヲ制シ之ト相對ス、同地附近一帶ノ地域ニハ日露兩軍ノ爲兩方面ニ對シ

數線ノ陣地線ヲ有ス

第二節 南山附近築城ノ成立

南山附近築城ノ成立

金州附近ト關東及遼東半島トノ關係ハ恰モ土耳其ニ於ケルガリポリ(Gallipoli)半島トノ關係ニ髣髴タルモノアリ今金州附近ノ防備ヲ述フルニ先チ少シクガリポリ半島ニ就テ述ヘ以テ參考ニ供セムトス兩半島共ニ山多ク其ノ高サ最高四百米ニ及フダーダネル海峽北方ニアルガリポリ半島ハ昔時ヨリ此ノ地峽ニ堅固ナル堡壘ヲ設ケ敵ノ侵入ニ備ヘタリクリミヤ戰役(一八五三—一八五六)ノ初期金州地峽ノ如キ最狹部(Battle)ノ南方ニ三個ノ堡壘ヲ作り一八七七年更ニ之ヲ堅固ナラシメタリ一八七八年春露軍ハコンスタンチノーブルノ前面ニ來リシモ遂ニ同地峽方面ニ突進スルニ至ラスシテ止メリ

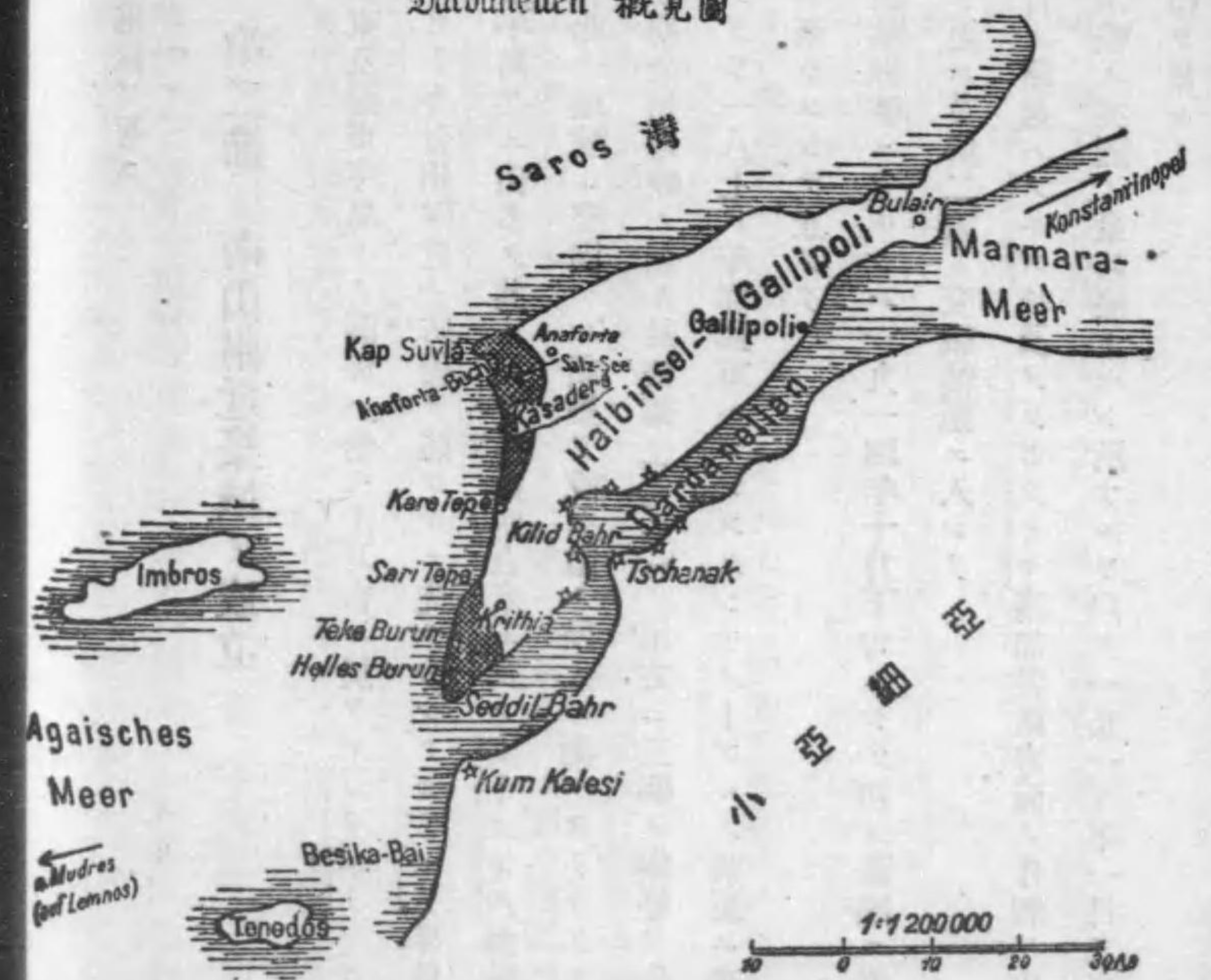
土耳其ノ歐洲戰參與並ガリポリ半島ノ作戰

土耳其ノ今回歐洲戰ニ立チシハ一九一四年十月下旬ニシテ初メ露國ニ對シ戰端ヲ開キシカ十一月初旬ニ至リ更ニ英佛二國ト交戰情態ニ入レリ然ルニ土耳其ノ蹶起ハスエズ埃及メソポタミヤ高加索諸方面ノ作戰ヲ生シ特ニスエズ埃及ニ對スル土軍ノ作戰ハ英國ノ最苦痛トセシ所ナルヲ以テ一九一五年一月二日英國ハ土耳其ニ對シ左ノ要旨ノ通牒ヲ發セリ

南山附近ノ戰圖(上)

土軍カ埃及、及スエズニ向フ前進ヲ中止スルニアラサレハ英軍ハダーダネルス海峽ヲ占領シ
 コンスタンチノーブルニ向ヒ攻撃前進スヘシト土國ハ右ノ要求ヲ拒絶シダーダネルス海峽附近
 ノ海陸面及ガリポリ半島ノ兵備ヲ嚴ニセリ英佛兩軍ノダーダネルス攻撃ハ久シク準備セラレタ
 リシカ二月二十六日ヨリ兩國ノ海軍ハダーダネルス海峽入口ノ築城及砲臺ニ對シ多大ノ彈藥ヲ
 費シ之ヲ砲撃シ之ヲ沈黙セシメタルモ遂ニ海峽内ニ進入スル能ハス三月ノ砲撃又成効セス露艦
 モ亦黑海方面ニ活動セシモ共ニ奏功スルニ至ラス
 同海峽ハ今ヤ海軍ヲ以テ之ヲ撃破スルコト能ハサルコト明瞭ナルヲ以テ陸方面ヨリ之ヲ攻撃ニ
 決セリ
 當時英佛二國ノ作戰計畫ハ主作戰ヲ小亞細亞ニ導クヤ或ハ歐洲側ヨリ行フヘキヤ或ハ直接
 小亞細亞方面ヨリガリポリ半島方面ニ向ハシムヘキヤ永ク決セス遂ニ四月大部ヲモ經過シ尙本作
 戰ヲ遂行スル能ハス露軍ハ四十五萬ノ兵ヲ同攻撃ニ參加セシムヘキヲ約セリト傳フ、四月下旬
 ニ至リ漸クガリポリニ作戰スルニ決シガリポリ半島西岸ニ上陸シ攻撃ヲ開始セルモ戰況毫モ進
 捗セス徒ラニ屢總指揮官ノ變更ヲ見ルノミ遂ニ巴爾幹方面重大ヲ告クルニ及ヒ此ノ作戰ヲ中止
 シ撤退セリ英佛ノ占領セシ地域ハ要圖ニ見ルカ如シ旅順ト金州地峽並ニ陸上攻撃ノ關係ト比較
 スヘシ
 又尙金州ト同一關係ヲ有スルモノハクリミヤ半島ト露西亞南部ヲ連結スル Perekop ノ地峽ナ

Dardanellen 概見圖



一九一五年九月頃迄ヲ英佛軍ノ占領セシ地域

ルモ今其ノ詳細ヲ述フルノ時間ヲ有セサル所ナルヲ以テ之ヲ略シ本問題タル金州地峽ノ防備ヲ述ヘムトス

「ループル」ハ約一四強
觀察

明治三十一年春露國ノ關東半島ヲ租借スルヤ爾來露軍ハ旅順ノ外尙金州附近ニ築城セムトノ考案ヲ有セリ而シテ此地ニ永久堡壘ヲ設クルハ主義トシテ可ナリト是認セラレシモ實行セラルルニ至ラス翌年同方面ニ堡壘設置ノ計畫ヲ立案シ又専門家之ヲ實測シ其ノ必要ヲ認メタルモ是レ亦實施ノ運ヒニ至ラス然ルニ小堡壘(掩蔽部ナギモノ)築設ノ爲ニハ三十六萬留中等堡壘(掩蔽部ヲ有スルモノ)ノ爲ニハ四十萬留ヲ要シ若大堡壘(掩蔽部ヲ有スルモノ)ヲ築設セムト欲セハ八十五萬留ヲ要ス然ルニ當時露國ハ旅順、大連築港ノ爲多大ノ經費ヲ要シ金州附近ノ防備ノ爲ニハ僅ニ六萬留ヲ使用シ得ルニ過キサリシヲ以テナリ若露軍ニシテ當時大連灣ノ經費ヲ節シテ金州附近ニ稍大ナル永久堡壘ヲ作リシナラムニハ日露戰役ニ於ケル露軍作戰ニ多大ノ便ヲ與ヘシナラム將來ニ對スル作戰上ノ見地ヲ粗漫ニ看過セシ露國當局ノ罪ハ近ク天ノ嚴罰ヲ受クハニ至レリ

南山附近築城ノ歴史

明治三十三年北清事變ノ際金州ハ東狙歩兵第十二聯隊之ヲ占領シ南山高地ニ散兵壕、砲兵陣地ヲ設ケ多數ノ砲(九十一門ト云フ)ヲ備ヘ以テ變ニ應スルノ準備ヲナセシカ幾干モナクシテ東狙歩兵第五聯隊之ト交代シ守備ニ任セリ

明治三十六年夏日露ノ關係漸ク切迫ヲ告クルヤ工兵大尉シユワルツハ同年夏南山附近築城計畫

ノ任務ヲ受ケ之カ計畫ヲ立タリ同大尉ノ計畫ハ南山山上ニ三個ノ堡壘ヲ設ケ低地ノ兩翼ニ各一個ノ堡壘ヲ設ケムトスルモノナリシモ之レ亦實施ノ運ヒニ至ラス又旅順計畫部ニ於テハ關東半島ニ五個ノ堡壘ヲ設ケムコトヲ企畫セリ即チ金州東方八吉大和尚山附近ニ一個、大連、金州兩灣ヲ連絡スル爲ニ二個ノ支阻堡、大連ノ南方ニ一個、關東半島中央ニシテ旅順、大連トノ中間ノ最高地安子嶺附近ニ一個ノ堡壘ヲ設ケムトスルモノニシテ其老虎山堡壘ハ金州方面ヨリノ隘路進出即チ攻撃ノ基點トシ大連南方ノ堡壘ハ上陸スル敵ノ行動ヲ妨害シ以テ大連灣ヲ利用スル能ハサラシメムトスルニアリ又其ノ他ノ諸堡壘ハ金州大連間ノ敵上陸ヲ妨害シ旅順ノ前進陣地ヲラシメムトスルニアリキ之レ等計畫ノ當否ハ別トシ若之等諸計畫ニシテ實施セラレタルナラムカ確ニ日本軍ノ爲大痛痒ヲ與ヘタリシニ相違ナキモ露軍ハ之ヲ決行セザリキ要スルニ露軍當局者ハ金州地峽ノ價值ヲ相當ニ了解セシモ之カ實施ヲ怠リシモノト謂ハサルヘカラス、之レ又露軍ニ定着スル弊風ニシテ彼等ハ常ニ執務及行爲共ニ的確ヲ缺キ平時時間ヲ嚴守セス當然爲スヘキ事項モ之ヲ放置スルノ通弊アリ現歐洲戰ニ於テモ常ニ此ノ如キ事例ヲ見ルコソドラテシコ將軍ハ活眼能ク之カ最必要ヲ洞察シテ三十七年一月初旬即チ開戰ニ先タツ約一ケ月獨斷ヲ以テ自ラ金州ニ赴キ同陣地ヲ細サニ視察シ越エテ二月三日再ヒ同所ニ至リ東狙歩兵第五聯隊長トウレチャコフ大佐及シユワルツ工兵大尉ヲ伴ヒ精細ニ陣地ヲ點檢シテ築城ノ計畫

南山附近ノ戰闘(上)

ヲ立案シ二月六日之ヲ旅順ニ於ケル軍事會議ニ提出シ之ヲ敢行スヘキ意見ヲ具申セリ然ルニ之
カ經費ハ一萬九千留ヲ要スルモノト計上セシニ拘ラス軍事會議ハ之ヲ否決シ僅ニ五千留ヲ使用
セシムルコトヲ可決セリ然ルニ二月八日日本海軍ノ突如旅順ヲ襲フヤ露軍上下驚駭措ク所ヲ知
ラス茲ニ初テ最大熱心ヲ以テ金州ニ工事ヲ施スニ決シ二日九日及十日兩日諸準備ノ後十二日ヨ
リ工事ヲ開始シ四月二日之ヲ完成セリ此ノ築城ニ使用セシ金額ハ實ニ六萬三千留ナリ工事ハ最
初東狙第五聯隊之ニ任シ其指導ハコンドラテンコ將軍之ニ方リ後漸次多數ノ支那人ヲ使用シ下
旬ニハ一日工夫五千人ヲ使役シタリト云フ而シテ軍隊ハ工事ノ補助及特別ノ作業ニ從事セリ次
テ二月十九日フオック少將築城工事ノ指揮官ニ任セラレ

第二節 露軍ノ作戰ヲ顧慮シ金州附近ノ地形判斷

問題

第一問題 (講堂作業)

露軍ハ金州地峽附近ニ於テ如何ニ築城陣地ヲ構成シ如何ニ其戰鬪要領ヲ定ムルヲ可トスルヤ
但シ答解ハ左ノ諸件ヲ顧慮スヘシ
一、開戰當時露軍當局者トナリ隨意、隨所ニ築城陣地ヲ設備シ得ルモノトス
二、關東半島ノ守備ニ任スヘキ兵力ハ概要現戰役ノモノニ同シ即チ大連、金州ニアリシ

東狙第四師團(長フオック少將、歩兵第十三乃至第十六聯隊、砲兵四中隊ヲ基幹トス)
金州附近ノ守備ニ任セル東狙第五聯隊並旅順ノ守備ニ任セシ東狙第七師團(長コンド
ラテンコ少將、歩兵第二十五乃至第二十八聯隊、砲兵五中隊ヲ基幹トス)ヲ主力部隊
トシ外ニ若干ノ騎兵及要塞部隊ノ兵力ヲ使用シ得
三、旅順ニハ要塞裝備ノモノノ外多數ノ舊式野砲、新舊支那砲、支那十五珊加農、二十四
珊白砲、合計數十門アリ旅順要塞ハ勿論當時編成ノ通リトス
四、作戰ノ狀況ハ強大ナル日本軍遼東半島南岸ニ上陸シ日本海軍ハ露海軍ヨリ優勢ナリ
五、答解ハ要圖ニヨリ兵力ノ配備ヲ要セス、築城ハ概略ノ線ヲ示シ戰鬪ハ方針並要領ノ極
メテ概要ヲ記シ單簡ナル理由ヲ記スヘシ
研究ノ便宜上原案ハ後掲(第八節ニアリ)ス

第四節 南山及金州ノ築城及其ノ裝備並觀察

南山ノ陣地ハ其ノ完成ノ後四、五月ノ交ヨリ更ニ散兵壕ヲ増築シ障礙物ヲ設ケ益々其ノ完備ニ
努メタリ、陣地細部ハ日露戰史第一卷附圖第十二ヲ參照スヘシ
尙築城陣地ノ細部ヲ若干詳説スレハ左ノ如シ

角面堡 五個（第一、第二、第八、第九、及中央角面堡）

右ノ内二個ハ新設、他ハ舊支那堡ノ改造ナリ

眼鏡堡 三個（第三、第四、第五眼鏡堡）

右ノ内二個ハ改造ナリ

砲臺 十五個（第一乃至第十五砲臺）

右ノ内六個ハ新設、但シ第六、第七砲臺ニハ砲ノ裝備ナク、第八砲臺ハ存在セ、
ス之カ代用トシテ第二角面堡ニ砲二門ヲ配置ス

右ノ外八十七密砲四門ヲ陣地ノ右翼小房身東方高地ニ配置ス第十六砲臺ハ大房身東方高地
ニアリ

散兵壕ハ掩蔽部、銃眼ヲ有シ二重又ハ三重ノ重層配置ヲナセリ、散兵壕ノ長サ最下層（新工事
線）七吉米上層新工事線一吉米半、其ノ他ヲ合シ散兵壕ノ延長合計十吉米ニ達ス、上下ノ交通
壕ハ二吉米アリ

元來コンドラランコ將軍ノ防禦計畫ハ高地頂ニ主歩兵陣地ヲ設クルニアリシモフオツク少
將ノ要求ニ基キ圖ニ示スカ如ク高地脚ニ設置セリ

障礙物ハ鐵條網並電氣發火裝置ニヨル地雷トス、鐵條網ノ深サ五米、全長五吉米ニ及フ地雷ハ

八十四個ニシテ六群ニ區分セラル

掩蔽部ハ堡壘、散兵壕内ニ六十六個アリ、内五十五個ハ榴彈ノ破片、榴霰彈ノ彈子ニ對シ掩蔽
シ得、十一個ハ野戰榴彈ニ對シ掩護シ得ヘシ其ノ他九個ノ獨立棲息掩蔽部アリ

壕ニハ多數ノ彈藥室アリ又一ノ彈藥庫アリテ同時ニ小銃彈、砲彈ノ中央彈藥廠ヲ成形ス
其ノ他三吉米ノ交通路ヲ開キ八個ノ井ヲ穿テリ

各堡壘、砲臺ハ中央ニアル第十三砲臺ト主トシテ電話、一部ハ電信ニヨリ連絡セリ又南山陣地
ト柳樹屯、大房身停車場、大窪口トハ電話連絡アリ、電話線ハ地上線ナリ

陣地上ニハ二個ノ探照燈アリ、
高地上ニ設ケタル砲臺及三個ノ角面堡（第八、第九及中央角面堡）ハ少シク下方高地上ニアル

散兵壕ト塹壕ヲ以テ連絡ス
南山陣地ハ三地區ニ分タル

右翼地區 記家屯北方約七百米ノ第一角面堡ヨリ以南海岸迄ニシテ二角面堡及散兵壕及第

一砲臺ヨリ成リ且大房身停車場南方標高七九高地ニ砲臺ヲ設ケ此ノ方面ヲ援助

セシム

中央地區 第一地區ノ左翼ヨリ趙家樓西方第四眼鏡堡迄ニシテ二重ノ散兵壕ヨリ成リ其上

南山附近ノ戰圖（上）

部ノモノニハ中央並第八角面堡及六砲臺(第二乃至第五、第九、第十四砲臺)下部ノモノニハ第一砲臺及第三、第四眼鏡堡アリ

左翼地區

中央地區ノ左翼ヨリ金州灣迄ニシテ二、三重ノ散兵壕ヨリ成リ其ノ上部ノモノニハ第九角面堡及第五砲臺(第十乃至第十三及第十五砲臺)アリ又陣地ノ背面ハ二重ノ散兵壕ヨリ成リ其ノ下部ノモノハ第五眼鏡堡ヲ設ク

火砲ノ裝備ハ日露戰史第一卷附圖第十二ノ如クナルモ細説スレハ左ノ如シ

第一砲臺 輕砲六門、八十七密米支那砲(此砲ハ全部ニテ二十八門アリ内半数ハ露軍野砲ニ他ハ輕砲ニ優レリ)二門

第二砲臺 八十七密米支那砲四門

第三砲臺 四十二「リーニャ」(約十珊米)要塞砲四門

第四砲臺 八十七密支那砲二門

第五砲臺 百二十封度(約五百貫)五吋要塞砲、六吋野戰臼砲各四門

第九砲臺 輕砲四門

第十砲臺 八十七密米支那砲四門

第十一砲臺 八十七密米支那砲及輕砲各四門

註
六吋ハ約十五珊二ナリ

第十三砲臺 輕砲二門

第十四砲臺 八十七密支那砲二門

第十五砲臺 七十五密米支那砲(露軍輕砲ニ優ル)及輕砲各四門

中央角面堡 六吋加農(海軍砲)一門

第二角面堡 八十七密米支那砲二門

合計五十七門及機關銃十挺

如上ノ外五月二十二日「カネー」式十五珊海軍砲一門ヲ備ヘントシ其ノ畢ラサルニ先チ日本軍ノ攻撃スル所トナレリ

金州、柳樹屯及大連附近ノ砲兵裝備
砲彈

右ノ外金州市街ニ八十七密米支那砲四門、小房身東方高地上ニ八十七密米支那砲四門、柳樹屯附近ニ二十八口徑十五珊海軍砲二門及九斤海軍砲四門ヲ配置シ大連附近ニモ同様ノ裝備ヲナセリ砲彈ハ五月二十六日南山陣地ニ一〇四三四發ヲ有セリ内譯左ノ如シ

八十七密米支那砲 一門ニ付 八二發

野 砲 同 二七九

八十九密米砲 同 二九八

十五珊臼及十五珊加農 同 一一五乃至一一〇

南山附近ノ戰闘(上)

砲臺

其他尙南山陣地築城ノ細部ニ關シ次ノ件ヲ附記ス

二一六

一、砲臺

砲臺ハ無雜作ニ積土セラレタルカ爲前方肖金山等ノ諸高地ヨリ能ク望見スルコトヲ得ヘシ
前方斜面ニ在ル若干砲臺ノミ敵方ニ對シ蔭蔽セルモノアリ
第一砲臺ノ後方ニハ遮蔽物ヲ設ク

散兵壕

二、散兵壕

高地脚ニ設ケタル散兵壕ハ全力ヲ盡シテ堅固ニ構築セラレタルカ爲高地上ノモノハ稍輕視
セラレ堅固ナラス又散兵壕ハ凡テ立射散兵壕ニシテ後崖ハ勉メテ急峻ニセリ本戰鬪ニ於テ
山頂ニ設ケタル散兵壕ハ掩壕ノ用ヲナセリ

掩蔽部ハ二枚ノ板ヲ重疊シテ蓋トナシ或ハ砂囊ヲ使用シ又ハ約五十珊ノ積土ヲ以テ掩護ノ
用ニ供セリ

實驗射擊

三、實驗射擊

三月十七日陣地南方正面ニ向ヒ實驗射擊ヲ施行セリ然ルニ其ノ結果胸牆ハ榴彈ノ命中セル
モ破壊セラレナリシカ爲散兵壕内胸牆直後ニ位置スル散兵ハ榴彈ニ對テシ安全ナリト信

シタリキ

若此ノ際尙砲臺ニ對シテ實驗射擊ヲ施行セシナラムニハ構築上ノ不備ヲ發見シ得テ大ニ利
スル所アリシナラム

障礙物

四、障礙物

障礙物ノ大部分ハ攻者ノ位置ヨリ能ク認識スルヲ得タリ然レトモ第四眼鏡堡前ノモノハ砂
ヲ以テ覆ハレアリ

戰鬪ニ參與
セル要塞砲
兵中隊ノ所
見

五、露國參謀本部公刊戰史ニ依レハ一九〇四年五月三十一日南山ノ戰鬪ニ參與セシ集成要塞砲
兵中隊ノ報告トシテ左記ノ諸件ヲ記載セラレアリ

A、掩護部ハ堅固ナリ唯第十砲臺ノモノノミ貫通セラレタリ

B、砲臺ノ彈藥庫ハ一トシテ破壊セラレタルモノナシ

C、砲臺ノ遮蔽ハ其ノ效果頗ル大ナリキ

D、日本軍艦ヨリノ射擊ニヨリ第十五砲臺ノミ著シク破壊セラレタリ

以上諸件ヲ綜合スルニ金州築城カ如何ニ堅固ナリシカヲ推知スルニ難カラス

問題

第三、第四問題並附屬問題 (宿題)

南山附近ノ戰鬪(上)

二一七

第三問題、防禦ノ目的ヲ以テ南山附近地形ノ特性及利害
第四問題、南山陣地ノ築城及砲兵裝備ニ關スル觀察

尙別ニ左ノ件ヲ答解スヘシ

- 一、陣地ノ要圖
- 二、南山陣地ノ築城の體系及其ノ本領
- 三、砲兵裝備一覽表

注意 原案ハ第八節ニアリ漸次研究ノ後讀マレタシ

金州市街ノ防禦設備

金州市街ハ防禦設備ヲ施サレ其ノ外壁ハ堅固ナル煉瓦ヲ以テ被覆セララル粘土壁ニシテ其ノ延長一〇八〇米乃至九四五米ヲ有ス壁高七米九〇其ノ厚サハ下部ニ於テ七米三五上部ニテ五米七〇ナリ内側ニハ所々ニ階段アリ壁上ニ登ルコトヲ得各側壁ニハ四個ノ城門アリ城門ハ鐵ヲ釘着シタル堅實強固ナル木製門ニシテ城壁ヨリ凹入シ兩側面壁ヨリ右城門ヲ側防シ得又壁ノ上部ニハ前方ニ銃眼ヲ有スルアリ其ノ後方ハ交通シ得ヘキ空地ヲ有ス又城壁ノ隅角ニハ稜堡ニ類スル設備アリ東方北方西方ノ壁上ニハ積土セル土製胸牆アリテ所々ニ掩蔽部ヲ有ス

金州市街ノ防禦設備

戰鬪前南山防禦ニ對スル露軍高級諸官ノ意見

第五節 戰鬪前南山防禦ニ對スル露軍高級諸官ノ意見

南山防禦ニ對スル露國當局ノ意見ニハ種々ナル差異アリ中將ステツセルハ終始該陣地ハ頑強ニ防禦スルハ必要ヲ信シ又マカロフ中將、コンドラチェンコ少將及南山ヲ守備セル東狙歩兵第五聯隊長トレチャコフ大佐ハ同地ハ死守セラレサルヘカラストセリ

二月末軍司令官代理タリシリネウイツチ大將ハ工兵出身ナル少將ウエルシコニ金州陣地ニ關スル意見具申ヲ徵セリ其ノ意見ノ要旨ニ曰ク

旅順及金州間ニ於ケル日本軍ノ上陸ハ恐ラク不可能ナラム故ニ同地ニ對スル日本軍ノ攻撃ハ軍ニ北方ヨリ實施セララルヘキノミ而シテ同陣地ノ守備ハ歩兵四大隊ヲ基幹トスル兵力ヲ以テ足リ該築城ハ日本軍ノ北方ヨリスル攻撃ニ對シ恐ラク二、三ヶ月ヲ支持スルコトヲ得ヘシ

旅順口ニアリシ露軍司令官ハ金州、旅順間ニ於ケル日本軍ノ上陸ヲ全然不可能ナリトハ信セザリキ

又ステツセル中將ハ金州陣地カ如何ナル方面ヨリ攻撃セララルモ東狙第五聯隊ヲ以テ終局マテ防禦セシムルコトヲ期シ東狙第十三及第十四聯隊ハ初メ金州以南ニ位置シテ日本軍ノ上陸ヲ防

ステツセル中將ノ意見

南山陣地ニ關スルウエルシコ少將ノ意見
其中

南山附近ノ戰鬪(上)

リネウイツ
中將ノ意
見

フオツク少
將ノ意見

註
露軍ニ於テ
ハ南山ノ陣
地ヲ常ニ金
州ノ陣地ト
稱ス
南山陣地占
領ニ關スル
ステツセル
ノ訓令

キ次テ南山陣地ノ防禦ニ參與セシムル如ク考定セリリネウイツチ大將ハ亦同中將ノ意見ニ同意
セルモ唯次ノ如キ制限ヲ與ヘタリ

南山陣地ハ敵カ北方ヨリ攻撃セル時ニ限り終局迄防禦スヘク其ノ他ノ場合ニ在リテハ退却
ヲ遮斷セラレサル限り同地ヲ防禦スルヲ要ス

然ルニフオツク少將ハ之ニ關シテ全ク前ト反對ノ意見ヲ有セリ即チ彼ハ南山以南ニ於ケル日本
軍ノ上陸ヲ可能トナセルカ故ニ南山陣地ヲ終局迄防禦スルハ不可能ナリトシ大房身ノ高地ハ東

狙第五聯隊ノ退却ヲ容易ニスル目的ヲ以テ占領スルヲ要スト考慮セリ五月六日クロバトキン將
軍ハ訓令ハフオツク少將ヲシテ益々此ノ所信ヲ強メシメタリ其ノ訓令ノ要旨次ノ如シ

強大ナル兵力ヲ以テスル敵ノ上陸ニ對シフオツク少將ノ任務ハ全力ヲ盡シテ金州ヲ保持ス
ルニアラスシテ寧ロ適時退却シテ旅順ノ守兵ヲ増加スルニアリ

然ルニステツセル中將ハ右ノ訓令アリシニ拘ラス尙自己ノ意見ヲ固守シ五月二十日南山ノ陣地
占領ニ關シ左ノ要旨ノ訓令ヲフオツク少將ニ與ヘタリ

金州南方ニ於ケル日本軍ノ上陸ハ未タ生起セサルノミナラス如何ナル準備行動ヲモ認メラ
レサルヲ以テ金州陣地攻撃ハ唯北方又ハ東方ヨリ豫期セラレサルヘカラス日本軍ノ上陸カ
背後ニ於テ實施セラレサル場合ニ於テハ貴官ハ陣地ヲ最モ頑強ニ固守スルコトニ配慮スル

ヲ要ス陣地ノ豫備隊ハ増加セラレサルヘカラス

金州陣地守備ノ兵力一聯隊ハ寡少ニ過ク金州カ吾人ノ有ニ屬スル限り旅順ハ全ク危険ナシ
營城子灣ノ警戒ハ予當地ヨリ配慮スヘシ

此ノ電報ハコンドラチエンコ少將ノ意見ヲ採用セルモノナリト
然ルニ此ノ日フオツク少將ハステツセル中將ニ次ノ要旨ノ返電ヲナセリ

大房身高地ハ東狙第五聯隊カ金州一旅順道ヲ退却スルニ當リ必要ナリ
又大窪口ノ敵ハ憂慮ニ堪エス恐ラク手灣ヲ經テ柳樹屯ノ半島ニ上陸スヘク而シテ其ノ一部

ハ丁官塞附近ニ又其ノ他ハ張家屯(柳樹屯西北方)及遠ク其ノ以南ニ上陸スヘク之ニ對ス
ル防禦ハ海面廣キ爲縱合優勢ナル兵力ヲ以テスルモ極メテ困難ナリ又大連灣ノ警戒ノ爲砲
ヲ有スル艦船及快走船ヲ絶對ニ必要ナリトス

第六節 第二問題原案

「防禦ノ目的ヲ以テ南山附近ノ特性及利害ノ判斷」ニ對スル原案

原案

第一、價值ニ關スル判斷

南山附近ノ戰國(上)

原案
價值ニ關ス
ル判斷

問題原案

フオツク少
將ノ返電

一、南山ハ金州地峽狹隘部ノ前方ニ位置スルモ關東守備軍ヲシテ遼東半島進出ノ據點タリ攻勢軸ヲラシメムカ爲ニハ後退ニ過ク此目的ノ爲地形上採用セラルヘキ龍爪山、老虎山、十三里臺子附近ノ陣地線ニ對シ南山ハ第二線陣地ヲ形成ス

二、南山附近ハ金州ヲ前進陣地トシ比較的小部隊ヲ以テ一時持久ヲナスニ適ス然レトモ重砲ヲ有スル優勢ナル敵ニ對シテハ持久シ難シ殊ニ敵艦隊ノ戰闘ニ參與スル場合ニ於テ然リトス若南山ヲシテ長時間ノ防禦陣地ヲラシメムカ爲ニハ永久築城ヲ以テ最堅固ノ陣地ヲ編成シ新式大口径砲ヲモ備ヘ且海面ニ對スル處置ヲ適當ニ實施スルヲ要ス

三、南山ハ防者カ小房身東方高地ヨリ土城子附近ノ高地ニ亘リ有利ナル一防禦線ヲ占領セル場合ニ於テ之ヲ有利ナル前進陣地ニ採用シ得ヘキ價値アルモノトス(第二問題原案參照)

第二、地形ノ特性、利害ノ大要並價値ノ判斷ニ對スル理由ノ概説

一、陣地ノ位置

南山ハ金州地峽ノ稍前方ニ位置シ旅順攻圍、大連又ハ金州地峽占領ノ目的ヲ有スル敵ヲシテ必ス之ヲ攻撃セシムルノ利益アルモ關東守備軍ヲシテ遼東半島ニ進出セシムル爲ニハ同地附近ハ猶狹隘ヲ經テ敵ノ包圍圈内ニ進出セサルヘカラサルノ不利アリ而シテ其ノ主力軍ト提携シテ作戰シ之カ攻勢的據點ヲラシムル爲ニハ其ノ位置後退ニ過ク龍爪山、老虎山、

十三里臺子附近ノ陣地ニ對シ同地ハ有利ナル第二線陣地ヲ成形ス

又防者カ小房身東方高地ヨリ土城子附近ノ高地ニ亘リ陣地ヲ占領セル場合ニ於テ南山ヲ前進陣地ニ採用セハ能ク此處ニ於テ敵ノ前進ヲ妨害シ其ノ進出ニ方リテハ攻者ノ狹正面ノ進出ニ際シ攻勢ヲ取り或ハ有利ニ敵ヲ拒止シ得ヘシ

二、地形ノ概観及利害ノ要點

- (イ) 標高一五二ノ高地ヲ最高點トシ南山ノ山背ハ金州方面並兩方面ノ海岸ニ對シ恰モ掌ハ指ノ如ク分岐シテ突出シ金州平地ヲ制ス而シテ高地北端ト兩翼記家屯及蘇家屯トノ關係ハ恰モ三角形ヲナシテ前方ニ突出シ高地ノ幅ハ狹ク兩翼海ニ迫リ地峽ノ巾約三吉米ニシテ金州城ヲ前ニシ後方ニハ南關嶺ノ高地アリ
- (ハ)(ロ) 各山背間ノ谷地ハ比較的深ク東方及西方斜面ハ峻峻ニシテ北方ハ緩徐ナリ
- 高地前方ハ多少蔭蔽シ倭樹小林村落ナキニアラサルモ概シテ展望良好ニシテ遠ク老虎山、十三里臺子ノ高地ヲ望ミ步砲兵ノ爲良好ナル射界ヲ有ス殊ニ西北方ハ大開濶地ナリ八里莊東方高地ト肖金山、龍王廟東方高地ハ敵ノ爲多少價値ナキニアラサルモ其ノ砲兵陣地トシテハ距離遠シ
- (ニ) 南山ハ狹隘前ニ位置シ尖角ヲ形成シ敵ニ包圍セラルル害アリ而シテ南山固有ノ位置既

ニ、狹隘前ニアルヲ以テ各方面ヨリ敵ハ南山陣地ノ脚ニ向テ猛烈ナル包圍ヲ實施シ此ノ包圍ハ攻者充分ナル兵力ヲ有スル場合ニ於テ兩海岸マテ其ノ翼ヲ延伸シ得ヘク此ノ如クニシテ半圓形ニ南山ヲ包圍スルニ至ル而シテ其ノ包圍ノ威力ハ陣地ノ正面狹小ナルニ依リ益々強烈ニシテ爲之散兵壕ヲ高地脚ニ設ケ該散兵壕ハ後方ニ聳ユル斜面ヲ以テ包圍スル敵ノ他正面ニ對スル背射斜射ヲ掩護シ得ヘキモ未タ以テ著シク其ノ不利ヲ消滅スル能ハス故ニ充分ノ兵力ヲ有シ重砲ヲ有スル敵ノ攻撃ヲ受クレハ陣地ノ支持困難ナルモノトス

(ホ)

陣地正面ノ狹小及敵攻撃地域ノ狹小ハ自己艦隊ヲ以テ兩方面ノ海岸ヨリ戰闘ニ協同セシメ得レハ南山陣地ノ狹正面ヲ適當ニ延長シ得ヘク且攻者ハ海岸以外ニ延伸スル能ハサルヲ以テ包圍ノ害ハ一部分救ハレ陣地ハ大ニ強度ヲ増加シ得ヘシ然レトモ日本軍艦ニシテ防者ノ妨害ヲ受ケス海面ヨリ戰闘ニ參加セハ敵包圍ノ環ハ完全ニ閉塞セラレ前逃セル南山陣地ノ不利ハ益々大トナリ全然陣地ノ固守ヲ不可能ナラシム然ルニ手瀆ハ狹クシテ容易ニ水雷ニヨリ閉塞シ自己海軍ノ活動ヲ許シ得ヘキモ金州灣ハ廣ク開放セラレ縦令水淺キモ砲艦水雷艇ノ近接ヲ許スヲ以テ敵軍艦ノ攻撃參與ヲ充分防止スル能ハス之レ海上權ノ問題ナリ然ルニ日本軍ノ上陸ハ日本海軍ノ海上權優越ヲ前提トスル

(ヘ)

カ故ニ南山陣地ノ左翼ニ日本海軍ノ大壓力ノ加ハルヘキハ豫期セサルヘカラス故ニ金州灣ニ對スル露軍海面ノ防備ハ特ニ嚴重ナラサル可ラス
南山陣地ハ敵ニシテ充分ナル兵力ヲ以テ兩海岸ニ亘リ攻撃シ來ルトキハ攻勢移轉頗ル困難ナリ兩側ノ海岸ニ沿ヒ攻勢移轉ヲナスモ該攻勢ハ狹隘ヲ越ヘテ展開セサルヘカラス而モ此ノ攻勢ハ敵ノ側面ニ向フ能ハスシテ敵ノ展開正面ニ衝突スルノ不利アリ恐ラク右攻勢ハ大房身方面ヨリ砲兵ノ援助並手瀆ニ於ケル海軍ノ援助ニヨリ手瀆沿岸ニ沿ヒ實施セラレサルヘカラス然レトモ敵ハ此ノ際其ノ翼ヲ後退セハ容易ニ之ヲ防キ或ハ却テ之ヲ包圍シ得ヘシ

(ト)

陣地ノ内部、交通並收容陣地ノ有無等ハ陣地ノ價值上目下頗ル小ナル利害ヲ有スルニ過キス時日ノ餘裕ハ其ノ不利ヲ修正シ得ヘシ

(チ)

故ニ南山陣地ハ露軍カ海上權ヲ有スル場合ニ於テハ金州ヲ前進陣地トシテ有利ナル一防禦陣地タラシメ得ヘキモ其ノ豫期シ難キハ前(ホ)項ニ述ヘタルカ如キヲ以テ一時持久陣地トシテ採用セラルヘキニ過キス若夫長時日ノ防禦ヲナサムトセハ豫メ永久築城ヲ以テ極メテ堅固ニ陣地ヲ編成シ特ニ海面ニ對シ敵軍艦ノ戰闘參與ヲ妨害シ之カ對抗手段ヲ講シ且多數ノ重砲ヲ有スルコト必要ナリ

南山陣地ノ害ヲ補フニハ如何ニスルヲ可トスルノ研究ハ趣味アル問題ナルモ茲ニ述ヘス以下掲出問題ニテ之ヲ行フ但シ既ニ其ノ一部ハ諸君トノ問答ニ於テ研究シタル所ナリ

南關嶺ノ陣地ニ對スル觀察

第七節 南關嶺ノ陣地ニ對スル觀察

- 一、此ノ陣地ハ金州狹隘ノ後方ニ位置シ右翼小房身ノ東方高地附近ヨリ左翼ハ土城子ニ亘ル陣地ニシテ其ノ延長ハ南山ノ東方北方及西方正面ノ合計ヨリ著シク長カラス兩翼ヲ安全ニ海岸ノ高地ニ依托シ要スレハ強大ナル兵力ヲ展開スルヲ得ヘシ
- 二、敵ノ攻撃地區ヲ比較スルニ南山ト南關嶺トハ全然反對ナル關係ヲ有ス攻者ハ南關嶺ノ線ヲ攻撃スル場合ニ於テ全然狹隘ヲ越エテ展開セサルヘカラス如何ニ濃密ナル散兵線ヲ作ルモ一師團半以上ヲ展開スルニ困難ナリ而シテ其ノ展開ハ晝間ハ露軍ノ有效ナル砲火ノ下ニ行ハサルヘカラス
- 三、陣地ハ展望及射界良好ナリ南山西南方ニ延伸セル高地脈ハ地區ヲ東西ニ二分スルモ各區ノ射撃ヲ妨害セス陣地ノ内部及後方ハ運動容易豫備隊ノ移動ニ適ス天氣晴朗ナル日ニ於テハ南山並其ノ以北ニ於ケル日本軍ノ運動ハ容易ニ觀察スルコトヲ得

- 四、金州灣ヨリスル日本軍艦ハ參與ニヨリ南關嶺防禦線ノ受クル不利ハ南山ノ防禦陣地ヨリ遙ニ少シ土城子ノ東方北方及西方高地ハ陣地ノ左外翼ヲ形成シ堅固ニシテ能ク陣地ヲ守護ス若左翼方面ニ重砲ヲ配置セハ尙能ク敵艦隊ニ對抗スルヲ得ヘシ又手灣ヨリスル自己ノ艦隊ノ協同ハ南山東正面ヨリ前進スル敵ヲ妨害シ敵ノ大部ニ對シ最有效ニ側背射ヲ加ヘ得ヘシ
- 五、南山ノ高地ハ高クシテ我カ陣地ヲ制スルモ高地上ニハ砲兵一聯隊以上ヲ併列スルコト困難ナリ同地制高ノ利益ハ露軍砲兵ノ集中の火力ニ依リ補ヒ得テ餘アリ若日本軍砲兵ニシテ南山ノ北方又ハ手灣ノ東方ニ陣地ヲ占領セハ其ノ陣地ハ距離遠クシテ其ノ歩兵攻撃ニ有利ナル援助ヲ與フルヲ得ス之ニ反シ南山以南ニ其ノ砲兵陣地ヲ進ムルトキハ近ク露軍ノ砲兵火ニ暴露シテ制下セラレ且ツ近接ニ過クル害アリ
- 六、逆襲ハ決シテ理想的ナラサルモ廣正面ヲ以テ狹正面ノ敵ヲ攻撃シ得ルノ利益アリ

第八節 第二及第四問題並附屬問題原案

其一 第二問題原案

「露軍ハ金州地峽附近ニ於テ如何ニ陣地ヲ構成シ如何ニ其ノ戰鬪要領ヲ定ムルヲ可トスルヤ」ニ

南山附近ノ戰鬪(上)

原案
判決

- 一、露軍ハ小房身東方高地ヨリ臺子山附近ヲ經テ土城子附近ニ亘ル線ヲ本陣地トシ南山高地ヲ前進陣地トナシ共ニ堅固ニ築城シ旅順ニハ最小限ノ兵力(多クモ一聯隊)ヲ殘置シ其ノ他ノ主力(二師團(一聯隊缺)及東狙一聯隊)ハステツセル自ラ之ヲ指揮シ日本軍ノ南山西方地峽進出ニ乘シ攻勢ヲ取ルヲ要ス但シ本陣地ハ獨リ露軍ノ攻勢ニ便スルノミナラス敵ノ攻撃ニ對シ頑強ニ防禦シ得ル如ク編成セサルヘカラス
- 又手灣方面ニ於テハ絕對ニ日本艦隊ノ進入ヲ妨害シ自己ノ有力ナル艦隊ヲ以テ會戰ニ參與セシメ金州灣ニ對シテハ水雷及土城子附近ニ重砲ヲ配置シテ日本海軍ノ戰鬪參與ヲ妨害シ成シ得レハ海軍ノ一部ヲ以テ同灣ニ於ケル敵ノ行動ヲ妨害セシムルヲ要ス
- 二、露軍ハ右本陣地ノ外前南關嶺西方高地線ヨリ蠟山ヲ經テ其北方高地ニ亘ル線ニ第二線陣地ヲ構成シ右本防禦線ノ支援並第二防禦線ヲシムルヲ要ス

理由

- 一、金州地峽附近ニ對スル日本軍ノ攻撃ハ一ニ其ノ東北方大陸方面ヨリ實施セラルルナラン該

地峽以西ニ於テハ、旅順要塞ニ近キト、露軍海岸防禦ノ爲日本軍カ有力ナル部隊ヲ以テスル上陸ハ至難ナリ

- 二、露軍ノ作戰計畫ハ始メ日本軍ニ對シ攻勢ヲ企圖セス其ノ主力ヲ南滿洲ニ集中シ又關東守備軍ハ極力日本軍ニ對シ防禦スルヲ要スルヲ以テ遠ク金州地峽ヲ超エテ前進シ各個ニ日本軍ヨリ撃破セラルルヲ避ケサルヘカラス之カ爲、龍爪山、老虎山、十三里臺子ノ線ハ關東守備軍ノ進出並攻勢據點トシテ適當ノ地點ナルモ作戰計畫並一般ノ情況上此ノ如キ長大ノ陣地線ニ築城シテ優勢ナル敵ト交戦スルハ危險ニシテ奏功ノ見込ナキヲ以テ之ヲ避ケサルヘカラス

- 三、日本軍ヲシテ旅順ノ攻圍ヲ遲緩セシメ且大連灣ノ占領ヲ妨害シテ日本軍主力ノ根據地獲得並攻城材料ノ揚陸ヲ不可能ナラシムル爲ニハ成ルヘク永ク金州地峽ヲ我有トスルコト必要ナリ之カ爲メ露軍ノ占領スヘキ防禦線ハ南山及其ノ西方南關嶺ノ兩線ノニアリ
- 四、南山ノ陣地ハ既ニ第六節第三問題防禦ノ目的ヲ以テ南山附近ノ地形ノ特性及利害ノ判斷原案ニ述ヘタル如ク優勢ニシテ重砲ヲ有シ且ツ制海權ヲ有スル敵ニ對シテハ縱令充分ナル工事ヲ施スモ到底永ク持久シ得サルノミナラス攻勢ニ不便ナリ之ニ反シ南關嶺ノ陣地ハ第七節南關嶺ノ陣地ニ對スル觀察ニ述ヘタル如ク敵ノ海軍ニ對シ兩翼安全ナルノミナラス陣

地ハ良好ナル射界ト正面ト有スルノミナラス敵ハ不利ナル態勢ニ於テ狹正面ヨリ狹隘ヲ超ヘテ展開セサルヘカラス而シテ攻者ハ良好ナル砲兵陣地少ナキニ拘ラス防者ハ能ク廣正面ヲ以テ集中火ヲ施シ集中的ニ攻撃前進ヲナシ得ルノ利アリ故ニ防者ハ南關嶺ノ線ヲ本陣地トシ最堅固ニ築城シ又南山築城陣地ニ於テ敵ノ前進ヲ妨害シ之ニ打撃ヲ與ヘ攻者カ比較的大ナル損害ヲ受ケ且ツ隊勢ノ整頓充分ナラスシテ狹隘ヲ進出スルニ乘シ之ヲ攻撃スルヲ適當トス故ニ南山陣地ハ前進陣地トシテ堅固ニ編成スルノミナラス比較的強大ナル部隊ヲ以テ占領セシムルヲ要ス然ルニ始ヨリ南山陣地ヲ敵ニ委スルハ敵ヲシテ整然タル狹隘進出ヲ企圖セシメ或ハ一部ヲ同地ニ殘置シテ我ニ對セシメ主力ヲ以テ一時北方ニ作戰スルノ行動ヲ容易ナラシムルノ不利アリ又兩方面ノ海面ニ關スル區處ハ敵海軍ニ對シ銳意カ防衛ニ努ムルコト甚タ必要ナリ

五、縱令攻撃効ヲ奏セサル場合ニ於テモ頑強ニ防禦ヲ實行シ機ヲ見テ攻勢ヲ取り得ムカ爲本陣地ハ充分堅固ニ編成シ更ニ前南關嶺西方高地ヨリ蠟山ヲ經テ其北方高地ニ亘ル線ニ第二線陣地ヲ構成シ本防禦線ノ支援及第二線陣地タラシメ要スレハ收容ノ用ニ供スルヲ適當トス

其二、第四問題

「南山陣地ノ築城及砲兵裝備ニ關スル觀察」並ニ附屬問題ニ對スル原案

原案

研究ノ便宜上先ツ附屬問題ヨリ研究ス

附屬問題第一

南山築城陣地ノ要圖ニ就テ

南山築城陣地ノ要圖ニ就テ

本要圖ハ謎ハ如キ此陣地ヲ精細ニ研究スル爲メノ基礎ニ供センカ爲メ出題シタルモノトス陣地ハ要圖ヲ一見シテ其ノ全般及細部ノ關係ヲ明察シ得ル如ク描畫セサルヘカラス之カ爲ニ三ノ要件ヲ左ニ掲ケン、

- 一、攻守ニ必要ナル前地及後方、側方等ノ地形ヲ充分ニ圖示シ又築城工事ノ位置ハ明確精密ニ描畫スルヲ要ス然ラサレハ築城的觀察ヲナスヲ得ヌ又成ルヘク小梯尺ノ一般圖ヲ添付シ以テ全般ノ情況ヲ明カナラシムルヲ良トス單ニ公刊日露戰史附圖第十二「露軍之防禦工事及備砲」ヲ摘記スルノミニテハ不可ナリ
- 二、陣地ニハ砲兵配備ヲ記シ置クヲ要ス然ラサレハ陣地生動セス表ト對照シテ初メテ明瞭トナル如キハ不便ナリ其ノ他通信網、彈藥庫、電燈ノ位置ヲモ記入スルヲ可トス
- 三、地區ノ區分ハ勿論記入シ其ノ他主要ナル事項即チ砲兵ノ火制方面等ハ其必要ト要圖ヲ著シク不明ナラシメサルトヲ顧慮シ記入スルヲ可トス

地ハ良好ナル射界ト正面ト有スルノミナラス敵ハ不利ナル態勢ニ於テ狹正面ヨリ狹隘ヲ超ヘテ展開セサルヘカラス而シテ攻者ハ良好ナル砲兵陣地少ナキニ拘ラス防者ハ能ク廣正面ヲ以テ集中火ヲ施シ集中ニ攻撃前進ヲナシ得ルノ利アリ故ニ防者ハ南關嶺ノ線ヲ本陣地トシ最堅固ニ築城シ又南山築城陣地ニ於テ敵ノ前進ヲ妨害シ之ニ打撃ヲ與ヘ攻者カ比較的大ナル損害ヲ受ケ且ツ隊勢ノ整頓充分ナラスシテ狹隘ヲ進出スルニ乘シ之ヲ攻撃スルヲ適當トス故ニ南山陣地ハ前進陣地トシテ堅固ニ編成スルノミナラス比較的强大ナル部隊ヲ以テ占領セシムルヲ要ス然ルニ始ヨリ南山陣地ヲ敵ニ委スルハ敵ヲシテ整然タル狹隘進出ヲ企圖セシメ或ハ一部ヲ同地ニ殘置シテ我ニ對セシメ主力ヲ以テ一時北方ニ作戰スルノ行動ヲ容易ナラシムルノ不利アリ又兩方面ノ海面ニ關スル區處ハ敵海軍ニ對シ銳意之カ防衛ニ努ムルコト甚タ必要ナリ

五、縱令攻撃効ヲ奏セサル場合ニ於テモ頑強ニ防禦ヲ實行シ機ヲ見テ攻勢ヲ取り得ムカ爲本陣地ハ充分堅固ニ編成シ更ニ前南關嶺西方高地ヨリ蠟山ヲ經テ其北方高地ニ亘ル線ニ第二線陣地ヲ構成シ本防禦線ノ支援及第二線陣地ヲラシメ要スレハ收容ノ用ニ供スルヲ適當トス

其二、第四問題

「南山陣地ノ築城及砲兵裝備ニ關スル觀察」並ニ附屬問題ニ對スル原案

問題

原案

原案

研究ノ便宜上先ツ附屬問題ヨリ研究ス

附屬問題第一

南山築城陣地ノ要圖ニ就テ

南山築城陣地ノ要圖ニ就テ

本要圖ハ謎ノ如キ此陣地ヲ精細ニ研究スル爲メノ基礎ニ供センカ爲メ出題シタルモノトス陣地ハ要圖ヲ一見シテ其ノ全般及細部ノ關係ヲ明察シ得ル如ク描畫セサルヘカラス之カ爲二三ノ要件ヲ左ニ掲ケン、

- 一、攻守ニ必要ナル前地及後方、側方等ノ地形ヲ充分ニ圖示シ又築城工事ノ位置ハ明確精密ニ描畫スルヲ要ス然ラサレハ築城ノ觀察ヲナスヲ得ス又成ルヘク小梯尺ノ一般圖ヲ添付シ以テ全般ノ情況ヲ明カナラシムルヲ良トス單ニ公刊日露戰史附圖第十二「露軍之防禦工事及備砲」ヲ摘記スルノミニテハ不可ナリ
- 二、陣地ニハ砲兵配備ヲ記シ置クヲ要ス然ラサレハ陣地生動セス表ト對照シテ初メテ明瞭トナル如キハ不便ナリ其ノ他通信網、彈藥庫、電燈ノ位置ヲモ記入スルヲ可トス
- 三、地區ノ區分ハ勿論記入シ其ノ他主要ナル事項即チ砲兵ノ火制方面等ハ其必要ト要圖ヲ著シク不明ナラシメサルトヲ顧慮シ記入スルヲ可トス

南山附近ノ戰圖(上)

又工事ノ断面ハ別ニ記スルヲ可トス

四、備考ニハ築城の細件例令ハ散兵線ハ掩蔽部ヲ有スルコト、鐵條網、地雷並通信網等ニ關スル若干ノ説明ヲ附記スルヲ可トス

附屬問題第二原案

築城の體素

一般觀察

一、一般的觀察

附屬問題第二原案
南山陣地ノ築城の體系並其本領
其ノ一 築城の體系

南山附近ヲ陣地ノ主體トシ金州ヲ前進陣地トシ大房身ノ半島及南山西北方地帯ヲ以テ陣地ヲ側防シ金州灣ハ水雷ニ依リ、又手灣ハ自己海軍ノ援助及水雷ニヨリ南山陣地ノ缺點ヲ補ヒ頑強ナル防禦ヲ實施セムトス

二、陣地主體ノ觀察

(A) 陣地ノ組織

(イ) 第一線(主陣地)(高地脚附近)

高地脚ニ沿ヒ全高地ヲ圍繞スル步兵陣地及據點ヲ主體トシ高地斜面並高地頂附近ニ於テ重疊射撃ヲ實施シ得ル散兵壕ヲ併用シ主陣地ヲ成形ス
第一線ハ第二、第一角面堡、第三、第四眼鏡堡ニヨリ主正面ノ據點ヲ成形シ右翼端

陣地主體ノ觀察
陣地ノ組織
第一線

副第一線

(ロ) 副第一線陣地(支援陣地)又ハ第二線及砲兵陣地(高地頂附近)

特ニ高地頂ニ沿ヒ第四、第五、第六、第七、第九、第十、第十一、第十二ノ八砲臺並第八、第九、中央ノ三個ノ角面堡アリ南部高地(扇子山)ニハ第二、第三、第十三、第十四砲臺アリ而シテ之等ノ陣地ハ凡テ少シク下降セル山背ニ於ケル步兵陣地ニヨリ圍繞セラレ交通壕ヲ設ク

右ノ中高地斜面ニ於ケル散步壕並高地頂附近ノ陣地ハ第一線主陣地ト共ニ重層配置ヲ以テ第一線ノ抵抗力ヲ増加シ同時ニ止ムヲ得サル場合ニ於ケル第二線陣地ヲ成形ス而シテ第八、第九角面堡ハ據點トナリ堅固ニ設備セラレ
背面ニ對スル支援陣地カ特ニ連續散兵壕ニヨリ設備セラレ砲臺ノ裝備嚴ナルニ注意スヘシ

南山附近ノ戰鬥(上)

内部防禦線

複郭

前進散兵壕
及補備陣地

註
露軍ハ實際
ノ配備ニ際
シ硯池河南
方陣地ヲ殆
ント主陣地
的ニ使用セ
リ
右翼地區

砲兵陣地ニ關シテハ砲兵裝備一覽表竝ニ後ニ述フル處ニ依ル(B、防禦正面各地區ノ觀察參照)
内部防禦線

(ハ) 北面スルモノハ中央角面堡ヲ據點トシテ其ノ前方ノ散兵壕竝其ノ西北方獨立散兵壕、第十砲臺南方散兵壕ニ亘ル線及第二砲臺附近ノ散兵壕又ハ一一五、二北端散兵壕ノ二線ナルモ後者ハ寧ロ複郭ノ北防禦線ト見ルヘシ
複郭(局部複郭)

(ニ) 中央角面堡及標高一二五、二ノ高地ノ二ヶ所ニシテ共ニ主トシテ東面及北面ノ防禦設備ヲ施セルモ其ノ設備ハ單簡ナリ
前進散兵壕竝補備陣地

(ホ) 記家屯南方ニ於ケル散兵線ハ右翼ニ於ケル補備陣地ニシテ劉家屯附近ノ散兵壕ハ警戒部隊等ノ爲メノ輕易ナル前進散兵壕ナリ又硯池河南方ノ步兵陣地ハ北正面竝第九角面堡ト相待テ頑強ナル抵抗ヲナスヘキ前進步兵陣地(要スレハ主陣地)ナリトス
(イ) 防禦正面各地區ノ觀察(地區ノ區分ハ露國公刊戰史ノ區分ニ從フ)
右翼地區(手灣ヨリ第一角面堡ニ至ル)

中央地區

左翼地區

二個ノ角面堡ヲ據點トシ長散兵壕及一砲臺ヨリ成リ南山(扇子山)高地ト手灣ニ至ル海岸ヲ制シ手灣ノ淺瀬ヲ經テ右翼ヲ包圍セムトスル行動ヲ妨害シ反テ敵ヲ包圍セムコトヲ努ム而シテ此ノ目的ノ爲散兵壕ヲ手灣海岸ニ沿ヒ延長シ又小房身東方高地ニ八七密砲四門ヲ備フ
又此ノ地區ハ同時ニ中央地區東方正面ヲ援助スルモノトス
(ロ) 中央地區(第一角面堡ヨリ第九角面堡ニ至ル)
主要正面ニシテ大體ニ於テ二個ノ重層步兵陣地ヨリ成リ上部ハ二角面堡(中央角面堡及第八角面堡)及六砲臺(第十四、二、三、四、五、九)竝第六第七豫備砲臺ヨリ成リ下層ノ線ハ二眼鏡堡(第三、第四)ヲ據點トスル長散兵壕ニシテ此ノ地區ハ南山ノ主要ナル防禦正面ヲ形成ス
(ハ) 左翼地區(第五角面堡ヨリ第十五砲臺ニ至ル)
二若ハ三線ヨリ成リ上層線ハ第九角面堡及五砲臺(第十、十一、十二、十三、十五)ナルモ第十二砲臺ニハ備砲ナシ
又第十五砲臺ハ最左翼ノ據點ニシテ硯池河南方步兵陣地ニ關シテハ前掲A、陣地ノ組織(ホ)ヲ參照スヘシ
南山附近ノ戰間(上)

(ニ) 背面ハ二層ノ散兵壕ニシテ第五眼鏡堡之カ據點タリ第一角面堡西方散兵壕及第十五砲臺東南方散兵壕ハ共ニ背面ヲ側防ス

(C) 砲兵配置

詳細ハ砲兵裝備一覽表ニ讓ルモ概要東正面ニ對シテハ第一、第二、第三、第四、第五ノ五砲臺並中央角面堡、第二角面堡ノ諸火炮及第十三、第十四砲臺ヲ補助トシテ使用シ得ヘク又第六、第七ノ豫備砲臺アリ

北正面ニ對シテハ第五、第九及第十砲臺並中央角面堡ノ諸砲及豫備タル第七砲臺ヲ此ノ方面ニ向クルヲ得

西北正面ニ對シテハ第十第十一第十二第十五及中央角面堡ノ諸砲並一部ハ第九砲臺ヲ以テ火制シ得

西南正面即チ背面ニ對シテハ第十五第十二(砲ナシ)第十三第十四砲臺並一部ハ第二砲臺ヨリ射撃ヲ施行シ得ル如ク設備セラル

三、陣地兩翼ノ形勢及海面防備等ハ大體説明セルヲ以テ茲ニ細説セス

其ノ二本領

一、陣地ノ編成ハ概シテ專守的ニシテ頑強ナル防禦ヲナスヲ目的トシ防禦線ハ重層セル外數次

ノ抵抗ヲモナシ得ルニ努メタリ而シテ攻勢ニ使用スヘキ地域ハ何レモ其ノ幅ニ乏シク左翼方面ニ於テハ運動容易ナルモ敵艦ノ爲妨害ヲ受ケ實施困難ナリ之ニ反シ右翼方面ニ於テハ自己艦隊ノ援助ヲ期待シ得ルモ障礙物ノ密設ニヨリ出撃又容易ナラス

二、陣地正面ノ強度ハ東正面ヲ最トシ次ニ北正面次ニ西北正面ニシテ又背面攻撃ニ對シ充分ナル設備ヲ施セリ

附記、コンドラテンコ少將ノ陣地判斷

陣地中最危険ナル地區ハ右翼ニシテ中央地區モ亦稍危険ナリ之ニ反シ左翼地區ハ南山陣地ヨリ正面火並十字火ヲ施シ得ルヲ以テ敵ノ此ノ方面ニ對スル主攻撃ハ不可能ナリ唯谷地内ノ通路ヲ障礙物ニヨリ塞クヲ以テ足レリトス
ステツセル將軍又此ノ陣地判斷ニ同意ヲ表セリ
又全陣地ノ守兵ハ歩兵三大隊ヲ最小限トシ其ノ内若干(後ノ問題ニ關係アルヲ以テ後掲ス)ヲ警戒ノ爲金州ニ出スヲ必要トス云々

附屬問題第三、「砲兵裝備一覽表原案」

南山附近ノ機關(上)

第四問題「南山陣地ノ築城及砲兵裝備ニ關スル觀察」ニ對スル原案

第一、大體ノ判斷

一、南山ノ陣地ハ多大ノ日子ト努力トヲ以テ堅固ニ構築シ旅順ノ前進陣地トシテ金州地峽ヲ制シ且日本軍ニ對シ大連灣占領ヲ妨碍シ持久ノ目的ヲ以テ頑強ナル抵抗ヲ企圖シ得ルニ努メタルモ戰爭前露軍カ同地附近ニ永久的築城ヲ築設セザリシ過失ト同地附近地形ノ不利ハ同地築城設計ノ過失ト相待テ遂ニ南山陣地ノ不利ヲ充分ニ修正補足シ得ルニ至ラス其ノ陣地ハ縱令展望射界共ニ良好ニシテ工事ノ強度大ナルモ正面狭ク攻勢移轉困難ニシテ各方面ヨリ包圍セラレ、ヲ以テ制海權ヲ有シ重砲ヲ有セル優勢ナル敵ニ對シテハ陣地ノ保持殆ト不可能ニシテ單一時ノ持久ニ適スルニ過キス

陣地ヲ何處ニ撰定スヘキヤニ關シテハ既ニ研究セシヲ以テ茲ニ述ヘス

二、全陣地ノ組織及配置ハ錯雜ニシテ爲ニ統一及指揮困難ナリ而シテ其ノ戰鬥陣地ハ構成及砲兵ノ配置及裝備ハ先入的判斷ニヨリ陣地ノ撰定及正面ノ強弱（歴史的ニ南山陣地ヲ占領セルト）ニ大ナル差異ヲ生セルノミナラス其設備ハ屢近世戰鬥ノ要求ニ適應セシムルノ術ヲ

解セシテ近世火器ノ効力ヲ無視シ之カ利用ヲ誤リタルモノ多ク又其ノ備砲ハ不充分ナリト認ム

第二、築城ニ關スル細部ノ觀察

一、防禦正面ノ強度ニ就テ

(イ) 工事ハ東方面極メテ堅固ニシテ北正面之ニ次キ西北正面ハ輕易ナリ而シテ障礙物モ亦然リ元來防者ハ數方向ヨリスル敵ノ主攻撃ヲ豫想シ之ニ對シテ築城セサル可ラス此ノ如キ止阻陣地ニ於テ殊ニ然リトス故ニ西北正面ノ工事ヲ輕易ナラシメタルハ適當ナラス

支點堡壘ヲ硯池河西南約六〇〇米ノ高地斜面附近ニ更ニ設ケ同方面ヲ一層堅固ニ構築スルコト必要ナリ（防禦正面ノ砲兵裝備ニ關シテハ後述ス）又西北正面ニハ一層多クノ障礙物ヲ設置セサル可ラス

(ロ)

背面ヲ堅固ニ構築シタルハ全ク必要ナシ之レ優勢ナル日本軍カ背後ニ上陸シタル場合ニ於テハ陣地ハ之ヲ維持スル能ハス故ニ閉鎖堡ヲ設ケ砲兵ヲ配備シ陣地ヲ數線ニシ障礙物ヲ設ケタルハ誤謬ナリ背面陣地ハ殆ト省略シ極メテ輕易ナル設備ニテ可ナリ

二、散兵壕及據點ニ就テ

南山附近ノ戰鬥(上)

(イ)

散兵壕ヲ斜面脚ニ設ケ重層射撃ノ設備ヲナシタルハ陣地ノ狹正面ヲ補ヒ砲兵火ヲ免ル、考案ナルモ過度ニ至ル處迷宮ノ如ク數線トナシ特ニ下部散兵壕ヲ金州灣ヨリ手灣迄一連トナシタルハ同意シ難シ

「散壕兵ノ一線配置ハ兵力及彈藥ノ浪費ニシテ相互ノ援助困難ナリ又其ノ規正の設置ハ發見容易ニシテ敵ノ目標トナルノミナラス敵ノ側射斜射ヲ蒙リ敵兵一度陣地ニ進入セハ捲キ上ケラルル害アリ然レトモ露軍ノ犯セル過失ハ其閉鎖堡ノ設置ニヨリ多少其ヲ不利ヲ救ヒ又散兵壕前ニ突出セル眼鏡堡ニヨリ側防ヲ可能ナラシメタリ然レトモ高地脚ニ設ケシ此ノ如キ散兵壕ハ火線ノ延長大ニシテ大守備隊ヲ要シ兩者ヲ相互ニ援助スルコト困難ナル害アリ」

但シ守備隊ノ兵力ニシテ實施セル如ク約一聯隊(防禦工事ノ基礎計畫ニヨリ定ムル兵力)ナルカ如キ場合ニ於テハ斯ノ如ク高地脚ニ散兵壕ヲ設ケ散兵線ヲ延長スルハ不可ナリ寧ロ之ヲ高地上ニ尙近キ斜面ニ設ケ敵砲火ヲ免ルルト同時ニ互ニ側防シ得ル支撐點及中間陣地ヲ設ケ其ノ延長ヲ縮少スルヲ適當トス而シテ又現在高地上ニ設ケラレタル陣地ハ擬陣地ニ應用スルヲ可トス

(ロ)

重層散兵壕ニハ不要ナルモノ少カラス勉メテ不要ノ工事ヲ省キ防禦主線ヲ堅固ニスル

(ハ)(ニ)

コト必要ナリ又右翼方面ノ散兵壕モ延長稍過度ニ失セリ

經始及堡壘ノ配備ニヨリ一層側防ノ方法ヲ講スルヲ要ス

南山東北角ノ尖角ハ不利ナルヲ以テ其ノ位置ヲ尙少シク後退セシメ(第八角面堡前ノ散兵壕附近)經始ト配置ト障礙物竝側防トニヨリ凸角ノ不利ヲ消滅スルヲ要ス

断面ノ研究ハ之ヲ省略ス

複郭ノ配置ハ稍茫漠タルノ感アリ若之ヲ設クルトセハ一層強力ノモノタルヲ要ス

三、地區ノ區分

地區ノ區分明瞭ナラスシテ統帥指揮困難ナリ第三眼鏡堡南方ノ乾壕ヨリ第九角面堡ノ南方ニテ標高四三、四ノ高地西方ノ谷迄ヲ中央地區トシ其ノ他ヲ右翼及左翼地區ニ區分スルヲ適當トス

四、砲兵陣地ニ就テ

イ、砲兵陣地ノ大部ヲ高地頂又ハ高地ノ前方斜面ニ設ケテ暴露陣地トナシ敵ノ發見及射撃ヲ容易ナラシメタルハ適當ナラス宜シク優勢ナル砲兵ニ對スル場合ヲ顧慮シ遮蔽陣地ヲ占領セシムルヲ可トス

即チ五月十六日十三里臺子附近ニ於ケル露軍砲兵中隊ノ經驗ヲ考慮セサルヘカラス

南山附近ノ戰圖(上)

地區ノ區分

砲兵陣地

註
關東半島方

面ニ於テハ
爾後尙露軍
ハ多ク暴露
陣地ヲ占領
セシモ滿洲
ニ在リシ露
軍主力ハ漸
次殆ト遮蔽
陣地ヲ占領
スルニ至レ
リ

當時同地ニ陣地ヲ占領セル一砲兵中隊ハ暴露陣地ヲ占領シ半時間ノ間ニ同中隊ノ全將校及兵卒ノ半数ヲ失ヘリ然ルニ當時遮蔽陣地ヲ占領セル他砲兵中隊ハ何等ノ損害ヲ受ケス優勢ノ敵ニ對シ效力アル射撃ヲ持續シタリキ

ロ、重砲殊ニ擲射砲ヲ高地ニ配備シタルハ適當ナラス斯ノ如キハ殆ト射法ノ如何ヲ解セサルモノト謂ハサル可ラス

例ヘハ第十三砲臺(扇子山)ノ東北方谷地ニ重砲ヲ配置シ南山最高點附近ヨリ電話ヲ以テ指揮セハ恐ラク戰鬪當日最後迄沈黙スルコトナク陸海兩方面ニ對シ有利ニ射撃戰鬪ヲ繼續スルヲ得シナラン

ハ、火砲ノ配置稍分散ニ過キ恰モ單砲射撃的ナリ編成上ノ關係ノ然ラシムル所ナルモ適當ニ集團分離スル如ク配置セサルヘカラス

又別種ノ火砲ヲ同一砲臺内ニ配置シ又堡壘内ニ火砲ヲ配置シタルハ共ニ適當トハ認メ難シ

ニ、火砲ノ配置ハ東正面ニ最多シ而シテ北正面ノ西北正面ニ比シ著シク少キハ誤謬ト云フヘシ各方面ニ對スル威力關係ハ附表第一砲兵裝備一覽表ニ明ナリ

ホ、側防砲兵ノ設備少キニ失ス殊ニ北正面ニ對シ不充分ナルハ不可ナリ又背面ニ對スル砲

臺ノ配置ハ殆ト不用ナリ

例ヘハ第十三、第十四砲臺ノ如シ

ヘ、金州灣方面ニ對スル重砲ノ配置充分ナラス「ダルニー」又ハ柳樹屯方面ノ火砲ノ大部ヲ南山ノ谷地又ハ土城子附近ニ移スヲ可トス然ラスムハ旅順ヨリ重砲ヲ更ニ同地ニ差遣スヘシ

六

ト、豫備砲臺ヲ設ケタルハ可ナルモ豫期スヘキ敵ノ數多ノ攻撃方向ニ對シ得ル如ク尙少シク増設ヲ必要トセン

チ、重砲ノ數少ク殊ニ新式砲少ナク舊式砲ヲ配置シタルハ適當ナラス

五、障礙物ニ就テ

六、障礙物ハ東方面最堅固、北方面、西北正面之ニ次キ背面最薄弱ナリ然レトモ全線ヲ閉塞スル如ク障礙物ヲ設置シタルハ却テ不利ニシテ障礙物ノ設置ニ多大ノ勞力ヲ要シ之カ爲メ障礙物ヲ充分必要ノ點ニ設ケル能ハサルニ至レリ又攻撃移轉ニ不便ナリ

又其ノ西北正面ハ第十、第十一、第十二、第十五砲臺ノ側防火ヲ以テ露軍ハ充分敵ノ近接攻撃ヲ擊退シ得ヘシト信シタルカ如キモ此ノ場合ニ於テハ砲兵ハ既ニ效力ヲ表ハシ得サルコトヲ思ハサルヘカラス即チ西北方面ハ一層障礙物ノ強度ヲ増加シ増設セサルヘカラス

又背面ニ對シ多クノ障礙物ヲ設ケタルハ適當ナラス省略シテ可ナリ（蘇家屯附近障礙物ヲ見ヨ）

障礙物ノ位置ハ敵ニ發見セラレ易ク且陣地迄ノ距離遠ク其ノ深サ充分ナラサルハ共ニ宜シカラス

又第八第九角面堡前ニ障礙物ヲ設クルヲ必要トス

六、掩蔽部ハ其ノ數未タ充分ナラス掩壕並交通壕ノ設備不充分ニシテ敵ニ發見セラレ易シ

七、前地ノ清掃等ニ關シテハ尙不充分ナル點アリ馬家屯、千家屯等ノ部落ハ或ハ障礙ニ編成シ或ハ之ヲ燒却スルヲ要ス

八、彈藥室ノ設備ハ充分ナルモ彈藥ノ裝備不充分ナルノミナラス又之ヲ補給法ヲ講セサルハ適當ナラス

九、電線ヲ地上線トナシタルハ適當ナラス主要ナルモノハ地下線トナスヲ要ス

十、電燈ヲ配置シ各堡壘間ニ通信網ヲ設備シタルハ近世戰闘ノ要求ヲ顧慮シタルモノト認ム然レトモ電燈ハ各地區ニ少クモ一個宛配置スルヲ要ス

十一、金州ヲ前進陣地トシ之ニ防禦設備ヲ施シタルハ可ナルモ南關嶺ノ線ニ何等ノ工事ナキハ不用意ト云フヘシ

要スルニ露軍ハ南山附近ニ於ケル築城ハ

1. 時代ニ伴ハサル舊式築城ナリ
2. 火力ノ明瞭ナル區分ナク恰モ迷宮ノ如ク不秩序ナル設備ヲ施シ
3. 守備隊ノ兵力ハ陣地ノ正面ニ適應セス
4. 主線ハ長線ナル一線配備ニシテ又其ノ砲兵陣地ハ其ノ用法ニ適合セス
5. 障礙物ハ之ヲ間斷ナク設置シテ攻勢移轉ヲ不便ニシ
6. 戰術上必要ナキ背面ニ多大ノ勞力ヲ費シ
7. 殊ニ先入的見地ヨリ獨リ東正面ニノミ全力ヲ傾注シタルハ共ニ適當ナラサルモノト認ム

第九節 南山戰闘前ニ於ケル露軍ノ情況

ステツセル中將ハ旅順前方地帯ノ防禦ノ爲東狙兵第四師團（長フオツク少將、東狙歩兵第十三乃至第十六聯隊、野砲兵四中隊外ニ東狙歩兵第五聯隊ヲ屬ス）ヲ充テ又コンドラチエンコ少將ノ指揮スル東狙兵第七師團（東狙歩兵第二十五乃至第二十八聯隊及野砲兵五中隊）ヲ以テ直接旅順ノ守備ニ任ス

五月十八日
フオック少
將ノ部隊ノ
配置

五月十八日フオック少將ノ部隊ハ大要次ノ配置ニアリ

二四六

東狙歩兵第十六聯隊及野砲兵第四中隊

大連

東狙歩兵第十三聯隊及野砲兵第三中隊ノ六門

南關嶺停車場附近

東狙歩兵第十四聯隊及砲兵第三中隊ノ二門

前南關嶺

東狙歩兵第十六聯隊ノ乘馬獵兵

南山陣地

東狙歩兵第五聯隊

柳樹屯

第四補充歩兵大隊

五月二日ヨ
リ五月十九
日ニ至ル概
況

日本軍ニ對
スル兵力判
斷

是ヨリ先キ五月二日夜ニ於テ日本海軍第三回ノ閉塞ハ旅順港口ニ對シ實施セラレ日本軍ハ多大ノ犠牲ヲ拂ヒ大ニ努力セシカ其ノ結果ハ末タ港口ノ出入ヲ妨害スルニ至ラス續テ日本第二軍ノ上陸ハ露軍ノ妨害ナク遼東南岸ニ實施サレ五月十五日フオック少將ハ部下支隊ノ一部ヲ以テ十里臺子附近(主力ハ遠ク後方ニアリ)ニ於テ日本軍ト交戦セシカ敵兵優勢ナルニヨリ決戦ヲ避ケテ南山以西ニ退却シ日本軍ハ逐次金州ニ向ヒ緩徐ニ前進セリ

五月十八日老虎山ノ西方斜面ニ於テ露軍獵兵隊ハ日本軍歩兵三中隊ト衝突ス

當時露軍統帥部ハ日本軍ノ主力ハ攻城砲ヲ有スル歩兵約三萬、騎兵約千五百ヨリ成ルト判斷セリ

砲兵射撃

問題

露軍砲兵射
撃ノ判斷

所見

翌十九日金州方面ノ情況ハ至テ靜肅ニシテ時々日本軍ノ斥候ハ老虎山西方及南方斜面附近ニ出沒徘徊スルヲ見ル

此ノ日試射ノ目的ヲ以テ南山陣地ノ砲兵ハ肖金山及徐家屯北方93ノ高地ニ顯ハレタル日本軍哨兵ニ對シ數發ノ射撃ヲナシタリシカ日本軍哨兵ハ直ニ消滅セリ

第五問題 (即席)

露軍砲兵射撃ノ判斷

右問題所見

- 一、大ナル理由ナク過早ニ射撃ヲ開始スルハ徒ラニ其ノ配備ヲ暴露スルノミニシテ害アリテ益ナシ
- 二、試射トセハ日本軍ノ近迫セサル以前ニ行フヲ可トス
- 三、若試射ヲ行フトセハ砲兵射撃上ノ主要地點ニ向ヒ行フヲ可トス

情況

午後四時東狙第五聯隊ノ第一大隊ノ徒歩獵兵並第三中隊ノ一小隊ハ劉家店ヨリ徐家屯北方93高地ニ對シ散開前進シ同地ニ獨立下土哨ヲ配置シタル後歸還セリ同隊前面ニ在リシ日本軍ノ斥候

南山附近ノ戰圖(上)

二四七

ハ之カ爲退却セリ

此日旅順ヨリ南山陣地ニ機關銃四挺、又小房身東方高地ニ配置スル爲八十七密支那砲二門並五十七密砲兵一中隊到着ス

右ノ外金州灣ニ沈設スル爲機械水雷ヲ送附セラル

(コンドラランコ少將ハ機關銃ハ野戰及要塞戰ニ最モ必要ナリトシ各四挺ヨリ成ル中隊四個ヲ海軍々人ヲ以テ編成シ之ヲ逐次東狙步兵第五、第十三、第十四聯隊ニ配屬セリ)

第六問題 (講堂作業)

五月十九日夜ニ於ケルステツセル中將ノ情況判斷

注 意

判決及理由ノミ

右原案 判決

一部ヲ以テ南山陣地ヲ防禦セシメ關東兵團ノ大部ヲ前南關嶺及後南關嶺附近ニ集結シ機ヲ見テ南關嶺ノ線ヨリ攻勢ニ轉スルヲ要ス

主力ノ陣地線ハ小房身東方高地ヨリ臺子山ヲ經テ土城子附近ニ亘ル線ニ選定ス

此ノ問題ト類似セルモノハ既ニ研究セリ目下現情況ニ鑑ミ更ニ着眼ヲ新ニシ研究セシム

問題

理由

一、日本軍ノ攻勢前進ハ豫期ノ如ク金州方面ニ對シ實施セラレ其ノ本攻撃ハ近ク開始セラルルナラム而シテ其ノ兵力ハ縱令逐次上陸スル後續梯團ヨリ増加ヲ受クルモ一部ヲ以テ北方即チ露軍主力方面ニ對シ警戒スルヲ要スルカ故ニ步兵三萬及其ノ他ノ兵種ヨリ成ル若干部隊ヲ著シク超ユルコトナカルヘシ(第七節露軍兵力ノ判斷參照)

二、此ノ如キ優勢ニシテ尙攻城砲ヲ有スル敵ニ對シテハフオック支隊ノ一部ヲ以テ南山ノ築城陣地ヲ永ク防禦セシムルコト甚タ困難ナリ殊ニ同少將カ初ヨリ旅順ニ向ヒ退却スヘキ企圖ヲ有スルト日本軍艦ノ金州灣方面ヨリ戰鬪ニ參與スル場合ニ於テ然リトス

三、關東兵團ハ成ルヘク永ク金州地峽ヲ保持シ以テ日本軍ヲシテ大連灣ノ占有並旅順ノ攻圍進捗ヲ妨ケ又ハ日本軍カ一部ヲ以テ同地峽ヲ扼守シ主力ヲ以テ北方ニ作戰スル行動ヲ妨害セサルヘカラス已ムヲ得サレハ旅順ニ退守シテ日本軍ヲ牽制シ露軍主力將來ノ攻勢ヲ便ナラシムルト同時ニ露國東洋艦隊ノ根據地ヲ永ク維持スルコト必要ナリ

四、南山ノ陣地ハ縱令其ノ兵力ヲ増加スルモ既ニ研究セル如ク正面ノ狹小ト包圍ヲ受クヘキト敵艦隊ノ有威ナル協力ト尙攻勢ニ轉スルニ不便ナルト同時ニ到底露軍ヲシテ充分ナル兵力ヲ使用スルコトヲ許ササルトヲ以テ永ク同陣地ヲ防禦スルニ適セス早晚退却ノ己ムナキニ

南山附近ノ戰鬪(上)

至ルヘシ果シテ然ラハ露軍カ有力ナル部隊ヲ以テ同陣地ニ於テ不利ナル防禦戰闘ヲ交ヘ遂ニ其ノ兵力ヲ消耗シ直ニ旅順要塞ノ運命ヲ危殆ニ瀕セシムルハ露軍ノ主力カ遠ク後方ニ集中シテ將來兵力優勢トナリタル曉斷乎トシテ攻勢ニ轉セムトスル全般ノ戰略的計畫上決シテ有利ナリトセス然ラハ單ニ一部ヲ以テ南山ヲ固守セムカ陣地ノ陷落ハ旦夕ノ間ニ決セラレ此ノ如クニシテ露軍ハ速ニ退テ旅順ノ要塞ニヨリ防守スルノ已ムナキニ至リ日本軍ヲシテ迅速且有利ニ其ノ攻圍ヲ實施セシムルカ或ハ其ノ一部ノ兵力ヲ牽制シ得ルニ過キササルニ至ラン

五、日本軍目下ノ兵力ハ歩兵ニ於テ三萬ヲ越エス而シテ尙若干ノ攻城砲ヲ有スルニ過キササルヘシ(本節露軍當局者ノ日本軍ニ對スル兵力判斷參照)若關東兵團ニシテ其ノ殆ト全力ヲ糾合セハ歩兵少クモ二師團並多數ノ重砲兵ヲ使用シ得ルヲ以テ優ニ日本軍ト對抗スルヲ得ヘシ日本軍ハ將來益々雄大ナル兵力ヲ上陸セシメ得ルカ故ニスラツセル中將ハ再ヒ生セサル可キ此ノ好機ヲ逸セス日本軍ニ對シ大打撃ヲ與フルニ努ムルヲ良トス然レトモ南山ヲ捨テ進ンテ敵ノ包圍圈內ニ前進シ對等ノ戰闘ヲ交フルカ如キハ露軍兵力ノ稍弱勢ナルト殊ニ重砲及野砲ノ使用ノ不便上勝算ナシ然ルニ南山ニ於テ決戰セムトセハ前第四號ニ述ヘタル如キ不利アリ故ニ宜シク一部ヲ以テ南山ノ築城陣地ヲ妨禦シ敵ニ大損害ヲ與フルニ努ム此ノ

間主力ハ既ニ研究セル南山ノ南方南關嶺ノ線ニ於テ攻勢ヲ準備シ日本軍ノ狹隘進出ニ對シ斷然タル攻勢ヲ企圖スルヲ可トス此ノ際露軍ハ優勢ナル重砲兵及野砲兵ヲ展開シ大ナル兵力ヲ以テ猛然其ノ攻撃ヲ實行シ得ヘシ之カ爲旅順ニハ最小限ノ守備隊(多クモ歩兵一聯隊)ヲ殘置シ其他總テ野戰ニ使用シ得可キ全力ヲ集メ前後南關嶺附近ニ其ノ兵力ヲ集合シ且其ノ陣地ニハ應急ノ築城工事ヲ施スヲ適當トス

注意

- 一、海面ニ關スル區處並攻勢ニ關スル考案等ハ總テ前ニ述ヘタル處ヲ參照スヘシ
- 二、旅順ニ殘置スヘキ最小限ノ守備隊モ又適時南關嶺ノ會戰ニ參與シ得ル準備ヲナシ鐵道列車ヲ準備ス

所感及所見

攻勢移轉ハ古來誠ニ之ヲ難シトスル所ナリ而シテ其ノ任務カ全然守勢ナル時ニ於テ殊ニ然リトス日露戰爭ニ於テ露軍ハ初ヨリ戰略的守勢ニ出テ爾後戰術及戰術上殆ト多クハ絶對的守勢ニ出テタリ縱令一時攻勢ヲ取リタル時ナキニアラサルモ其ノ攻勢ハ氣力ヲ缺キ斷乎タル遂行ヲ缺如シタリキ之ヲ現歐洲戰ニ於ケル露軍ノ作戰ニ見ルニ又屢同様ノ現象ヲ暴露ス之ニ反シ獨軍ハ兵

數縱令寡弱ナリシ場合ニ於テモ屢露軍ニ對シ決然タル攻勢ニ出テ兵力運用ノ妙ト相待テ偉効ヲ奏セリ而シテ露軍ハ獨軍ノ攻勢ニ對シ屢其ノ戰況ノ不利ナル場合ニ於テ韌強ナル局部的逆襲ヲ反覆セリ然レトモ逆襲ハ一ハ彌縫手段ニ過キスシテ其ノ效果ハ單ニ一時的ニ過キス苟モ全局ノ勝利ヲ得ムトセハ斷然タル攻勢ニ出テサルヘカラス然レトモ單ニ攻勢ヲ取ルノミニテハ未可ナリ攻勢ハ宜シク機ニ適シ其ノ主力ヲ以テ之ヲ遂行シ且一旦斷行セル攻勢ハ斷シテ之ヲ中止スルコトナク終局迄之ヲ實行スルヲ要ス名將ハ攻勢ノ爲必勝ノ機ヲ看破シ縱橫ノ機略ヲ盡シテ決意斷行ス斷シテ行ヘハ鬼神モ之ヲ避クヘシ

ステツセル中將ハ到底能ク三軍ヲ統帥シ一作戰ヲ決意斷行スルノ人格ニ在ラス既ニフオック少將ノ作戰考案カ全然消極的ニシテ全般ノ戰況ヲ危殆ナラシムルコト明ナルニ拘ラス單ニ緩慢ナル訓令裏ニ穩レ其旨ヲ示シ以テ僅ニ自己ノ意見ヲ發表シタルニ過キス斯ノ如クムハ何ゾ能ク斷乎トシテ部下ヲ統帥スルヲ得ム主將タルモノハ部下ヲシテ宜シク望ミテ泰山ノ重キヲ信セシメ斷乎トシテ自己ノ信スル作戰ヲ遂行スルノ勇氣ナカル可ラス

情 況 (五月十九日)

五月十九日フオック少將ノ退嬰的ナル返電(第五節、戰鬪前南山防禦ニ對スル露軍高級諸官ノ意見ノ部末文參照)ニ對システツセル中將ハ更ニ電命シテ曰ク

情況

ヤンク灣 (Yank) ト
ハ柳樹屯ヨ
リ其ノ西方
(稍西南ニ
偏ス) 對岸
大鹽島ノ東
方突角ニ互
ル灣ヲ稱ス
問題

原案

「斯ノ如キハ勿論總テ可能ノコトナルモ未タ之レ事實ニアラス予ハ日本軍カ南關嶺附近ニ於ケル我カ直接勢力範圍内ニ上陸ヲ決行スルコトヲ信スル能ハス柳樹屯ニハ火炮ヲ送致ス又快走船ニ關シテハ總テノ處置ヲナスヘシ、又予ハヤンク灣ノ監視及防禦ニ關スル貴官ノ處置ヲ是認ス」

第六問題 (即席)

ステツセル中將ノ返電ニ關スル所見

原 案 所 見

- 一、フオック少將ノ部署カ全然自己ノ意圖ニ反セルニ拘ラス尙之ヲ放任シテ不本意ナカラ之ヲ是認シフオック少將ヲシテ全然行動ノ自由ヲ許シタルハ適當ナラス
(凡ソ下級指揮官ニ委任スヘキ獨斷ノ範圍ハ全般ノ目的ヲ達スヘキ範圍ヲ超越セシムヘカラス此ノ如キ情況ニ於テハ斷乎トシテ自己ノ意圖ヲ實行セシムルニ努力セサルヘカラス)
- 二、ステツセル中將ノ與ヘタル電報ハ命令トシテノ威嚴モナクカモナシ斷乎タル而カモ確定的ナル命令ノ形式ヲ避ケテ返電シタルハ最モ不可ナリ

南山附近ノ戰鬪(上)

三、高級指揮官ハ大局ニ關係ナキ小事ニ拘々タルハ又束縛的ナル訓令ヲ與フヘカス
任務、達スヘキ目的又ハ事件ニ最重大ナル關係ト價値ヲ有スル行動ノ標準等ノミヲ示スニ
止ムヘシ

情況

五月二十日

情

況 (五月廿日)

五月二十日金州前面ニ於テハ日本軍活動ノ模様ナシ同日フオック少將ノ請求ニ依リ三十七密及
四十七密加農ヲ有スル三隻ノ快走船ハ大連ニ到着セリ是等ノ快走船ハ既ニ大連ニ在リシ二隻ノ
快走船ト共ニ手灣及ヤンク灣ノ警備ニ任ス其ノ他警戒ノ目的ノ爲苗花島子及大鹽島ノ東方標高
三二米ノ突角 (Robinson Point) 稱セラル) ニ五十七密砲二門ヲ配置セリ又此ノ日露軍ノ水兵ハ
金州灣ニ水雷ヲ敷設セリ

問題

第七問題 (試問)

水雷敷設ノ方針並ニ金州灣海面ニ於ケル處置

原案及所見

原案及所見

一、金州灣ハ其ノ灣口廣キト目下時機切迫セル爲到底水雷ヲ以テ同灣ヲ充分ニ閉塞スルコト不
可能ナリ故ニ南山陣地ノ左翼方面ヲ直接掩護スル爲餘リ廣範圍又ハ遠距離ニ水雷ヲ敷設ス

ルコトナク日本軍艦力近ク接近シテ有效射撃ヲナスヲ妨害シ得ル地點ニ設置スルヲ可トス
而シテ此狹義的敷設ニ應シ成ルヘク多數ノ水雷ヲ敷設スルヲ可トス

此ノ設置位置遠ケレハ敵艦容易ニ迂回接近シテ射撃シ又ハ掃海シ得、近ケレハ水雷ノ
彼方ニテ有效射撃ヲナスヲ得ヘシ概要金州西北方五吉米老虎溝山ト鶯頭溝北角 (南三
十里堡西北方六吉米) ヲ通スル線ノ前後ニテ蘇家屯及南山西北正面ヲ掩護シ得ル如ク
適當ニ設置ヲ可トス

南山西北正
面前海岸淺
瀨及手灣淺
瀨ニ對スル
處置

二、特ニ日本陸軍ヲシテ海岸ノ淺瀨ヲ利用シ得セシメサル爲障礙物ヲ設置スヘシ手灣モ亦同シ
實際露軍ノ敷設セシ水雷ハ其ノ數頗ル僅少ニシテ約二十個ニ過キス故ニ五月二十六日戰闘
ニ際シ日本海軍ニ何等ノ障礙ヲ與フルヲ得サリシノミナラス又南山西北正面前淺瀨ニ障礙
ヲ設置セサリシ爲日本陸軍ハ自由ニ此淺瀨ヲ越ヘテ前進スルコトヲ得タリ

情

況 (ステツセル中將再度ノ訓令)

此ノ日ステツセル中將ハコンドラテンコ少將ノ意見具申ニ基キ再ヒ南山防禦ニ關スル訓令ヲ下
セリ該訓令ニ於テ同中將ハ特ニ南山陣地ヲ頑強ニ防禦スル爲凡テノ手段ヲ講スルコト絕對ニ必
要ナルコトヲ示セリ

ステツセル
中將再度ノ
訓令

南山附近ノ戰闘(上)

所感及所見

ステツセル中將ノ與ヘタル訓令ニハ既ニ研究セシカ如ク五月十九日ニ於テ南山陣地ヲ最頑強ニ固守スヘキヲ要求セリ當時フオツク少將ニ對シテハ之丈ニテハ尙不充分ナリ抑指揮官カ部下ニ任務ヲ命スルニ方リ「最頑強ニ固守スヘシ」「絕對ニ必要ナリ」等ノ言辭ヲ使用スルハ適當ナリヤ否ヤヲ考慮セサル可ラス之レ大ニ吾人ノ注意セサルヘカラサル事項ナリ蓋シ常ニ斯ノ如ク命令セラルルトキハ部下ヲシテ責任ヲ重ンスルハ念ヲ輕視セシムルニ至ラシメ唯單ニ例ヘハ「防禦スヘシ」ト命令シタル場合ニハ任務ノ遂行ヲ半途ニシ頑強ニ實行セサルモ可ナリトノ弊風ヲ生スルニ至ルノ虞アリ牽テ國軍ノ任務遂行ニ關スル責任觀念ヲ左右シ至大ノ害ヲ生スルニ至ラム吾人ハ常ニ單簡ナル命令ヲ以テ既ニ自己ノ責任ヲ重シ一死以テ任務ノ遂行ニ努力セサル可カラス露軍ノ作戰命令ニハ常時到ル處此ノ力點的命令ヲ有ス戒メサル可ラス然レトモ非常特別ノ場合ニ於テハ激勵的言辭ヲ使用スルヲ必要トスルコトアルハ勿論ナルモ之カ濫用ハ慎マサル可ラス

フオツク少將ハ右ノ如キ力點的訓令ヲ受ケタルニ拘ラス尙之ニ則ルノ意ナカリキ

情況及所見 (五月二十一日ヨリ同廿四日ニ至ル)

五月二十一日及二十二日、情況大ナル變化ナシ、南山ノ陣地ハ續テ工事ヲ實施セリ東狙第五聯隊ハ前面ノ優勢ナル日本軍ト對峙シテ晝夜重大ナル任務ニ服シ警戒ヲ嚴ニセリ兵卒ハ既ニ大ニ疲勞セリ

此日コンドラテンコ少將ノ強請ニヨリ旅順ヨリ「カネー式」十五瓏海軍砲ヲ南山陣地ニ送ル準備ヲ開始ス該火砲ニシテ若適時南山ニ到着セハ二十六日日本海軍トノ交戦ニ際シ大ニ效果アリシナラム實際ニ於テ内一門ハ二十六日恰モ戰闘中ニ陣地ニ到着セシモ未タ配置ヲ終ル能ハスシテ遂ニ射撃ヲ開始スルノ運ニ至ラス又他ノ一門ハ列車ニテ南山ニ運搬セシモ下車ノ餘裕ナク戰闘後旅順ニ還送セリ

諸君ハ須ラク露軍南山防禦ノ要領竝高級指揮官ノ緩慢不的確ナル區處竝戰術上ノ大過失ニ鑑ミ大ニ戒ムル所ナカル可ラス吾人ハ常ニ斷乎タル決心ヲ以テ作戰ヲ企畫シ迅速適確ナル處置ヲナスコトニ努メサルヘカラス

翌二十三日午前十時約百名ヨリ成ル日本軍ノ一部隊ハ金州東北方約四吉米ノ高地ニ工事ヲ施シ又此日午前三時頃歩兵一大隊及騎兵二中隊ノ敵ハ大窰口方向ヨリ前進シ徐家屯東方、徐家山ノ舊砲臺ヲ占領セリ、間諜ノ言ニ依レハ日本軍ノ前進ハ漸次近迫ヲ續ケツツアリテ其ノ攻撃ハ一日迫リツツアルモノノ如シ

二十四日ノ
情況

二十四日午
後八時廿分
ステツセル
中將ノ受ケ
タル電報報
告

問題

ステツセル中將ハ一般ノ戰況此ノ如クナルニ拘ラス尙情況ノ急迫セルヲ悟ラサリシカ如ク且南山附近ニ在ル火炮ノ強大ナル火力ニ依リ日本軍ヲ擊退シ得ヘシト信セリ

二十四日各方面ノ前哨部隊附近ニ於テ所々小戰闘起ル、午後六時日本軍ノ一部隊ハ北三里莊ヨリ金州ニ向ヒ小銃射撃ヲ行ヘリ金州ニ在リシ露軍砲兵ハ直ニ之ニ應射シ之ヲ沈黙セシメタリ午後十一時徐家屯北方標高九三米ノ高地ニ在リシ哨所ハ日本軍ノ奇襲ヲ受ケ退却ノ已ムナキニ至ル

此ノ夜午後八時二十分ステツセル中將ハフオツク少將ヨリ次ノ要旨ノ電報ヲ受領セリ

「余ハ明二十五日拂曉威力偵察ヲ實施セムトス其ノ目的ハ支那人ヨリ得タル情報ニ依レハ日本軍ハ東石門子（金州東北方約一里）附近ニ陣地ヲ構成シツツアリ且砲六門ヲ有スト稱スルモ是レ果シテ眞ナルヤ否ヤ疑ナキ能ハサルヲ以テ之ヲ確メムトスルニ在リ之カ爲ゲルマン大佐ノ指揮スル第十獵兵隊外ニ乘馬獵兵隊二隊、歩兵二大隊、砲十門、機關銃四挺ヲ使用シ其ノ他ノ部隊ハ歩兵第十五聯隊ヲ合シ南山陣地ノ附近ニ招致セムトス野砲兵第四中隊及歩兵第十六聯隊ハ大連ニ位置セシメ柳樹屯ニハ補充歩兵大隊、五十七密米砲二門其ノ他ロマノフスキー砲兵中隊ヲ配置ス」

第八問題（試問）

原案

ステツセル中將ハ如何ニスルヤ

原案
判決

フオツク少將ノ企圖ハ中止セシムルヲ可トス

理由ノ概要並所見

日本軍ハ各方面ヨリ前進シツツアリテ支那人ノ齎ラセル如ク日本軍ノ部隊カ近ク前面東石門子附近ニ在ルコト又其ノ他方面ニモ強大ナル部隊ノ存在スルハ疑フノ餘地ナシ此際此ノ如キ強大ナル部隊ヲ以テ威力偵察ヲ行ヒ輕舉前進セハ陣地前ニ於テ豫期セサル戰闘ヲ惹起シ隨テ全般ノ情況ヲ危殆ナラシムヘキ大事ヲ惹起スルノ虞アリ故ニ此ノ如キ威力偵察ハ之ヲ中止セシメ小部隊ヲ各方面ニ前進セシメ敵情ヲ搜索セシムルニ止ムヘシ

ステツセル中將ハ威力偵察ニ關スル電報ヲ受領セサルニ先チ既ニフオツク少將ノ此事アルヲ知リ大ニ驚キ之中止ヲ命シ且叮嚀ニモ詳細ニ互レル偵察ノ手段ヲ説明セリ

情況（五月二十五日）

南山附近ノ戰闘（上）

情況

ステツセル
中將ノ處置

五月二十五日ノ情況

註
歩兵約二聯隊ノ攻撃前進ハ疑ハシ第四師團ノ第一線部隊ノ一部ト單ニ射撃ヲ交ヘタルニ過キサルカ如キモ暫ク記シ置ク

クロバトキン將軍ノ一
副官來着並

二十五日日本軍ハ一般攻撃ヲ開始セムトスルモノノ如ク午前五時金州ニ對シテ砲撃ヲ始ム又歩兵約二聯隊ハ北方ヨリ攻撃シ來リ其ノ散兵線ハ金州市街ノ前方約四百歩ニ接近セリ此時露軍ハ一齊射撃ヲ行ヒ東北角ニ在リシ八十七密砲四門ハ同時ニ射撃ヲ開始シ敵ヲ擊退セリ
暫時ノ後日本軍ハ南山築城陣地ニ向ヒ一齊ニ砲撃ヲ開始セリ露軍ハ第二砲臺ヲ除ク他ノ全砲兵ヲ以テ之ニ應戰シ午前九時ニ至ルマテ彼我ノ砲戰連續セリ日本軍ノ榴彈破片ニ依レハ日本軍ハ野砲ノ外若干ノ中口徑砲(約十二珊)ヲ有スルカ如シ
右砲戰間大窓口方向ヨリ約十乃至十二大隊ヨリ成ル日本軍縱隊前進シ來ルヲ望見ス日本軍ノ砲撃ハ約四時間繼續セリ然レトモ露軍ハ何等大ナル損害ヲ受クルコトナク其ノ砲車ハ一モ破損セラルモノナシ又築城工事ハ若干ノ損傷ヲ受ケタルモ直ニ修理ヲ加ヘラレタリ
露軍ノ損害ハ金州ニ於テ四名、南山陣地ニ於テ東狙第五聯隊ノ第十一中隊長バチャスキー重傷ヲ負ヒタルノミ
日本軍砲火ノ効力ノ少カリシコト驚クニ堪ヘタリ(後節日本軍ノ情況參照)
此日朝クロバトキン將軍ノ一副官金州灣ヨリ上陸シ北方面ノ情況ヲ告知シ尙南山ノ防禦ニ關シ次ノ訓令ヲ傳達シタリ

同將軍ノ訓令

ステツセル中將ノ決心

海軍トノ協同動作

問題

此際最モ必要ナルハ南山ヲ頑強ニ守備スルコトヲ中止シフオツク少將ノ部隊ヲ旅順ニ退却セシメ以テ旅順ノ守備兵ヲ大ニスルニアリ
火砲ハ悉ク南山ヨリ撤スヘシ然ラサレハ四十門ノ火砲ハ空シク敵ノ戰利品トナルニ過キス、斯クノ如キハ我カ全軍ニ對シ精神上大ニ不利ナル影響ヲ與フヘシ
然ルニステツセル中將ハ敢テ右ノ訓令ニ從ハス斷然其ノ所信タル頑強ナル南山防禦ヲ實施スルニ決セリ

南山陣地ノ側面掩護ニ關システツセル中將ハ屢海軍當局者ニ意見ヲ陳述セリ然レトモ當時ノ海軍提督代理ウイットヘフト少將及先任將校等ハ皆海軍ノ協同動作ニ關シ賛成ヲ表セス同情ヲ以テ右考案ニ臨マサリキ當時露國艦隊ハ全ク活動スルコトナク唯單ニバルチック艦隊ノ來航ヲ待タムトシ全然消極的態度ヲ取リタリキ
然レトモ右ニ關スル數回ノ要求竝コンドラテンコ少將ノ激烈ナル請求ニ依リウイットヘフト海軍少將ハ砲艦ボーア及水電艇ブリキー及ブルニーヲ大連ニ送附セリ諸艦ハ二十五日晚旅順ヲ發シ風雨ヲ冒シ夜暗ニ乘シ午後十一時日本哨艦ノ發見ヲ免レ無事大連ニ到着セリ

第九問題 (試問)

南山附近ノ戰闘(上)

原案

フオック少將ノ原決心ヲ基礎トセハ廿五日同少將ハ處置アリヤ

原案

翌日ニ關スル命令ヲ下ササル可ラス之ニ伴フ各般ノ處置アルヘシ

情況 (續キ)

二十五日夜ノ情況

フオック少將ハ此ノ夜眞面目ノ戰鬪ヲ豫期セス從テ此ノ夜南山陣地ニ於テモ何等ノ區處ヲ講セス

午後十一時日本軍第一線ハ到ル所前進ヲ開始シ露軍ノ警戒部隊ヲ壓倒シテ前進ス

第十節 五月廿五、廿六日南山附近ニ於ケル露軍ノ兵力及配備

五月二十六日フオック少將ノ支隊ハ左ノ兵力ヨリ成ル

- 一、東狙歩兵第四師團(第五、第十三乃至第十六聯隊) 歩兵十五大隊 一大隊
- 二、第四補充歩兵大隊 一中隊
- 三、護境兵 一中隊

フオック少將支隊ノ兵力

四、關東要塞砲兵

一中隊

五、東狙第四砲兵旅團(四中隊)

三十二門

六、東狙第七師團砲兵ノ二野砲中隊

十六門

七、五十七密砲兵中隊

六門

八、外ニ關東要塞砲兵

七十七門

合計歩兵十六大隊半

野砲五十四門 要塞砲七十七門 計百三十二門

將校 二百六十六人

下士卒 一萬七千五百人

五月二十五日夜同支隊ハ次ノ如キ配備ニ在リ

金州

東狙第五聯隊ノ集成第十中隊及東狙第五聯隊ノ第三徒歩獵兵隊、八十七密砲四門

南山陣地

東狙第五聯隊(十中隊及二徒歩獵兵隊)東狙第十三聯隊ノ第二第四中隊、第十三聯隊ノ一徒歩獵兵隊、第十四聯隊ノ一徒歩獵兵隊、要塞砲五十七門、機關銃十挺

蘇家屯

東狙第十四聯隊第三中隊

南山附近ノ戰鬪(上)

配備

大房身停車場附近

東狙第十四聯隊ノ第一大隊(三中隊)東狙第十四聯隊ノ二徒歩獵兵隊

東狙第十三聯隊ノ一中隊

小房身東方高地

八十七密砲四門

前南關嶺附近

東狙第十四聯隊(二大隊)砲兵第四旅團ノ第一、第二中隊、東狙第七

師團ノ砲兵隊ノ第一、第二中隊

小沙家溝

東狙第十三聯隊(二大隊ト一中隊)第四砲兵旅團ノ砲兵第三中隊、五

十七密砲兵中隊ノ四門

柳樹屯附近

第四補充歩兵大隊、要塞砲六門

苗家島子附近

五十七密砲兵中隊ノ二門

大鹽島東方突出部

東狙第十五聯隊ノ第一中隊

夏河子附近

東狙第十五聯隊ノ第二中隊

南關嶺停車場附近

東狙第十五聯隊(二大隊半)

大連 東狙第十六聯隊(三大隊)第四砲兵旅團ノ砲兵第四中隊、要塞砲六門

故ニ南山ヲ直接ニ防禦セシ兵力ハ要塞砲兵四、五百人ヲ加ヘ三千八百人ノミニシテ其ノ他ノ一

萬三千七百人ハ右南山陣地ノ後方ニ廣ク且遠ク配備セラレ總豫備隊ノ如キ状態ニ在リ

第十問題(宿題)

金州守備隊ノ兵力ニ對スル所見

注意

南山ニ於ケル守備隊ノ陣地占領ノ爲兵力區分ハ此際研究スヘキ趣味アル問題ナルモ研究ノ順序上今ヨリ以下日本軍ノ情況ヲ觀察シ次テ末文ニ至リ此問題並露軍ノ防禦ヲ觀察セン

第十問題原案

金州守備隊ノ兵力ニ對スル所見

原案

一、過小ナル兵力ヲ以テ金州ヲ守備セシメタルハ適當ナリ之レ南山陣地ノ防禦カ主ニシテ同地守備隊ノ兵力既ニ過小ナレハナリ

二、砲兵ヲ附シタルハ略適當ナリ是機關銃ハ其ノ數僅ニ十挺ニシテ是非南山方面ニ使用スルコト必要ナルト金州ヨリ機關銃ヲ損害ナク退却セシムルコトハ初ヨリ豫期シ得サルヲ以テ多數砲兵ノ内一部ノ砲兵ヲ派遣シ砲兵トシテ用法ノ外近接防禦ノ爲ニモ之ヲ機關銃ニ代用

南山附近ノ機關(上)

スルヲ可トス右一部砲兵ノ損失ハ忍ビ得ヘシ
三、金州守備隊ハ南山守備隊ノ總豫備隊ヨリ派遣セララルルヲ要ス然ルニ南山東北角ノ第一線部隊ヲ以テ金州ヲ守備セシメタルハ誤ナリ

第十一節 南山攻撃前ニ於ケル日本軍ノ情況

第二軍戰鬥序列

第二軍ノ任務

日本第二軍ノ戰鬥序列ハ附表第二ノ如シ、後チ第五師團、第十一師團、騎兵第一旅團ヲ増加セラル
第二軍ノ任務ハ遼東半島ノ登沙河河口ヨリ大沙河河口ニ亘ル海岸ニ上陸シ北ハ普蘭店ヨリ大沙河ニ亘ル線ヲ南ハ金州、大連（當時タルニート稱ス）附近ヲ占領シ以テ大連灣附近ニ根據地ヲ成形シ爾後第一軍ト策應シ敵ヲ求メテ之ヲ攻撃スルニアリ
第二軍ハ五月五日ヨリ候兒石及孫家咀子附近ヨリ大ナル困難ヲ排シテ前進シ逐次掩護陣地ヲ擴張シ五月十六日十三里臺子附近ニ於テ歩砲兵ヨリ成ル敵ノ一部ヲ擊退セシカ五月十八日軍司令官ハ大本營ヨリ第二軍ハ艦隊協同ノ有無ニ關セス速ニ前面ノ敵ヲ驅逐シ陸上ヨリ大連灣ヲ制シ掃海ノ時機ヲ得セシムヘキ訓令ニ接ス軍司令官ハ普蘭店、大沙河方面ニアリシ部隊ノ主力ヲ金州方面ニ招致シ勉メテ多クノ兵力ヲ以テ南山附近ノ敵ヲ攻撃シ次テ案子山、磨盤山ノ線ニ進出

五月二十三日ニ於ケル第二軍ノ位置

セムト欲シ軍ノ一部並近ク上陸スヘキ第二次輸送團隊（五月二十二日上陸ヲ終ルヘキ第四師團ノ殘餘五月十九日上陸ヲ開始スヘキ第五師團）ヲ第五師團長上田中將ノ指揮ニ屬シ普蘭店、大沙河ノ線ヲ占領シ軍ノ背後ヲ掩護セシメタル後軍ノ企圖ヲ實行スルニ決セリ
五月二十三日軍ハ左ノ位置ニアリ（日露戰史第一卷附圖第十一參照）
軍司令官 劉家店

第四師團（步兵第三十八聯隊第二大隊、）及野戰砲兵第十三聯隊

主力ヲ以テ二十里堡附近ニ、其ノ第一線ヲ以テ概ネ前石灰窰子、平山、九里庄ヲ占領シ野戰砲兵第十三聯隊ハ十三里臺子附近ニアリテ第四師團長ノ隸下ニアリ

第一師團

主力ヲ以テ韓家屯附近ニ又其ノ第一線ヲ以テ泡子山、鐘家屯附近ヲ占領ス

第三師團（兒玉少將ノ指揮スル步兵第三十四聯隊、）

主力ヲ以テ塞子河、城子河附近ニ、其ノ第一線ヲ以テ小松嵐、大候家屯、

房家屯ニ亘ル線ヲ占領ス

野戰砲兵第一旅團（野戰砲兵第十三聯隊欠、步兵第十八聯隊）

第一大隊、工兵第五大隊（一中隊欠）ヲ附ス
東董家溝

南山附近ノ戰鬥（上）

第五師團長ハ第三師團ノ歩兵一聯隊、騎兵一聯隊（一中隊欠）、砲兵一大隊、第四師團ノ歩兵一大隊、騎兵一聯隊（一中隊欠）及部下師團ノ大部ヲ以テ普蘭店、大沙河ノ線ヲ占領シ軍ノ背後ヲ掩護ス騎兵第一旅團ハ此日上陸ヲ開始シ第五師團長ノ令下ニ入ル、北方面ノ情況ハ靜肅ニシテ危險ノ切迫ナシ

第十一問題（宿題）

堅固ナル築城陣地ヲ攻撃スル場合ニ於ケル攻撃成效ノ要件

右問題ハ南山攻撃研究ノ準備作業トシテ課題シタルモノニシテ若干ノ問答ヲナシタルノミニシテ茲ニ原案ヲ附セス

情況（五月廿三日）

五月二十三日第二軍司令官ノ知り得タル南山方面ノ情況大要次ノ如シ

金州ニハ依然少許ノ歩砲兵アリ又斬家屯（八里莊南方約二吉米）附近ニハ若干ノ歩兵アリ

五月二十三日
日軍司令官
ノ知り得タル
南山附近
及北方面ノ
情況

和尚島柳樹屯ニハ約八門ノ重砲海ニ面シテ配置セラレ其ノ若干ハ東北方ヲ射撃スルコトヲ得
南山ニハ砲臺約八座堡壘三個其ノ他散兵壕アリ又頂上ニ探照燈アリ南山ノ東側閭家屯附近ヨ

問題

リ北麓及西方ヲ經テ蘇家屯ノ東北約一公里ニ亘リ鐵條網アリ、是ヨリ左翼ハ防禦工事ナシ備砲ハ二十珊砲十五珊加農十珊半及八珊六密加農七珊六密速射砲九珊米臼砲ナルカ如シ
之ヨリ先軍司令官ハ五月十九日諸情報ヲ綜合シ大石橋附近ニ千二、三百ノ敵アルモ其ノ以南ニ大ナルモノナク又關東半島ノモノハ其ノ凡テヲ合シテ東狙兵第四師團ノ大部及同第七師團ノ全部ナルコトヲ知レリ

又軍司令官ハ五月十七日聯合艦隊司令長官ヨリ大密口及大連灣ニハ敵ノ敷設セル數多ノ機械水

雷アリテ危險甚シク陸戰隊ヲ揚陸シ根據地ニ利用スルノ望ミナシトノ報ヲ得タリ

北方面ノ情況ハ依然靜肅ニシテ危險ノ切迫セル模様ナシ

第十二問題（宿題）

五月二十三日夜ニ於ケル第二軍司令官ノ情況判斷

注意

作業ニハ判決及理由ノミヲ簡明ニ記載スルヲ要ス

問題原案

右問題原案
判決

南山附近ノ飛開（上）

聯合艦隊司令長官ヨリノ通報

北方面ノ情況

問題

軍ハ第五師團ノ約半部(騎兵第一旅團並從來附シアル騎兵隊ヲ附ス)ヲ以テ北方ニ對シテ軍ノ背後ヲ掩護セシメ其ノ主力(第一、第二、第四師團ノ全力(北方ニアル騎兵ヲ除ク)野砲兵一旅團、並ニ第五師團ノ殘餘)ヲ以テ二十六日ヨリ南山ヲ攻撃スルヲ要ス

之カ爲明二十四日其ノ第一線ヲ張家店、落北溝附近ヨリ徐家屯ニ亘ル線ニ進メ又別ニ各小部隊ヲ以テ周家屯北方高地及肖金山並靳家屯附近ヲ占領シ攻撃ノ目的ヲ以テ金州及南山附近ヲ偵察シ同日夜第四師團ヲ以テ金州ヲ略取シ更ニ詳細ナル偵察ヲ行ヒ攻撃計畫ヲ策定スルヲ可トス

理由

一、南山附近ニ於ケル露軍ノ兵力ハ詳ナラサルモ其ノ堅固ナル築城設備及備砲ヨリ察スルニ露軍カ頑強ナル防禦ヲ實施スヘキコトヲ豫期セサルヘカラス又關東兵團ハ約二師團ノ兵力ヲ有スルカ故ニ露軍ハ必シモ消極的態度ニアルヲ要セス斷然機ヲ見テ攻勢ニ轉スルコトアルヲ豫期セサル可ラス然レトモ露軍カ南山陣地ノ東方又ハ北方ニ向ヒ我カ包圍圈内ニ前進スルハ露軍ノ爲有利ナラサルト露軍目下ノ配備上公算甚タ少シ寧ロ露軍ハ南山ノ防禦ト共ニ我カ軍ノ南山西南方へ進出スルニ乘シ南關嶺ノ線ヨリ攻勢ニ轉スルカ或ハ南山ニ於テ頑強ニ防禦ヲ行ヒ戰況有利ナルニ方リテハ同陣地ノ翼側方面ヨリ地域充分ナラサルモ尙攻撃ヲ企圖スルナラン然ルニ目下北方方面ノ情況ハ甚タ靜穩ニシテ遠ク大石橋附近ニ少數ノ敵ア

ルニ過キス

二、第二軍ハ任務上速ニ南山附近ノ敵ヲ驅逐シ陸上ヨリ大連灣ヲ制シ掃海ノ時機ヲ得セシムルヲ要ス又北方方面ノ狀況未タ切迫セサル目下ノ好機ヲ利用シテ速ニ攻撃ヲ企圖スルヲ適當トスルモ堅固ニ設備セラレタル南山附近ノ防備及地形(海面ノ狀況ヲモ含ム)ハ尙未タ充分偵察シアラサルノミナラス金州ノ前進陣地ハ軍ノ攻撃展開ノ基礎配置並攻撃遂行ニ大障礙ヲ與フルヲ以テ南山ニ對スル攻撃實施ハ先ツ金州ヲ奪取セサレハ之ヲ望ムコト能ハス又攻撃計畫ノ基礎タル南山陣地ノ偵察ノ爲ニハ先ツ金州ヲ略取スルコト最モ必要ナリ如斯シテ攻撃ノ爲充分偵察ヲ遂ケタル後周到適切ナル攻撃計畫ヲ立テ次テ斷然タル攻撃ヲ決行スルヲ可トス

又南山附近ノ頑強ナル抵抗並同陣地又ハ南關嶺ノ線ヨリスル豫算スヘキ要アル敵ノ攻勢ヲ顧慮セハ軍ハ攻撃ノ爲充分ナル兵力ヲ用フルヲ要ス殊ニ重砲ヲ有セサル不利ハ主トシテ此ノ兵力増加ニヨリ又一部ハ海軍ノ助力ニ待ツヲ適當トス然ルニ目下北方方面ニ對シテハ單ニ第五師團ノ若干及騎兵第一旅團並從來附屬シアル騎兵部隊ヲ以テセハ軍ノ背後ヲ掩護スルニ充分ナリ其ノ他ノ兵力ハ爲シ得ル限り南山方面ノ攻撃ニ參與セシメ各師團ハ成ルヘク完全ナル師團ノ建制ヲ維持シ攻撃ヲ遂行スルヲ可トス

目下第五師團長ノ指揮下ニアリテ軍ノ背後掩護ニ任シアル第三、第四師團ノ諸隊北方ニ對スル掩護ヨリ引キ去リ得ル第五師團ノ一部並現時近ク上陸地附近ニアル第五師團ノ一部ヲシテ南山ノ攻撃ニ參與セシメムカ爲ニハ右ノ諸隊ハ明後二十五日中ニアラサレハ金州附近ニ到達スルヲ得ス故ニ同兵力ノ使用ヲ期待セハ主攻撃ハ廿六日以後ニ開始スルヲ至當トス

三、金州城ハ明二十四日晝間ニ略取スルコトハ至難ナリ之レ其ノ城壁堅固ナルト城門ノ數僅少ニシテ砲兵ヲ以テ之ヲ破壞シ晝間攻撃ヲ實行スル能ハサレハナリ須ラク晝間充分ナル偵察ヲ遂ケ然ル後夜襲ヲ以テ略取スルヲ適當トス又金州城ノ奪取ト軍ノ南山ニ對スル本攻撃トヲ連繫セシムルトキハ金州城ノ攻略不成功ニ終リシ場合ニ於テ第二軍ノ攻撃計畫ハ忽チ大蹉跌ヲ生シ大ナル不利ヲ惹起スルノミナラス南山敵陣地ノ中央及左翼方面ハ同地略取後ニアラサレハ偵察困難ナリ故ニ同地ノ略取ハ全然本攻撃ト分離シ之カ奪取ヲ計ルヲ至當トス

明二十四日軍ハ爾後ノ攻撃及偵察ヲ便ナラシメ且行動ノ自由ヲ保有シ、不期ノ戰鬥ヲ惹起セシメサル程度ニ於テ諸隊ヲ前進セシメ南山前地ノ地形及南山方面ノ情況殊ニ第四師團ヲシテ金州城ノ夜襲ヲ顧慮シ偵察ヲ實施セシムル爲各師團ヨリ一部ヲシテ崔家屯附近ノ高地ヨリ肖金山附近ヲ經テ靳家屯附近ニ亘ル線ヲ占領セシメ之ヲ根據トシテ前述ノ諸偵察ヲ實施シ同日夜金州城ヲ奪取シテ二十五日更ニ南山ニ對シテ一層充分ナル偵察並攻撃ノ諸準備ヲ完了シ二十六日ヨリ南山陣地ヲ攻撃スルヲ適當トス

附記

攻撃ノ爲海軍トノ連繫其ノ他攻撃計畫ニ關スル諸件ハ爾後ノ問題ニ關係アルヲ以テ暫ク省略ス

第十三問題 (宿題)

第二軍攻撃指導ノ方針

作業上ノ注意

- 一、軍司令官ハ攻撃ニ決シ又攻撃ニ使用スヘキ兵力ハ當時第二軍司令官ノ南山攻撃ニ使用セル兵力ノミヲ使用スルコトトシ作業スルコト
 - 二、要圖ヲ以テ答解スヘシ
- 各團隊ノ精細ナル配備ヲ要セス特ニ左ノ事ヲ記載スヘシ
- 攻撃方向、攻撃ノ時機、各師團戰鬥地域ノ境界、軍豫備隊ノ兵力、砲兵陣地概略ノ位置

第十二節 南山攻撃ノ爲日本第二軍ノ部署

五月二十三日第一、第三、第四師團及野戰砲兵第一旅團ハ十三里臺子西方高地ヨリ大窪口西北岸ニ亘ル間ニ兩進セリト雖軍司令官ハ各團隊殊ニ第四師團ノ連日行動シテ疲勞セルヲ慮リ二十四日夜其ノ前線ヲ進メ南山攻撃ヲ準備スルト同時ニ一部隊ヲ以テ金州城ヲ攻略シ二十五日拂曉南山ヲ攻撃セムト欲セリ

此日午前十時九分連合艦隊司令官ヨリ南山ノ攻撃ニ策應シ二十五、六日ノ兩日砲艦四、水雷艇隊一ヲ金州灣ニ分派シ南山ノ敵壘ヲ砲撃シ攻撃功ヲ奏セハ更ニ其ノ西方海岸ヲ砲撃シ敵ヲ西方ニ牽制セシム然レトモ二十四日以後霧若ハ荒天ナレハ之ヲ止ムヘシトノ通報ニ接ス於是軍司令官ハ午後一時左ノ攻撃命令ヲ下セリ又別ニ攻撃計畫要領ヲ定メテ準スル所アラシメタリ

五月二十四日午後一時 於劉家店軍司令部

- 一、敵ハ依然南山ヲ占領シ金州城内ニモ一部隊アリテ東、西、北ノ三門ヲ閉鎖セリ又和尚島砲臺(柳樹屯東南)附近ニハ若干ノ備砲アリ
- 二、軍ハ明日ヨリ南山ノ敵ヲ攻撃セムトス
- 三、各團隊ハ別紙攻撃計畫要領ニ基ツキ運動ヲ起シ南山ノ敵ヲ攻撃スヘシ

間諜ノ言ニ依レハ近日南關嶺附近ニ若干ノ砲ヲ備付ケリト

我カ艦隊ノ一部ハ明二十五日金州灣ニ現ハレ南山ノ敵ヲ砲撃スル筈

但シ第三期ノ運動開始ハ特ニ之ヲ命令ス

四、予ハ午前六時劉家店、出發韓家店ヲ經テ十三里台子西南方高地ニ到ル

第二軍司令官男爵 奧 保 章

南山攻撃計畫要領

第一〇期

- 一、第一師團(歩兵一聯隊欠)ハ夜暗ニ乘シ運動ヲ起シ一小部隊ヲシテ復州街道(之ヲ含ム)以東朝陽寺南部八里庄(八里庄)ノ線以西ノ地區ヲ前進シ明二十五日午前三時三十分ヲ期シ金州東北方約五百米突附近ヨリ肖金山附近ヲ經テ唐王店(後尾)東方高地附近ニ亘ル線ヲ占領セシメ主力ハ南山ニ在ル敵砲火ノ害ヲ蒙ラサル地點ニ位置シ前進ノ準備ニ在リ
- 但シ其ノ砲兵ノ一部ハ午前三時三十分迄ニ南山ノ敵砲火ノ害ヲ蒙ラサル地點ニ於テ金州城ヲ砲撃シ得ル如ク陣地ヲ占領ス

- 二、第四師團ハ夜暗ニ乘シ運動ヲ起シ一小部隊ヲシテ復州街道(之ヲ含ム)以西ノ地區ヲ前進シ明二十五日午前三時三十分ヲ期シ第一師團ノ右翼ニ連繫シ龍王廟(季家屯)附近ニ亘ル線ヲ占領セシメ主力ハ南山ニ在ル敵砲火ノ害ヲ蒙ラサル地點ニ位置シ前進ノ準備ニ在リ

但シ其ノ砲兵ノ一部ハ午前三時三十分迄ニ南山ノ敵砲火ノ害ヲ蒙ラサル地點ニ於テ金州城ヲ射撃シ得ル如ク陣地ヲ占領ス

野戰砲兵第十三聯隊ヲ附ス

三、第三師團ハ夜暗ニ乘シ運動ヲ起シ一小部隊ヲシテ大和尚山南方ノ地區ヲ前進シ明二十五日午前三時三十分ヲ期シ王家屯(王家甸子)附近ヲ占領セシメ主力ハ南山ニ在ル敵砲火ノ害ヲ蒙ラサル地點ニ位置シ前進ノ準備ニ在リ

四、野戰砲兵第一旅團(第十三聯隊欠)ハ第三師團ニ續行シ塞子河附近ニ位置シ前進ノ準備ニ在リ

第三師團ノ歩兵二中隊及工兵第五大隊(一中隊欠)ヲ附ス

五、砲兵旅團ノ大行李及彈藥縱列ノ運動並位置ハ第三師團長之ヲ區處ス

六、第一師團ノ歩兵一聯隊ハ明二十五日午前三時三十分西部陳家屯(大房身)附近ニ位置シ軍ノ總豫備トナル

第二期

第二〇期

七、各師團隊ハ第一期ノ姿勢ニ在リテ艦隊ノ砲撃ヲ待ツ

八、陣地ニ就キシ第一、第四師團ノ砲兵ノ一部ハ艦隊ノ砲撃開始ト與ニ金州城ヲ砲撃ス

第三期

第二〇期

九、各砲兵隊長ハ豫メ受ケタル砲兵旅團長ノ指示ニ基ツキ第一線歩兵ノ掩護ニ依リ陣地ヲ撰定ス

十、各師團ハ砲兵隊長ノ要求ニ應ジ其ノ工兵ヲシテ砲兵陣地ノ構成ニ助力セシム

十一、第一師團ハ金州城東側ト南山東北端トノ線以東八里莊、閻家屯中央ノ線以西ノ地區ヨリ南山ニ向テ攻撃前進ス

十二、第四師團ハ第一師團ノ右翼ニ連繫シ南山西北面ニ向ヒ之ヲ包圍スル如ク攻撃ス同時ニ一部ヲ以テ金州城ヲ攻略ス但シ此攻撃ハ第二期ニ於テ行フコトアリ

十三、第三師團ハ第一師團ノ左翼ニ連繫シ南山ノ東面ニ向ヒ之ヲ包圍スル如ク攻撃ス

十四、全砲兵ハ砲兵旅團長ノ豫メ指示セル陣地及目標ノ分配ニ從ヒ此ノ時期ニ於テ進ンテ陣地ニ就キ射撃ヲ開始ス

十五、軍ノ總豫備隊ハ肖金山北麓ニ移ル

十六、野戰砲兵第十三聯隊ノ傷者ハ第四師團衛生隊ニ於テ同砲兵旅團主力ノ傷者ハ第三師團衛生隊ニ於テ之ヲ收容ス

又第四師團ヲシテ普蘭店、十三里台子間鐵道電信線ノ掩護ニ任シ第三師團ヲシテ大孤山半島ニ

對シ警戒セシメ且砲兵第一旅團長内山少將ヲシテ各師團ノ砲兵隊ヲ指揮シ其ノ協同動作ニ關シ
計畫セシム乃チ同少將ハ軍司令官ノ意圖ニ基ツキ各砲兵聯隊ノ陣地及射擊目標ヲ次ノ如ク定ム

一、砲兵第四、同第十三聯隊ハ金州城西方ニシテ其ノ射擊目標ハ敵ノ野砲、司令塔、(南山上標
高一五高地)其ノ他主トシテ西面スル砲台(南山東北麓第四眼鏡堡ヨリ標高一五高地
以西ニアリ)

二、砲兵第一聯隊ハ金州城東方ヨリ十二珊米速射砲(第五砲台附近ニアリ)

三、砲兵第十四聯隊ハ九里莊ノ高地ヨリ十二珊米加農(中央堡壘附近ニアリ)

四、砲兵第十五聯隊ハ同第十四聯隊ノ左翼ニ連リ十五珊米榴彈砲及同加農(第二第十三砲台附
近ニアリ)

五、砲兵第三聯隊ハ同第十五聯隊ノ左翼ニ連リ和尚島及大房身停車場南方高地ノ砲兵ニ對ス
内山少將ハ右ノ指示ヲナシ且二十五日陣地ヲ偵察シ同夜其ノ陣地ニ進入シ(但シ砲兵第十三聯
隊ハ二十五日金州城ヲ射擊スルヲ以テ二十四日夜陣地ニ進入ス)二十六日午前四時三十分ヲ期
シ射擊ヲ開始スルコトヲ定メタリ

第十四第十五問題 (宿題)

第十四問題 第二軍攻撃計畫及同攻撃命令ニ對スル所見
第十五問題 砲兵使用並其ノ指揮ニ關スル所見但シ自己ノ考案ヲモ記スルヲ要ス

第十三節 第十三問題第二軍攻撃指導ノ
方針ニ對スル原案

原案

研究ノ便宜上問題ニ要求セザリシ事項ヲモ之ヲ包含研究シ稍詳細ニ互リ陳述スルコトトセリ

第一、第二軍攻撃方針

一、第二軍ハ二十四日夜一部ヲ以テ金州ヲ略取シタル後更ニ詳細ナル偵察ヲ行ヒ二十六日ヨリ
南山ヲ攻撃ス

二、偵察ノ結果ニ基キ二十六日拂曉軍ヲ攻撃準備陣地(其位置ハ後文丙參照)ニ展開シ先ツ砲
兵及海軍ヲ以テ敵砲兵ヲ制壓シ次テ敵歩兵陣地ヲ破壊シ充分砲兵ヲ以テ攻撃準備ヲ行ヒタ
ル後攻撃前進ス

此夜ニ於テナルヘク敵陣地ニ接近シ敵ノ障礙物ヲ破壊スルニ努メ二十七日拂曉ヨリ更ニ攻
撃ヲ續行ス

三、攻撃奏效後ハ南關嶺ノ線ヨリスル敵ノ攻勢動作ヲ顧慮シ各師團ニ輕忽ナル進出ヲ戒シムルモ追撃ノ機ヲ逸セサルニ極力注意ス

第二、攻撃指導ノ要領

甲、攻撃時期並順序ノ概定

一、二十四日早朝迄ニ前線ヲ龍玉廟南方高地、北三里庄、肖金山附近ヨリ道家屯、南方ノ高地ニ進メ攻撃ノ目的ヲ以テ敵情及地形ノ偵察ヲナサシム

特ニ第一師團ヲシテ夜襲ノ目的ヲ以テ金州ノ偵察及夜襲ノ準備ヲナサシム

二、二十四日夜第一師團ヲ以テ金州ヲ夜襲ス

三、二十五日攻撃ノ目的ヲ以テ更ニ詳密ナル諸偵察及攻撃準備ヲナス

四、二十六日拂曉マテニ諸隊ヲ攻撃準備陣地（丙參照）ニ展開シ先ツ統一指揮ニ依ル砲戰ニヨリ敵砲兵ヲ制壓シ次テ敵堡壘散兵壕ノ破壊射撃ヲナス（砲戰及破壊射撃ハ海軍ト密切ニ協力スルコト特ニ必要ナリ）

砲火ノ充分ナル準備後攻撃前進ヲ起ス砲兵ハ諸團隊ニ分屬セラレ直接歩兵攻撃ヲ援助ス此夜敵前近距離ニ接近シ成ルヘク敵ノ障碍物ヲ充分破壊スルニ努ム

五、翌拂曉ヨリ更ニ攻撃ヲ續行ス爾後ノ戰況ノ推移ニ從テ定ム

乙、戰闘地境並兵力分配

註
最初ニ於ケル砲兵の準備ニ關シテハ特ニ本論ノ理由ヲ讀マレタシ

一、戰闘地境

第一第四師團間 復州街道、金州西端、高家店、劉家屯及其ノ南方地隙ノ線（線上ハ第一

師團ニ屬ス）

第一第三師團間 朝陽寺、後尾西南84ノ高地ヨリ南山ノ99ノ高地東北方地隙（南山凸角ノ南方）ノ線（線上ハ第一師團ニ屬ス）

但シ第一師團ノ金州夜襲ニ際シテハ西門ヲ攻撃シ得ル爲金州西方地域ノ使用及爾後攻撃展開ノ爲第四師團方面ノ砲兵ヲシテ復州街道ヲ使用シ得ルコトヲ規定ス

二、兵力分配

イ、各師團ヲ併列シテ使用シ軍豫備隊ハ第一、第四師團ヨリ各歩兵一聯隊ヲ取ル

ロ、第一、第四師團ニ屬スル騎兵ハ各一小隊ヲ其ノ師團ニ殘シ他ハ悉ク第三師團長ハ指揮下ニ入ラシム

ハ、砲兵ノ使用、主トシテ南山東北正面及西北正面ヲ射撃シ得ルニ勉ムルト同時ニ最初ノ統一の砲戰ニ於テ逐次主力ヲ以テ敵砲兵ヲ壓倒シ次テ敵堡壘及散兵壕（殊ニ主攻撃方面）ヲ逐次破壊射撃スルコトニ留意シ然ル後各師團ニ砲兵ヲ分屬シ歩兵攻撃ヲ直接援助セシメムトス

南山附近ノ戰闘（上）

注意、二十六日拂曉ニ於ケル陣地ハ左ノ如ク概要占領セラルヘシ
砲兵第四、第十三聯隊、金州西門ノ西南方約三百米附近ヨリ西門外南方約三百米附近
ヲ經テ西南ニ互ル線ニ於テ南面ス

砲兵第一聯隊、南三里庄附近ニ位置シ同村ノ西北及東南ニシテ西南面ス
砲兵第十四聯隊、七里庄ノ西北約千米⁴²ノ高地ヨリ南方ニ互リ西面ス
砲兵第十五聯隊、七里庄ノ西南標高²⁶附近ヨリ南方ニ互リ西面シテ陣地ヲ占領ス但シ

其ノ一大隊ハ地隙ノ南方ニシテ吳家屯ノ西北方面ニ西面
砲兵第三聯隊第一大隊、主力ハ吳家屯西方約三百米附近ニテ西面、内一中隊ハ柳家溝
南方ニテ西面

砲兵ノ指揮運用ニ關シテハ更ニ後段砲兵使用及其ノ指揮ニ關スル所見原案ニ詳説スル
所アルヘキヲ以テ茲ニ之ヲ省略ス
丙、攻撃方面、二十六日拂曉ノ攻撃準備陣地並軍司令部及軍豫備隊ノ位置

一、軍ノ主○攻○擊○方○面、概○シ○テ○南○山○東○北○角○方○面○ヨ○リ○南○山○西○北○正○面○ノ○東○部○ニ○シ○テ○概○要⁹⁹ノ○高○地○東○北

方ノ地隙ヨリ硯池河ノ南方地隙附近ニ互ル正面ヲ軍攻撃ノ主ナル部分トス
二、攻○擊○準○備○陣○地

第四師團 高家店ノ西方ヨリ概シテ無名河ノ線ニ沿ヒ海岸迄

第一師團 高家店西方ヨリ唐家嶺ヲ經テ其ノ南方地隙ニ互ル

第三師團 金州停車場ノ東北端附近ヨリ麥家屯ヲ經テ柳家溝附近ニ互ル

三、軍司令部、第二軍司令官ハ所要ノ幕僚ヲ從ヘ肖金山ニ其ノ他ノ司令部員ハ其ノ東北方谷地
ニ在ラシム

四、軍豫備隊、東三里庄附近ニ位置ス

丁、各團隊ニ與フル任務ノ概要

第一師團、指定ノ地域ヨリ南山東北角ヲ包圍攻撃

第四師團、第一第四師團戰鬪地域西方地區ヨリ南山西北正面ノ攻撃

第三師團、第一第三師團戰鬪地域ノ南方ヨリ南山東正面ヲ攻撃

但シ手灣沿岸ノ地區ヨリスル敵ノ攻勢ニ注意シ又手灣ニ於ケル敵海軍ノ行動ヲ
警戒シ軍ノ左側ヲ掩護セシム

戊、海軍トノ協同

一、參謀ヲ海軍支隊ニ派遣シ軍ノ攻撃計畫ニ伴ヒ協同ヲ容易ナラシム

巳、彈藥ノ補充、給養、衛生、通信及交通ニ就テ

問題ニ要求シアラサルヲ以テ之ヲ省略スルモ堅固ナル築城陣地ニ對スル攻撃、豫期シ得ヘキ南關嶺ノ線ニ對スル戰鬪及追撃ヲ顧慮セハ彈藥中間廠ヲ前進セシメ充分ナル彈藥ヲ準備スルヲ必要トス又通信ニ關シテハ各師團及砲兵諸隊トハ電話電信ニヨルノ外副通信ヲ設ケテ充分完全ナル通信連絡ニ努メサルヘカラス、彈藥補充及後方機關ヲ戰場附近ニ運用スル爲大ニ交通路ヲ開設スルノ必要個所アルヘシ

右原案ニ關スル理由ノ極メテ概要

右陳述ノ諸件ニ關シテハ已ニ諸君ト詳細ニ問答研究セル點多キヲ以テ茲ニハ極メテ必要ト認ムヘキ概要ナル理由ニ止メ成ルヘク重複ヲ避ケ二三ノ件ニ付陳述スルニ止メムトス
一、敵情判斷、第二軍攻撃着手ノ方針、金州ノ夜襲ヲ本攻撃ト分離シテ一般攻撃開始前之カ略取ヲ要スルコト竝ニ二十五日更ニ詳細ナル偵察ヲ行ヒ之ニ基キ二十六日ヨリ一般攻撃ヲ開始スルヲ可トスルコトニ關シテハ已ニ第十一節、五月二十三日夜ニ於ケル第二軍司令官ノ情況判斷ノ原案竝其ノ理由第一、第二、第三ニ述ヘタル所ノ如シ敵ハ兵力竝地形上機ヲ見テ戰術的攻勢ヲ取り得ル狀態ニ在ルヲ以テ縱令南山ノ陣地カ守勢的ニシテ多數ノ砲兵ヲ配置シ露軍カ消極的態度ニ出ツルカ如キ模樣アリト雖南山ヲ軸トシ其ノ北方殊ニ南方手灣沿岸ヨリスル攻勢竝南山ノ築城陣地ニヨリテ著シク我ニ損害ヲ與ヘ次テ曩ニ研究セルカ如ク斷然

南關嶺ノ線ヨリ攻勢ヲ取り得ヘキヲ以テ豫メ此諸點ニ着意シ南山攻撃ノ遂行ニ伴ヒ敵ノ企圖ヲ看破シ一ハ以テ南山奪取後敵ニ乘セラレサルニ努メ一ハ以テ徒ニ豫想的慎重ニ過キテ追撃ノ機會ヲ逸セサルニ努ムルヲ要ス

二、軍ノ主攻擊方面ハ敵陣地ノ弱點タル南山東北角方面竝南山西北正面東部ニ對シテハ我カ集中火ヲ施シ得ルト我カ海軍ノ協同ハ南山西北正面ニ對シ有力ナル援助射撃ヲ爲シ得ルト又一方ニ於テハ南山東正面ハ其ノ陣地ノ堅固ト特ニ手灣方面ヨリスル敵海軍ノ妨害竝大房身及其ノ以南ニ於ケル敵砲兵ノ配置上攻撃ニ有利ナラサルヲ顧慮シ其ノ主攻擊方面ヲ概シテ南山東北角ヨリ西北正面ノ東部ニ撰定シ敵ノ東正面陣地ニ對シテハ一部ヲ以テ攻撃セシムルヲ可トス然レトモ元來敵陣地ノ正面ハ狹小ナルト攻撃地域ノ大ナラサルト軍兵力ノ關係トハ各方面ニ對シ比較的有力ナル兵力ヲ攻撃ニ使用スルヲ得セシム

三、軍ノ攻撃ハ斯ノ如ク堅固ニシテ充分ナル障礙物ヲ有シ且狹少ナル集團堡壘的陣地ニ對シテハ地形及情況上最有利ニ我カ砲兵ノ火力ヲ集中シ得ヘキ情況ヲ利用シ海軍ト密ニ協力シ先ツ充分ナル砲火ヲ以テ敵砲兵ヲ壓倒シ次テ敵步兵陣地殊ニ主攻擊方面ノ敵陣地ヲ破壞シ然ル後步兵攻撃ヲ行ヒ以テ戰勝ノ條件ヲ確實ニスルヲ適當トス充分ナル砲火ノ準備ナクシテ行フ步兵攻撃ハ敵ヲシテ晏如トシテ依然堅固ナル半永久陣地ヲ頑守セシメ我損害益多ク此

ノ如クシテ我攻撃ハ成效スルコト甚タ難シ敵ノ堅固ナル築城ニ對スルト軍ノ重砲兵ヲ有セサルノ不利トハ一ハ海軍ノ協同ニヨリ一ハ豫メ充分ナル彈藥ヲ以テ我包圍圈内ニ於テ暴露セル砲兵陣地ヲ有スル彈巢的敵陣地ニ對シ先ツ敵砲兵ヲ壓倒シ之ヲ殲滅スルニ努メ次テ堅固ナル敵步兵陣地ヲモ逐次破壊シ次テ斷然タル歩兵攻撃ヲ行ハサルヘカラス斯ノ如キ特殊ナル半永久的陣地ニ對シ漫然野戰陣地ニ對スル攻撃法ヲ墨守シ歩砲兵ノ協同上砲兵ノ射擊開始ト步兵ノ攻撃前進トヲ同時ニ實施シ砲兵ノ充分ナル準備ナク步兵ノ攻撃ヲ遂行セムトスルカ如キハ甚タ不適當ナリ本情況ノ如キ場合ニ於テハ要塞攻撃ノ原則ヲ參照適用スルヲ可トス

四、攻撃準備陣地及占領部隊ノ採ルヘキ姿勢等ニ關シテハ後節五月二十五日午後三時三十分ニ於ケル第二軍命令ニ關スル研究ニ於テ意見ヲ陳述スヘキヲ以テ茲ニ説述セス
軍豫備隊ハ戰鬪ノ進捗ニ伴ヒ斷然タル兵力ヲ使用シテ攻撃遂行ヲ期スル大主旨ニ基キ全般ノ狀況竝攻撃地域ノ狀態ハ比較的大ナル豫備隊ヲ取り得ルヲ以テ余ハ兩師團ヨリ各步兵一聯隊ヲ豫備トシテ控置セムトス

此場合建制ノ旅團ヲ取ルカ又ハ別々ノ二聯隊ヲ取ルカハ稍研究ヲ要ス予ハ各師團長ヲシテ各部下ノ戰略單位ヲ指揮シテ戰鬪ヲ遂行セシメムトスル希望ト兩翼共ニ海ニ限界セラレ

一翼ニ兵力ヲ集團使用スルノ顧慮少キト余ノ戰鬪配備及地域上ヨリ兩師團ヨリ各一聯隊ヲ控置セリ凡ソ一軍旗ノ許ニ練成セラレ集結ノ基礎ヲナセル聯隊ノ合成ハ縱令戰況上之ヲ合使用スル場合ニ於テモ混成大隊又ハ聯隊ノ如キ不利ヲ生スルコトナシ建制旅團ヲ控置セサルヨリ生スル編成上ノ不利ハ蓋シ大ナラサルモノニシテ余ノ攻撃配備ヨリ建制一旅團ヲ控置セムトスルハ至難ナリ

第十四節 第十四問題「第二軍攻撃計畫並同攻撃命令ニ對スル所見」ノ原案大要

第二攻撃計畫及同攻撃命令ニ對スル所見

原案

原案

右ノ問題ニ就テハ既ニ前諸問題ニ於テ余ノ案ヲ述ヘタルヲ以テ茲ニハ所見ノ概要ト未タ説述セサル諸件ヲ左ニ示サムトス

一、攻撃計畫ニ關スル一般要領ニ就テ

五月二十三日夜ニ於ケル第二軍司令官ノ情況判斷並第二軍攻撃指導方針ニテ第二軍ノ攻撃策案ニ關スル余ノ意見ヲ示セリ第二軍司令官カ大本營ノ訓令ニ基キ北方面ノ情況未タ切迫

南山附近ノ戰鬪(七)

セサルニ先チ速ニ軍ノ主力ヲ以テ南山附近ヲ奪取シ、大連ヲ手中ニ握ラムト企畫セルハ適當ニシテ此攻撃時期ノ撰定ハ略適當ナルモノト認ム

攻撃ニ使用スヘキ兵力、北方面ニ殘置スヘキ部隊ノ兵力第五師團ノ運用並先ツ前線ヲ進メ攻撃ノ一般の準備ヲ行ヒ夜襲ヲ以テ金州ヲ一舉ニ奪取シ更ニ詳細ナル偵察ヲ行ヒ然ル後攻撃案ヲ策定スルコト又攻撃準備陣地ノ撰定、兵力區分及用法、各師團戰鬪地境、砲兵ノ運用(詳細ハ次ノ原案ニ示ス)軍豫備隊ノ兵力位置、攻撃開始、砲戰、敵歩兵陣地ニ對スル砲擊、攻撃遂行ノ考案、給養、彈藥補充並通信ニ關スル概要ノ意見、及海軍ト密接ナル協同ニ關シテハ既述意見ニヨリ明瞭ナルヲ以テ更ニ今第二軍ノ攻撃計畫案ト對照シ之ニ關シ更ニ余ノ意見ヲ詳細説述スルコトハ之ヲ省略ス

二、第二軍攻撃命令及攻撃計畫要領中前項記述外ノ二三所見

A、軍命令ニ就テ

1. 二十四日劉家店軍司令部ニ於テ第二軍攻撃計畫要領策定セラレ之ニ依リ攻撃命令發セラレタルモ實際ニ於テハ已ニ研究セル如ク一層前線ヲ進メ之カ偵察ノ結果ニ基キ攻撃計畫ヲ策定セラルルヲ可トス
2. 第二軍命令第一項ノ敵情ハ尙一層詳細ニ示スカ又ハ要圖ニヨリ情況ヲ明示セラルルヲ

可トセム尙北方面ノ現況ヲモ附加シ部下ヲシテ何等顧慮スルノ要ナキヲ知ラシムルヲ可ト信ス或ハ以前ノ命令ニヨリ下達シアランモ此事ハ攻撃ノ着手ニ方リ綜合的ニ其ノ最近ノ結果ヲ明示スルノ必要ニ基ク

二十五日艦隊カ南山ヲ砲擊スル如ク記載シアアルモ該砲擊ハ陸海軍協同動作ノ要點ナルヲ以テ攻撃計畫要領中一層詳細ニ海軍協力方針ノ大要ヲ記スルヲ可トス右海軍ノ協力ハ全ク陸軍攻撃計畫ニ則リ之ニ順應協力スルヲ本旨トセサル可ラス

3. 命令第二項ニハ二十五日ヨリ南山ノ敵ヲ攻撃スル如ク記載セラレ此日南山ノ攻撃ヲ遂行スルカ如クニモ又或ハ逐次攻撃スルカ如ク稍不分明ニ見ユ而シテ攻撃計畫要領第三期ノ動作ハ別命セラルルコトナレルヲ以テ攻撃遂行ハ本來二十五日ヨリ本攻ヲ實施スルヤ又ハ二十六日攻撃スヘキヤ軍ノ意圖明瞭ナラサルヲ以テ各部隊トシテハ此時期ノ遲速ニヨリテ其ノ動作ニ大ナル差違ヲ生ス然ルニ實際ニ於テ二十五日攻撃遂行ハ困難ナリ故ニ軍司令官最初ノ決心及爾後ノ目的ヲ明確ニ第二項ニ示スカ又ハ第二軍攻撃計畫要領ニ於テ這般ノ關係ヲ明示シ置クヲ可トセン

4. 一般問題トシテ考フルニ各團隊ニ攻撃計畫要領ヲ示シ攻撃ヲ遂行セシムヘキカ或ハ軍命令ヲ以テ情況ノ推移ニ應シ逐次各團隊ノ行動ヲ率スヘキヤハ諸種ノ情況ニ於テ能ク

南山附近ノ戰鬪(上)

考察セサルヘカラス戦況ノ變化ヲ豫期スル場合ニ於テ計畫要領ヲ規定下達スルハ不適當ナル場合多ク計畫ハ單ニ司令部内ニ止メ各團隊ノ行動ハ命令ヲ以テ規正シ唯必要ノ件ノミヲ内訓スルヲ可トス元來計畫要領ト雖モ各隊ノ行動ヲ之ニ準セシムル以上行動ニ多少ノ餘地ヲ與ヘタル一ノ命令ナリ從テ規定事項ニシテ不確實ナル場合ハ寧ロ之ヲ示ササルヲ可トス將來一々命令ヲ以テ之ヲ修正スル如キハ之ヲ避ケサルヘカラス然ルニ本情況ノ場合ニ於テハ敵ハ情況判斷上頗ル靜止的ニ又其活動地域制限セラレアルト現時ノ敵情ニヨリ大ナル活動ヲナササルヘキニヨリ此ノ如ク規定セラレタルナルヘシ

5. 二十五日ヨリ攻撃ヲ開始スル意圖アリトセハ尙更軍司令官カ十三里台子西南高地上ニ向ヒタルハ當時ノ情況上位置後退ニ過ク軍司令官ノ第一回前進地トシテモ尙前方ニ進出シ戰況ノ全般ヲ總觀シ得ル地ヲ撰定スルヲ可トセン

B 南山攻撃計畫要領ニ就テ

第一期

一 北方ヨリ二箇師團ヲ進メ南方老虎山以南ノ地區ヨリ一師團ヲ進メタル前進區分ハ適當ニシテ又第一期ニ於ケル前進ヲ夜暗ニ於テ行ハムトセシハ慎重ノ考案ナリ殊ニ師團ノ前進地域

ヲ示シ且占領線ヲ示セルハ組織的ナル軍ノ指導法ト認ム但各師團カ第一期ニ於テ負擔スヘキ任務ヲ一層明確ニ示スヲ可トス即チ諸偵察等攻撃準備ニ關スルコト是ナリ

二、砲兵ヲ以テ金州ヲ射撃セシムルコトニ關シテハ後節問題ヲ設ケ研究セシム要スルニ不適當ナリ砲擊スルトセハ統一ノ指揮トナシ比較的多數ノ砲兵ヲ用フルヲ可トス各隊ヨリ一部一部ニ各個ノ砲擊ハ不可ナリ尙第八ヲ參照スヘシ(計畫要領第一、第二項)

三、第三師團ノ位置稍後退ニ過ク前線ハ徐家屯附近迄進出セシムヘシ(計畫要領第三項)

四、砲兵旅團ノ位置モ後退ニ過ク(要領第四項)

五、第三師團長ヲシテ砲兵旅團ノ前進ヲ區處セシムル以上特ニ同旅團ニ部隊ヲ配屬スルノ必要ナク尙此掩護部隊ハ最後迄同旅團ニ附スル如ク見ユルモ其ノ必要ナシ同旅團ニ屬セル工兵第五大隊(一中隊欠)ハ南山攻撃ノ遂行ニ際シテハ勿論尙他ニ使用セサル可ラス(同第四項)

六、軍總豫備隊ノ兵力及位置ニ關シテハ既ニ研究シタルカ如シ(同第六項)

第二期

七、第一期ノ姿勢ニ於テ艦隊ノ砲擊ヲ待タシメシハ適當ナラス艦隊ノ砲擊ハ軍ノ攻撃展開後砲戰ノ時機ヨリ兩者ノ協同動作ヲ以テ行フヲ適當トス(同第七項)

八、艦隊トハ早くヨリ打合セヲナシ兩者ノ協同動作ヲ適切ニ實行シ得ル如ク充分ニ連絡ト協議

ヲ遂ケサルヘカラス此戰前ニ於ケル兩者ノ適切ナル協同連繫ハ當時充分ノ手段ヲ採ラレサ
リシカ如シ蓋シ兩者ノ罪ナリ(後節海軍ノ
情況參照)

九、金州ノ砲撃ハ效果ナキ無用ノ戰術行動ナルモ軍司令官ニシテ若二十五日ヨリ南山ノ本攻撃
ニ着手シ晝間軍ノ展開ヲ決行スル考ヲ有セシナラハ晝間金州略取ノ攻撃配備ヲ取り艦隊ヲ
シテ其ノ砲撃ニ參加セシメ攻撃部隊ニ斷然タル金州略取ノ任務ヲ與ヘサルヘカラス單ニ砲
撃ヲナサシムルノミニテハ不可ナリ(同第八項)砲撃ノミニテハ決シテ敵ハ退却セサルナリ
又此日ノ砲兵射撃ハ各師團各個ニ行フモノノ如シ此ノ如キハ適當ト認メ難シ此ノ如キ情況
ニ於テハ特ニ砲撃ノ目的ヲ明示スルヲ可トス

十、計畫要領第十二ヨレハ第二期ニ於テ砲兵陣地ヲ構成スル如ク見ユルモ各團隊カ第一期ノ姿
勢ニアル限り及金州ノ占領ノ行ハレサル限り軍ノ攻撃遂行ノ爲至當ニ敵ニ接近セル砲兵陣
地ヲ構成センコト困難ナリ但シ歩工兵ト砲兵トヲ協力セシメムトセシ精神ハ適當ナリ此砲
兵陣地ハ再度陣地變換ヲ成ルヘク避ケ成ルヘク同一陣地ヨリ其任務ヲ達成セシムル爲メ諸
隊ノ攻撃準備陣地展開期ニ陣地ノ構成及占領ヲ命スルヲ可トセン

十一、元來第九項ニ示サレタル砲兵陣地ハ本攻撃ノ爲ノ砲兵陣地ナラムモ其ノ指示茫漠ニシテ
砲兵ノ運用ハ其任務モ共ニ全然砲兵旅團長ニ委セラレタル如ク見ユ又内山旅團長ハ單獨ニ
命令ヲ下シ砲兵陣地ヲ定ムル如ク規定セラレ或ハ別ニ同旅團長ハ命令ヲ受ケタランモ各師
團ノ攻撃計畫及歩砲兵ノ協力上必要ナルヲ以テ一般的(詳細ハ偵察ノ結果ニ依ラサレ)砲
兵陣地占領ノ目的及概要ノ地域ヲ本計畫書内ニ示サルヲ適當ナリトセン

第三 期

十二、成ル可ク大體ノ攻撃準備陣地及占領時機ヲ示スヲ可トス又第三期ノ時期ニ於ケル動作ハ
軍司令官別ニ之ヲ指示スルコトトシテ各師團ニ委任セサリシハ攻撃ノ着手ヲ統一のニシ
兵力ノ運用ヲ適確且軍司令官ノ意圖ノ如ク實施スルコトヲ得ヘキヲ以テ頗ル適當ナル考慮
ニシテ機宜ヲ得タル軍ノ指導法トシテ賞讃ニ値スルモ亦一方ニ於テハ各師團ハ晝間遠距離
ヨリ攻撃前進ヲナスヘキカ或ハ二十五日晝間攻撃準備陣地ヲ占領スヘキカ或ハ此攻撃準備
陣地ハ夜暗ヲ利用シテ廿六日拂曉占領スヘキカハ重大ナル問題ニシテ各師團ヲシテ豫メ
軍大體ノ方針ニ則リ適當ニ攻撃計畫ヲ定メ得ル如クスルヲ可トセン

十三、攻撃ノ爲ノ兵力分配、師團ノ戰鬪地境(第一、第四師團ノ戰鬪地境ヲ金州東南端ト南山
東北端トセシコト並第一、第三師團ノ戰鬪地境ノ南方ニ偏シタルコト)及各師團ニ與フル
任務ニ關シテハ既ニ詳細ニ予ノ考案(軍ノ攻撃指導方針後章五月二十五日午後三時三十分
ニ於ケル軍命令ノ修正意見參照)ヲ述ヘタリト雖其ノ兵力分配ハ南山ノ東正面ニ多キニ

過キ南山ノ東北角及西北正面ニ充分ノ攻撃力ヲ用ヒ得サリシハ遺憾ナリ又各師團ニ與フヘキ任務ニ於テモ第三師團長ニ南山東正面ヲ包圍スル如ク攻撃セシメタルハ危險ナリ手灣方面ハ敵ノ攻撃及敵海軍ニ對シ特ニ同師團ヲシテ注意セシメサルヘカラス

十四、第一師團ヲ基準トシ各師團ノ攻撃ヲシテ之ニ連繫セシメムトスル基準師團的攻撃遂行ハ同意シ難シ

十五、金州ノ奪取ヲ第三期ニ於テ行フヲ本旨トセルカ如キモ是ハ初ヨリ第二期ニ於テ行フ如クセサルヘカラス(以上同第十二乃至第十四項)

十六、全砲兵ノ陣地占領ノ時期及射撃開始ノ時機(同第十五項)ト攻撃前進時機トノ關係トハ特ニ本攻撃ニ於テハ統一的着眼ヲ以テ律シ特殊ナル戰術的運用ヲ要ス

十七、之ヲ要スルニ第三期ノ姿勢ヲ取ル爲ニハ一旦夜暗ヲ利用シテ攻撃準備ノ展開ヲ行ヒ次テ整然攻撃ヲ實行スル如クスルヲ可トス

總 觀 察

此攻撃計畫ヲ通觀スルニ軍ノ攻撃計畫カ斷乎タル決心ニ基キ比較的組織的ニ立案セラレ攻撃ノ爲戰場ニ向フ前進ヲ慎重ニシ第三期ノ時機ヲ別示スルコトトシ攻撃實行ノ着手ヲ統一的ニ軍司令官ノ意圖ニ應スル如ク指導セムトスルノ考案即チ此時ニ於テ各師團ヲ更ニ

適切ニ運用シ得ルノ自由ヲ保持シタルコト、此時機ヨリ各師團ヲ斷然戰闘ニ從事セシメ軍攻撃ヲ統一且有力ニ指導セムトシタルハ築城陣地ノ攻撃ニ於ケル軍統帥ノ順序及要領上概シテ妥當ナル部署法ト認ム然レトモ攻撃方針、攻撃遂行ノ考案、南山攻撃ニ用キタル總兵力ノ尙少ナカリシコト、攻撃ニ於ケル海軍トノ協力ニ遺憾ノ點尠シトセス又特ニ第三期ニ於ケル基礎配備ヲ取ル要領、展開ノ時期、砲兵ノ運用明瞭ヲ缺キ且ツ其斷乎タル使用ニ遺憾ノ點アルハ既ニ述タル所ノ如シ恐ラク右攻撃計畫ヲ定メラレタル時期ニ於テハ是等ノ件ニ關シ充分確定スルコト困難ナル事情アリシナラトモ思考ス之レ攻撃計畫策定ハ偵察ノ結果ノ未タ充分ナラサルトキニ於テ行ハレシニ基ク又金州ノ略取ニ關スル着意不十分ナリシコト、攻撃ニ伴フ兵力分配比較的均一ニシテ砲兵ノ運用又南方ニ偏シ攻撃ノ重點ヲ認メ難キコト特ニ南山東北角方面ニ對スル斷乎タル攻撃配備ヲ缺キシト砲兵彈藥ノ準備不十分ニシテ豫メ砲兵ノ斷乎タル砲戰的準備ヲナスノ考案ナカリシハ同意ヲ表シ難キ點ナリトス南山奪取後ノ考案、北方ニ殘置スヘキ兵力等ニ關シテハ既ニ述ヘタルカ如シ又本計畫以外別ニ彈藥ノ補充、補給、給養、通信、交通等ニ關スル計畫アリシハ勿論ナルモ是等ノ要點ハ尙多少計畫中ニ指示スルヲ便トスルモノアリ當時特ニ彈藥ノ補給ニ關シ充分ナル準備ヲ缺キシハ攻撃精神ノ旺盛ニ伴ヒ敵ヲ輕視シ敵陣地ノ價值ヲ正當ニ評價セザリ

第十五節 第十五問題「砲兵使用及其ノ指揮ニ關スル所見」(但シ自己ノ考案ヲモ記スルヲ要ス)ニ對スル原案

原案

砲兵ノ使用及其ノ指揮ニ關スル考案

第一案 (余ノ攻撃計畫案ヲ基礎トセル砲兵使用及其ノ指揮)

- 一、二十六日拂曉軍ノ攻撃準備ノ線及砲兵陣地ノ位置ハ既ニ述ヘタル如シ(第十三節第二軍攻撃指導方針ノ原案參照)砲兵陣地占領ノ目的ヲ左ノ如ク定ム
 - 1、砲兵第四聯隊及同第十三聯隊ハ某大佐ノ指揮ニ屬シ主トシテ第四師團ノ攻撃地域ニ存スル堡壘、砲台、並司令塔ヲ又南山東北角方面ヲ充分射撃シ得ル如ク又一部ヲ以テ蘇家屯方面ヲ
 - 2、砲兵第一聯隊及同第十四聯隊ハ主トシテ南山北角方面(第一師團ノ攻撃地區)ノ堡壘及砲台ヲ射撃シ得ル如ク又砲兵第一聯隊ハ其ノ大部ヲ以テ同第十四聯隊ハ其ノ一部ヲ以テ南山西北正面ノ東部ヲ又同第十四聯隊ハ一部ヲ以テ第三師團攻撃正面ノ敵堡壘及

砲台ヲ射撃シ得ル如ク

- 3、砲兵第十五聯隊ハ主トシテ第三師團正面ノ敵堡壘、砲台ヲ、一部ヲ以テ南山東北角方面ヲ又同第三聯隊(一大隊欠)ハ主トシテ第三師團正面ノ敵堡壘、砲台ヲ、一部ヲ以テ大房身方面ノ敵砲兵ヲ射撃シ得ル如ク

- 二、全砲兵ハ最初内山少將ノ統一指揮ノ下ニアリテ砲戰ヲ行フ(砲兵第四第十三聯隊ハ某大佐之ヲ指揮ス)逐次主力ヲ以テ敵砲兵ヲ壓倒シタル後更ニ敵堡壘ノ破壊射撃ヲ行フ此際主攻撃方面ニ大威力ヲ傾注シ砲兵ノ一部ハ更ニ前方ニ陣地ヲ進ム、次テ各師團ノ攻撃前進ニ伴ヒ砲兵ハ師團長ニ分屬ス其ノ分屬關係ハ戰況ニヨリ差異アリト雖概要砲兵第四、第十三聯隊ハ第四師團長ニ、同第一聯隊ハ第一師團長ニ同第十四聯隊及同第十五聯隊(一大隊欠)ハ内山少將之ヲ指揮シテ第一師團長ニ、同第十五聯隊ノ一大隊及同第三聯隊ハ第三師團長ニ隸屬ヲ豫期ス

- 三、海軍ハ此砲戰ニ參與シ主トシテ南山凸角及西北正面特ニ敵ノ重砲兵ヲ壓倒スルコトヲ努メ攻撃前進後ハ第一、第四師團ノ攻撃殊ニ軍ノ主攻撃ヲ援助ス

- 四、特ニ右ノ戰鬪法ヲ願慮シ多數ノ彈藥ヲ使用シ得ル如ク充分ナル準備並通信ノ設備ニ努ム

第二案 (軍ノ原攻撃計畫ヲ基礎トスルモノ)

砲兵陣地ハ予ノ案ニ示シタル如ク一層南山ニ近ク前方ニ接近シテ陣地ヲ布置シ砲兵ノ主力ヲ一層北方面ニ移シ最初ノ砲戦間ハ金州以西ハ某大佐ノ指揮ニ屬シ其ノ他ハ内山少將直接之ヲ指揮シ全砲戦ヲ内山少將統一シテ指揮ス後各師團ノ前進ニ伴ヒ大要前述第一案ノ如ク各師團ニ分屬ス

意見ノ大要

其ノ二、砲兵使用及其ノ指揮ニ關スル意見ノ大要

- 一、攻撃計畫中ニ記入セラレタル砲兵ノ使用ニ關シテハ既ニ述ヘタルカ如シ
- 二、砲兵陣地ハ敵ヲ距ルコト遠大ナリ一層前進セシメ可成同一陣地ヨリ砲戦及歩兵ノ攻撃援助ヲナシ得ル如クスルヲ可トス
- 三、砲兵ノ配置ハ第三師團方面ニ對シ重キニ過ク
- 四、砲兵ノ指揮系統ニ關シテハ第二案ニ述ヘタル如クナルモ若此ノ如キ陣地ヲ占領セリトセハ砲戦間ハ砲兵第四聯隊及同第十三聯隊並同第一聯隊ト、其ノ他ノ砲兵トヲ以テ砲兵二集團ヲ形成シ内山少將之ヲ統率シ射撃目標ハ統一指揮ニヨリ砲戦ヲ指導スルヲ可トセン
- 五、砲兵ヲ各師團ニ分屬スル時期不明ナリ師團ノ攻撃前進ニ伴ヒ砲兵ヲ師團長ニ分屬セシムルヲ有利トス而シテ其ノ要領ハ前述ノモノニ準ス

六、砲兵ノ射撃目標ハ多クハ砲種ヲ以テ示サレタルモ適切ナラサル感アリ地點ヲ明示スルヲ便

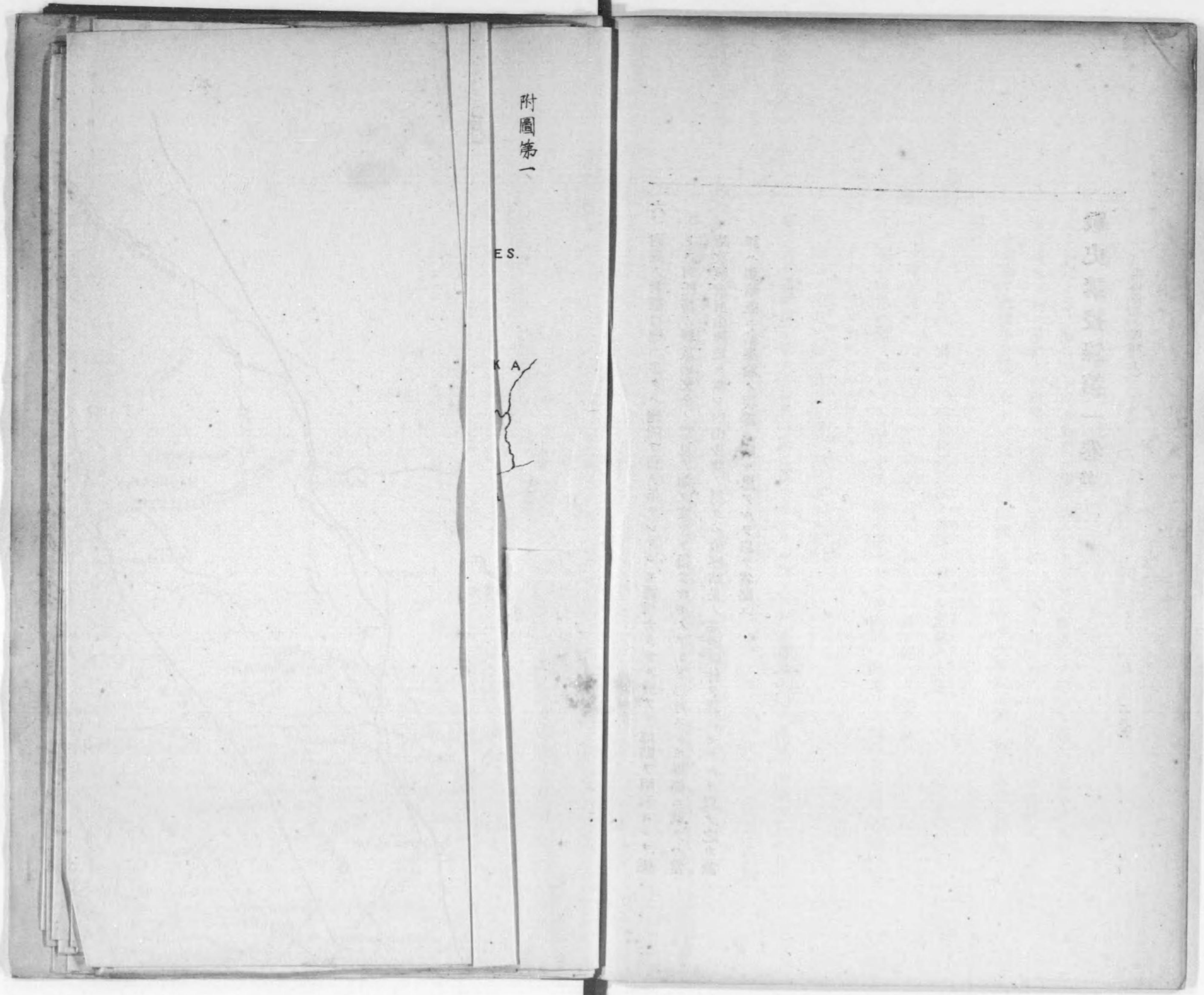
トス尙任務ノ輕重前文余ノ意見ノ如ク宜キヲ得サルモノアリト思考スルモ細部ニ就テハ當時攻撃前南山陣地ニ關シ内山少將ノ得タル偵察結果ノ基礎條件ヲ詳ニセサルヲ以テ之カ論評ハ獨斷並ニ結果論ノ誤謬ニ陥ル患アルヲ以テ省略ス

戰史講授錄第一卷終

附圖第一

ES.

KA



圖一第
圖見概地戰河南
(1899/1900)

附圖第一



圖二第
圖見概ルタナ部北

附圖第二

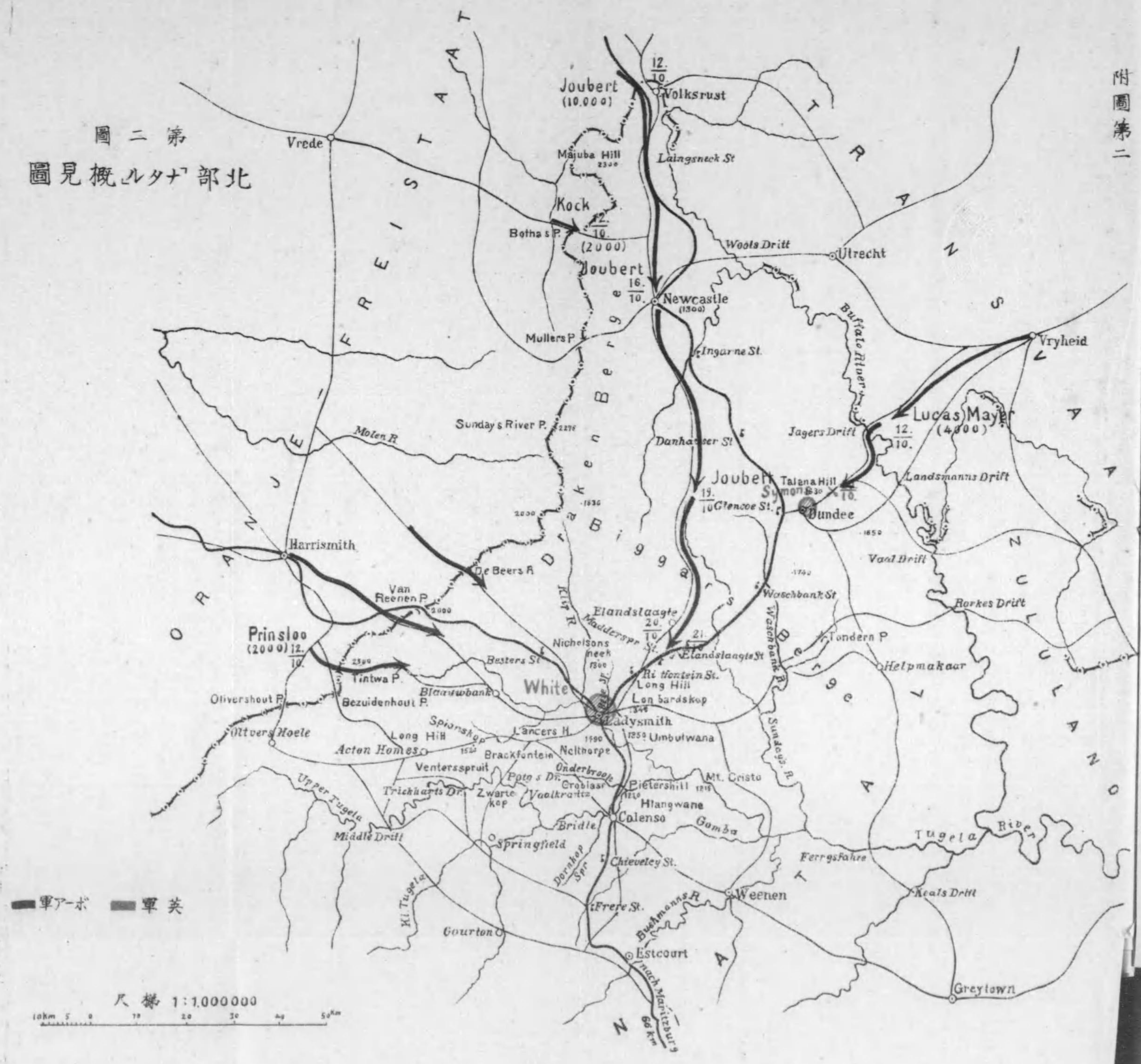
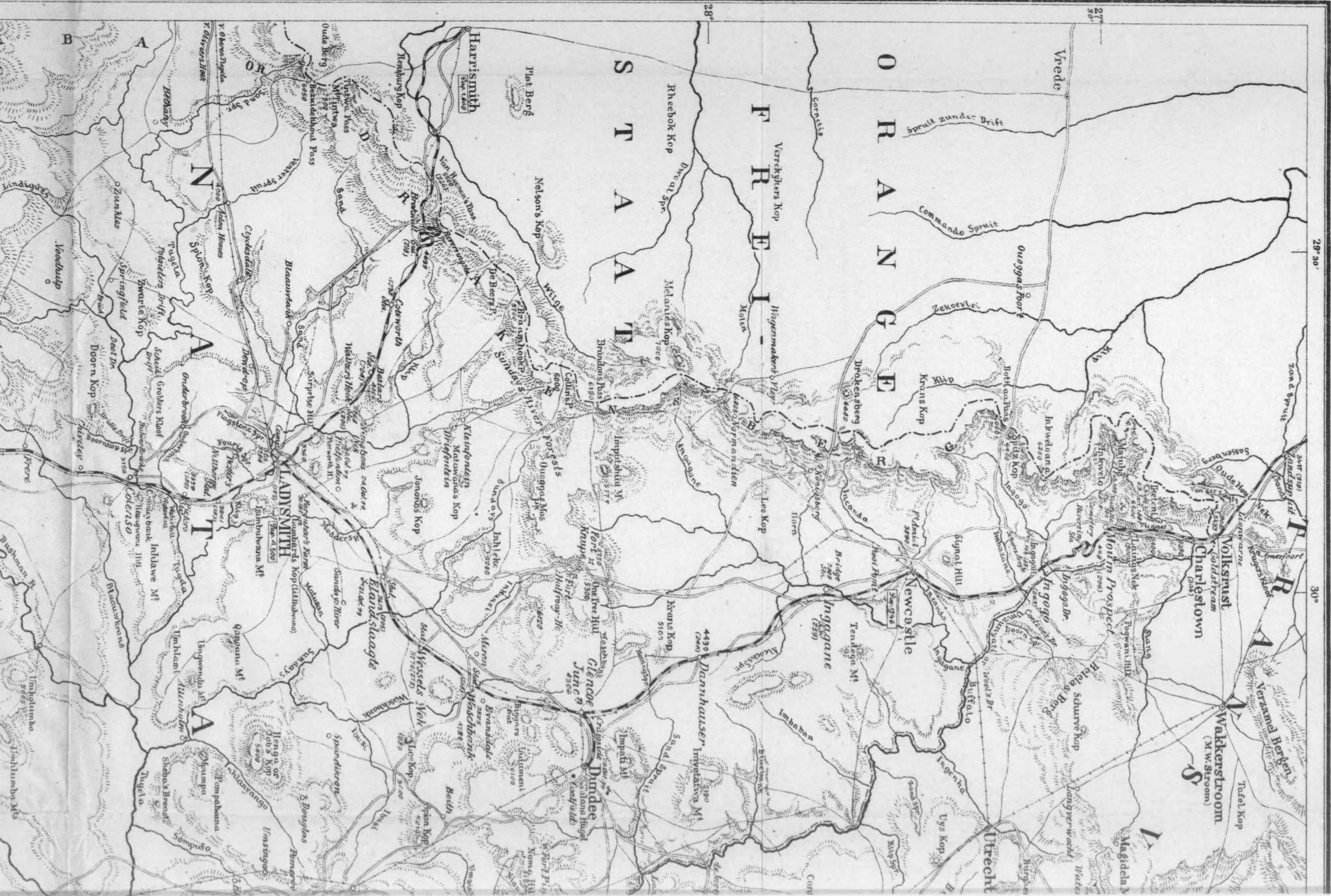
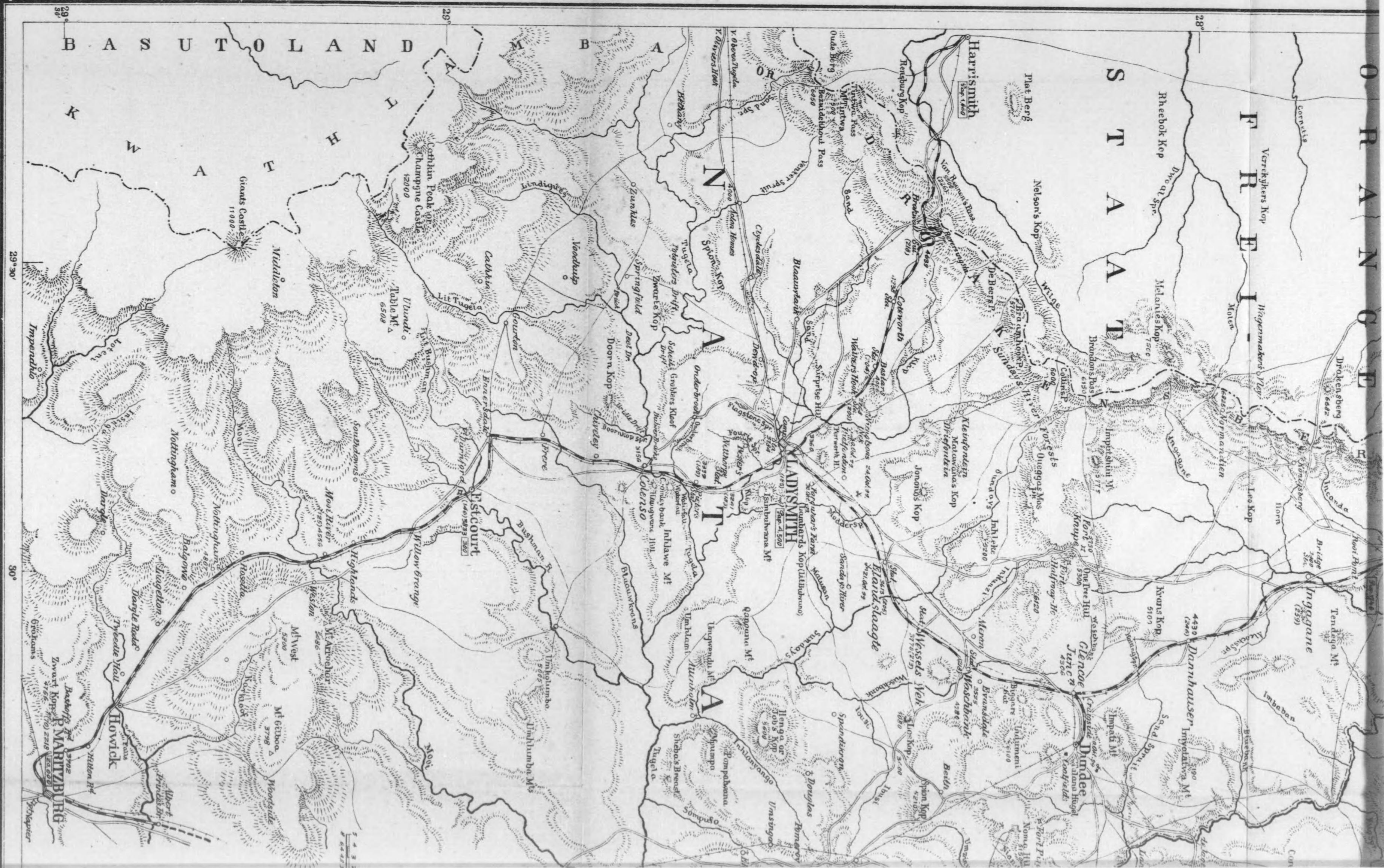




圖 三 第
NATAL





BASUTOLAND

FREE STATE

ORANGE

29° 30'

30°

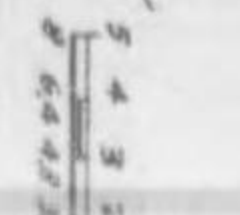
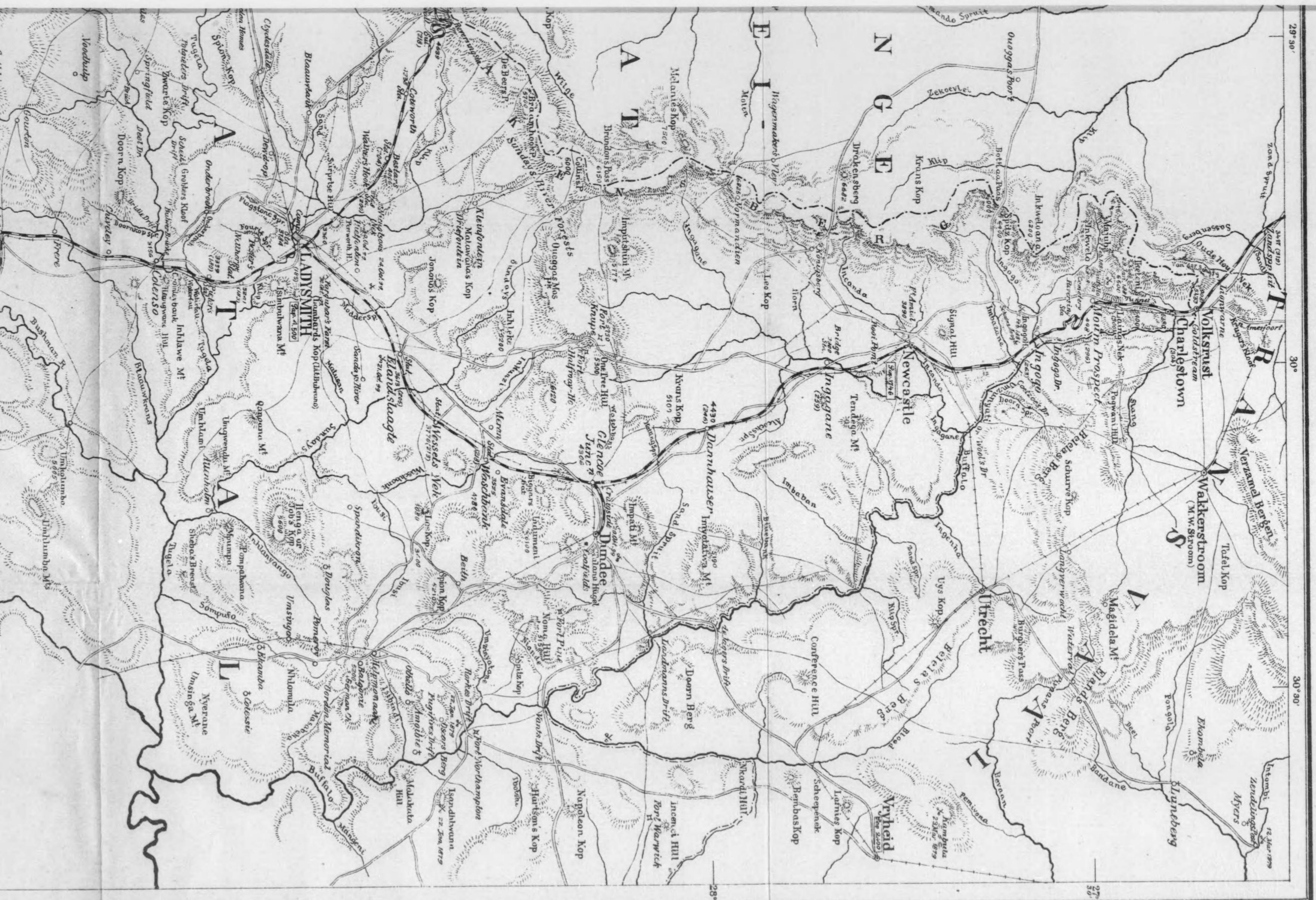
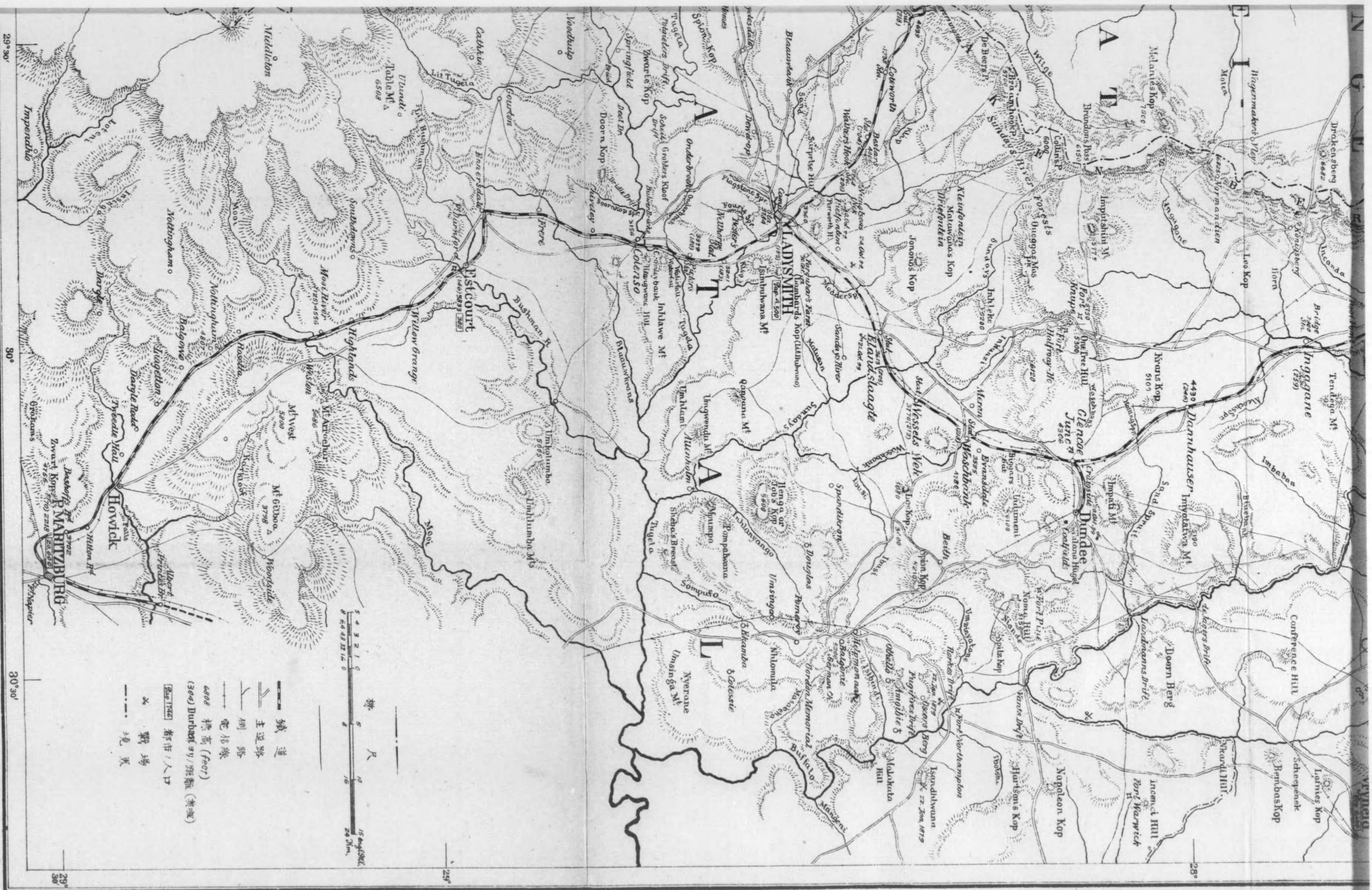
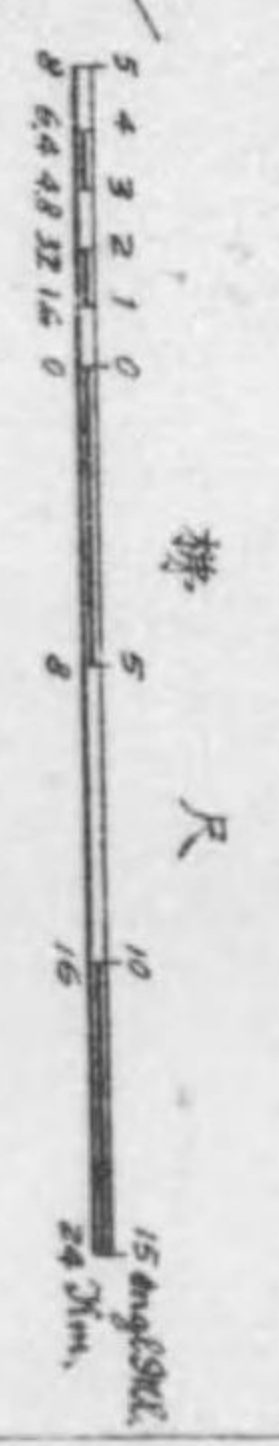


圖 三 第
NATAL





- 城道
- 主道路
- 副路
- 電路線
- 6000 標高 (foot)
- (3000) Durban 市 / 雅新 (英哩)
- ⊠ 1721 都市 / 人口
- * 戰場
- 境界



29° 30' 30° 28°

附圖第四

18

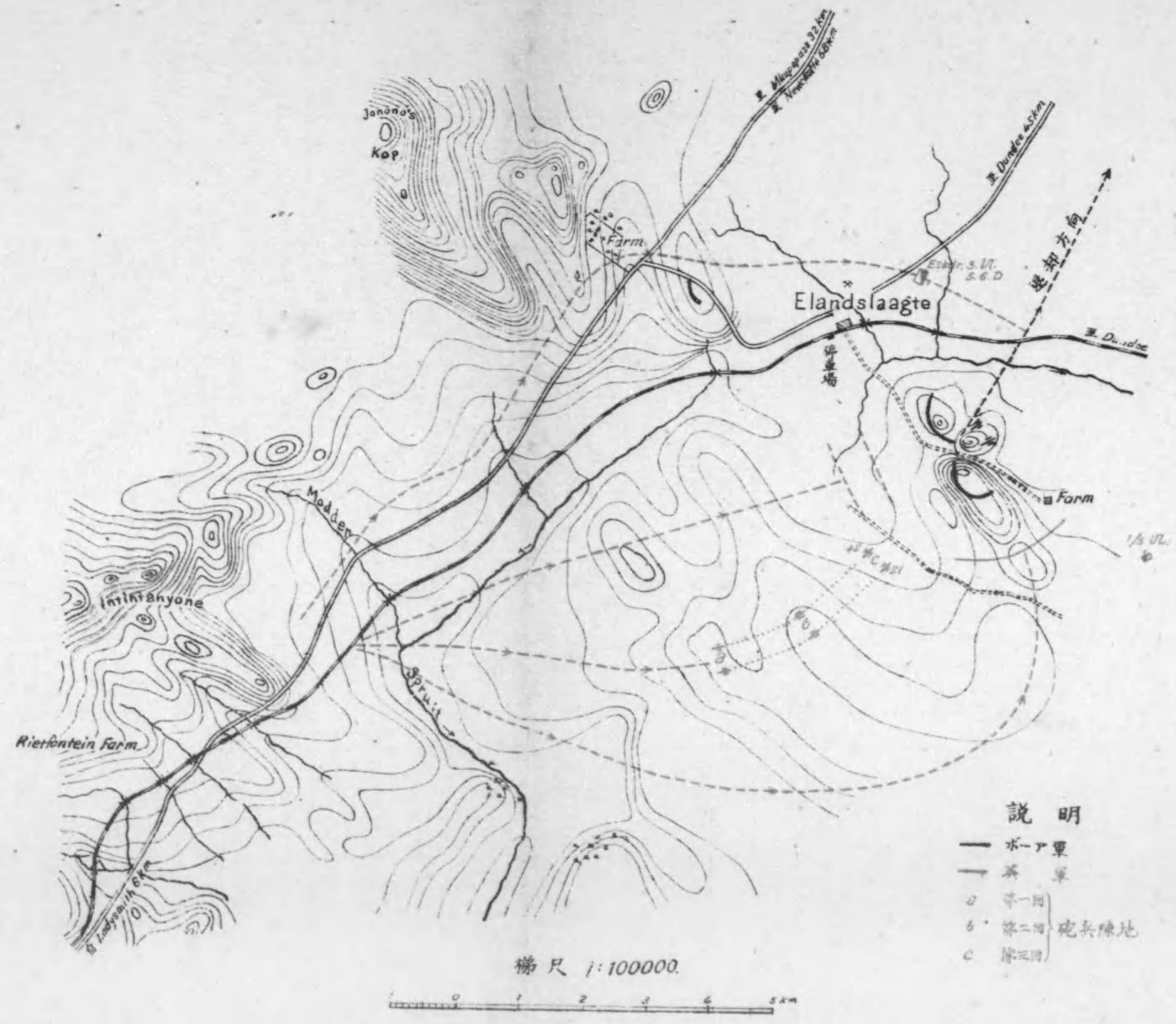
5 1/2

圖 四 第

Elandslaagte / 戰鬥

午後五時頃 / 狀況 (一千八百九十九年十月二十一日)

附圖第四

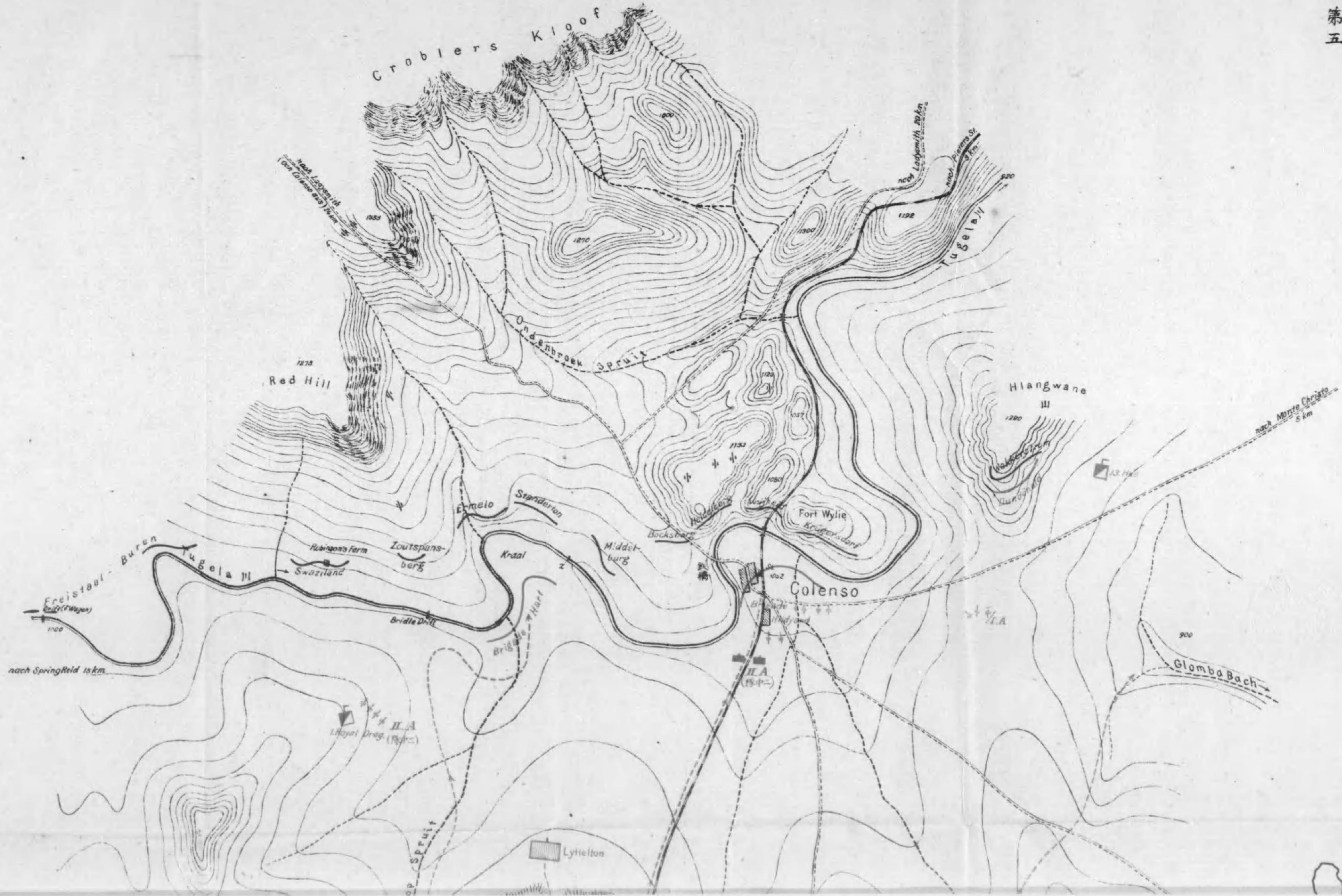


梯尺 1:100000

- 說明
- 水-下軍
 - - - 英軍
 - 第一砲
 - ⊗ 第二砲 砲兵陣地
 - ⊖ 第三砲

第五圖
 レソンの戦況
 一千八百九十二年十月五日
 午前七時頃ノ状況

附圖第五



附表第一

第二軍戰鬥序列

軍司令官陸軍大將 爵奧保
參謀長陸軍少將 落合三郎

野戰砲兵第一旅團	第四師團	第三師團	第一師團
旅團長 陸軍少將 內山小二郎	師團長 陸軍中將 野島大將 參謀長 陸軍中將 野島大將	師團長 陸軍中將 野島大將 參謀長 陸軍中將 野島大將	師團長 陸軍中將 野島大將 參謀長 陸軍中將 野島大將
野戰砲兵第三十聯隊	步兵第九旅團 步兵第九聯隊	步兵第七旅團 步兵第八聯隊	步兵第二旅團 步兵第二聯隊
隊大 二 第 隊大 一 第 隊中 六 第 隊中 五 第 隊中 四 第 列 隊 隊 隊 隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 	隊大 三 第 隊大 二 第 隊大 一 第 隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 隊大 三 第 隊大 二 第 隊大 一 第 隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 	隊大 三 第 隊大 二 第 隊大 一 第 隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 隊大 三 第 隊大 二 第 隊大 一 第 隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 	隊大 三 第 隊大 二 第 隊大 一 第 隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 隊大 三 第 隊大 二 第 隊大 一 第 隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第
野戰砲兵第四十聯隊	騎兵第四聯隊	騎兵第三聯隊	騎兵第一聯隊
隊大 二 第 隊大 一 第 隊中 六 第 隊中 五 第 隊中 四 第 列 隊 隊 隊 隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 	隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 	隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 	隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第
野戰砲兵第五十聯隊	野戰砲兵第四聯隊	野戰砲兵第三聯隊	野戰砲兵第一聯隊
隊大 二 第 隊大 一 第 隊中 六 第 隊中 五 第 隊中 四 第 列 隊 隊 隊 隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 	隊大 二 第 隊大 一 第 隊中 六 第 隊中 五 第 隊中 四 第 列 隊 隊 隊 隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 	隊大 二 第 隊大 一 第 隊中 六 第 隊中 五 第 隊中 四 第 列 隊 隊 隊 隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 	隊大 二 第 隊大 一 第 隊中 六 第 隊中 五 第 隊中 四 第 列 隊 隊 隊 隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第
工兵第四大隊	工兵第三大隊	工兵第一大隊	工兵第一大隊
隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 	隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 	隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第 	隊中 三 第 隊中 二 第 隊中 一 第
砲兵旅團重輜	師團重輜	師團重輜	師團重輜
野戰電訊隊 			
軍兵站部 兵站監 陸軍少將 瀨田 參謀長 陸軍中將 野島 			

一、將來作戰、進路ニ因リ野戰砲團二個及之ニ付屬スル部隊並ニ騎兵旅團一個ヲ増加スル事アルヘシ兵站部編成モ亦之ニ準ス
 二、野戰砲第一師團ニ一時機關砲隊各一隊ヲ配屬ス
 編者註記 步兵第三十七聯隊第三大隊ハ曩ニ臨時旅遺隊トシテ韓國ニ派遣セラレシ爲テ削除シ又工兵第四大隊ハ二月二十九日在
 韓國臨時軍用鐵道監ニ屬セラレ大阪ヲ出帆シ京義鐵道敷設ニ從事セリト雖モ戰時序列ニハ編入セラレ動員ヲ實施セリ
 機關砲一隊ハ各二十四門ニシテ之ヲ四小隊ニ編成ス第一師團ノモノヲ第一機關砲隊(第一乃至第四小隊)第三師團ノモノヲ第二
 機關砲隊(第五乃至第八小隊)ト稱ス

南山朝武英集卷之二

大正七年六月廿六日印刷
大正七年七月一日發行

陸軍大學校將校集會所

印發
刷行
者兼

印
刷
所

東京市麹町區四番町六番地

田
家
秀
樹

東京市神田區仲猿樂町十番地

忠
誠
堂
印
刷
所

319
401

終